

大学番号：私015

注3

[平成28年度設置]

計画の区分：学部の設置

注1

認可

東北医科薬科大学 医学部

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 東北医科薬科大学
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 医学部事務部 庶務課

職名・氏名 課長 ミナハラ 皆原 シンイチロウ 進一郎

電話番号 022-290-8841

（夜間） 022-290-8841

F A X 022-290-8860

e-mail igakubu-jimu@tohoku-mpu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

医学部

＜医学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	37
4. 既設大学等の状況	39
5. 教員組織の状況	40
6. 附帯事項等に対する履行状況等	76
7. その他全般的事項	81

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 東北医科薬科大学

(2) 大学名

東北医科薬科大学

(3) 調査対象大学等の位置

(小松島キャンパス)

〒981-8558

宮城県仙台市青葉区小松島四丁目4番1号

(福室キャンパス)

〒983-8536

仙台市宮城野区福室1丁目15番1号

(福室キャンパス・東北医科薬科大学病院)

〒983-8512

宮城県仙台市宮城野区福室一丁目12番1号

(東北医科薬科大学 若林病院)

〒984-8560

宮城県仙台市若林区大和町二丁目29番1号

(東北医科薬科大学 名取守病院)

〒981-1224

宮城県名取市増田一丁目9番12号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タカヤナギ モトアキ) 高柳 元明 (平成13年2月)	-	
学長	(タカヤナギ モトアキ) 高柳 元明 (平成13年2月)	-	
学部長	(フクダ ヒロシ) 福田 寛 (平成28年4月)	-	
学科長等	該当なし	-	

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
 (例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)
 令和元年度に報告する内容 → (元)
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
医学部 医学科 学士(医学)	医学関係	6年	100人	- 年次人	600人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	100人 (-) [-]	-人 (-) [-]	100人 (-) [-]	-人 (-) [-]	100人 (-) [-]	-人 (-) [-]	100人 (-) [-]	-人 (-) [-]					1.00倍	-	修学資金枠入学者数 ・ A方式: 35人 (宮城県枠30名、青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県各県1名ずつ) ・ B方式: 20人 (宮城県を除く東北5県一括合格20名)
志願者数	2,458 (-) [-]	- (-) [-]	2,240 (-) [-]	- (-) [-]	1,873 (-) [-]	- (-) [-]	1,740 (-) [-]	- (-) [-]							
受験者数	2,278 (-) [-]	- (-) [-]	2,042 (-) [-]	- (-) [-]	1,673 (-) [-]	- (-) [-]	1,575 (-) [-]	- (-) [-]							
合格者数	297 (-) [-]	- (-) [-]	256 (-) [-]	- (-) [-]	227 (-) [-]	- (-) [-]	281 (-) [-]	- (-) [-]							
B 入学者数	100 (-) [-]	- (-) [-]	100 (-) [-]	- (-) [-]	100 (-) [-]	- (-) [-]	100 (-) [-]	- (-) [-]							
入学定員超過率 B/A	1.00		1.00		1.00		1.00								

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	100 [-] (-)	- [-] (-)	100 [-] (-)	- [-] (-)	104 [-] (4)	- [-] (-)	101 [-] (1)	- [-] (-)					
2年次			99 [-] (-)	- [-] (-)	98 [-] (2)	- [-] (-)	103 [-] (4)	- [-] (-)					
3年次					97 [-] (-)	- [-] (-)	97 [-] (1)	- [-] (-)					
4年次							97 [-] (-)	- [-] (-)					
5年次													
6年次													
計	100 [-] (-)		199 [-] (-)		299 [-] (6)		398 [-] (6)						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	100 人	1 人	平成28年度	1 0 人	0 人	
平成29年度	199 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
平成30年度	299 人	1 人	平成28年度	1 0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	398 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計	398 人	2 人				

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{100} = \boxed{1} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{199} = \boxed{0} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{299} = \boxed{0.33} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{398} = \boxed{0.00} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<医学部 医学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	倫理学	1前	1								1	
	心の科学	1前	1								1	
	現代社会と人間	1前	1								1	
	大学基礎論	1前	1								11	
	スポーツ科学（体育実技）	1前	1								2	
	哲学	1後		1							1	
	経済学	1後		1							1	
	法学	1後		1							1	
	科学と歴史	1後		1							1	
	人と文化	1後		1							1	
	文章論	1後		1							1	
	からだと健康	1後		1							2	
基礎 教養 科目	数学Ⅰ（基礎編）	1前	1								1	
	数学Ⅱ（応用・統計編）	1後	1								1	
	医学英語Ⅰ	1前	1								2	
	医学英語Ⅱ	1後	1								2	
	医学英語Ⅲ	2前	1								1	
	医学英語Ⅳ	2後	1								2	
	医学英語Ⅴ	3前	1								2	
	医学英語Ⅵ	3後	1								2	
	ドイツ語Ⅰ	1前		1							1	
	ドイツ語Ⅱ	1後		1							1	
	フランス語Ⅰ	1前		1							1	
	フランス語Ⅱ	1後		1							1	
	中国語Ⅰ	1前		1							1	
	中国語Ⅱ	1後		1							1	
	小計（26科目）	—	—	13	13		0	0	0	0	0	21
	【9001】基礎物理学	1前	1									1

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	倫理学	1前	1								1	
	心の科学	1前	1								2	
	現代社会と人間	1前	1					1			1	
	大学基礎論	1前	1					1			12	
	スポーツ科学（体育実技）	1前	1								3	
	哲学	1後		1							1	
	経済学	1後		1							1	
	法学	1後		1							1	
	科学と歴史	1後		1							1	
	人と文化	1後		1							1	
	文章論	1後		1							2	
	からだと健康	1後		1							3	
基礎 教養 科目	数学Ⅰ（基礎編）	1前	1								1	
	数学Ⅱ（応用・統計編）	1後	1								1	
	医学英語Ⅰ	1前	1								2	
	医学英語Ⅱ	1後	1								2	
	医学英語Ⅲ	2前	1								2	
	医学英語Ⅳ	2後	1								2	
	医学英語Ⅴ	3前	1					1			2	
	医学英語Ⅵ	3後	1					1			2	
	ドイツ語Ⅰ	1前		1							1	
	ドイツ語Ⅱ	1後		1							1	
	フランス語Ⅰ	1前		1							1	
	フランス語Ⅱ	1後		1							1	
	中国語Ⅰ	1前		1							1	
	中国語Ⅱ	1後		1							1	
	小計（26科目）	—	—	13	13		2	1	0	0	0	24
	【9001】基礎物理学	1前	1									1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
準備教育科目	【9002】基礎化学	1前	1					1				
	【9003】基礎生物学	1前	1				1					
	【9004】情報科学	1前	1								3	
	【9005】行動心理学	1前	1								1	
	【9006】基礎物理学実習	1前	0.5								1	
	【9007】基礎化学実習	1前	0.5			1		1	1			
	【9008】基礎生物学実習	1前	0.5			1	1		1			
	【9009】情報科学実習	1前	0.5									3
小計(9科目)	—	7			2	1	1	2	0	5		
基本事項	【1000】医学概論	1前	1			2	1					
	【1001】医療安全学	1後	1				1					
	【1002】医療コミュニケーション学	1後	1			1						
	【1003】患者安全・医療倫理学	4前	1			1						
	【1004】早期医療体験学習	1前	1			1			10			
	【1005】チーム医療体験学習	1後	1			1			9			
	【1006】課題研究	3通	4			1						
小計(7科目)	—	10			3	2	0	19	0			
社会医学	【2000】衛生学	1後	1			1						
	【2001】地域医療学	2前	1				1				1	
	【2002】介護・在宅医療学	2後	1				2					
	【2003】公衆衛生学	2後	1						1			
	【2004】医事法学	3前	1			1	1		2			
	【2005】医療管理学	3後	1			1						
	【2006】法医学	3後	1			1			1			
	【2007】衛生学体験学習	1後	1			1			2			
	【2008】僻地・被災地医療体験学習Ⅰ	2前	0.5			1	3		6			
	【2009】僻地・被災地医療体験学習Ⅱ	3前	0.5			1	3		5			
	【2010】介護・在宅医療体験学習	2後	1			1	3		5			
小計(11科目)	—	10			4	4	0	16	0	1		
	【3000】細胞生物学	1後	1					1				
	【3001】遺伝学	2前	1			2						
	【3002】医化学	1後	2			1		1				
	【3003】免疫学	2後	1			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
準備教育科目	【9002】基礎化学	1前	1			1	1	1	1			
	【9003】基礎生物学	1前	1			2	2		1			
	【9004】情報科学	1前	1								4	
	【9005】行動心理学	1前	1								1	
	【9006】基礎物理学実習	1前	0.5			1	1		1		3	
	【9007】基礎化学実習	1前	0.5			1	1	1	1			
	【9008】基礎生物学実習	1前	0.5			3	2		3			
	【9009】情報科学実習	1前	0.5									4
	小計(9科目)	—	7			5	3	1	5	0	8	
基本事項	【1000】医学概論	1前	1			3						1
	【1001】医療安全学	1後	1				1					
	【1002】医療コミュニケーション学	1後	1			4	1		1		4	
	【1003】患者安全・医療倫理学	4前	1				1				1	
	【1004】早期医療体験学習	1前	1			3	1	1	7		10	
	【1005】チーム医療体験学習	1後	1			4	3	2	5		5	
	【1006】課題研究	3通	4			2						
小計(7科目)	—	10			9	4	3	13	0	20		
社会医学	【2000】衛生学	1後	1			1				2		
	【2001】地域医療学	2前	1				1				2	
	【2002】介護・在宅医療学	2後	1				2				2	
	【2003】公衆衛生学	2後	1				1			2		
	【2004】医事法学	3前	1			1	1		3			
	【2005】医療管理学	3後	1			1						
	【2006】法医学	3後	1			1				2		2
	【2007】衛生学体験学習	1後	1			1				2		1
	【2008】僻地・被災地医療体験学習Ⅰ	2前	0.5			1	3	1	7			
	【2009】僻地・被災地医療体験学習Ⅱ	3前	0.5			1	3	1	6			
	【2010】介護・在宅医療体験学習	2後	1			1	3	2	6			
小計(11科目)	—	10			4	4	4	20	0	7		
	【3000】細胞生物学	1後	1			1	1	1				
	【3001】遺伝学	2前	1			1		1	1			
	【3002】医化学	1後	2			1		1	1		2	
	【3003】免疫学	2後	1			1	1	1	1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎医学	【3004】放射線基礎医学	1後	1			1						
	【3005】解剖学	2前	2			1						
	【3006】神経解剖学	2前	1				1					
	【3007】組織学	2前	1				1					
	【3008】発生学	1後	1			1						
	【3009】微生物学Ⅰ	2前	1			1						
	【3010】微生物学Ⅱ	2前	1				1					
	【3011】生理学	2後	3			1						
	【3012】神経生理学	2後	1			1						
	【3013】薬理学	2後	2			1						
	【3014】病理学	3前	2			1	2					
	【3015】免疫学実習	2後	1			1		1	1			
	【3016】医化学実習	1後	1			1		1	1			
	【3017】放射線基礎医学体験学習	1後	1			1	1		1			
	【3018】解剖学実習	2前	5			1	1		2			
	【3019】微生物学実習	2前	1			1	1					
	【3020】組織学実習	2前	1			1	1		2			
	【3021】薬理学実習	2後	1			1	1		1			
	【3022】生理学実習	2後	1			2	2		2			
	【3023】病理学実習	3前	2			1	2		2			
小計(24科目)	—	—	35			9	8	2	10	0		
基礎医学	【4000】呼吸器学(内科・外科)	2後	3			3	2					
	【4001】腎・泌尿器学	2後	2			1	2	1				
	【4002】循環器学(内科・外科)	2後	3			1	2					
	【4003】消化器学(内科・外科)	2後	3			2	5					
	【4004】神経学(内科・外科)	3前	3			1	3					
	【4005】精神科学	3前	1			1	2					
	【4006】内分泌学・代謝学	3前	2			1	1	2				
	【4007】産科学・婦人科学	3前	2			1	2					
	【4008】小児科学	3前	2			1	1					
	【4009】整形外科学	3前	2			1						
	【4010】全身管理学	3前	1			1	2	2				
	【4011】麻酔学	3前	1					1	1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎医学	【3004】放射線基礎医学	1後	1			2	1					1
	【3005】解剖学	2前	2			2	1			2		
	【3006】神経解剖学	2前	1			2	1			2		
	【3007】組織学	2前	1			2	1			2		
	【3008】発生学	1後	1			2				1		
	【3009】微生物学Ⅰ	2前	1			1	1			1		
	【3010】微生物学Ⅱ	2前	1			1	1			1		
	【3011】生理学	2後	3			1				2		
	【3012】神経生理学	2後	1			1	1					
	【3013】薬理学	2後	2			1	1					2
	【3014】病理学	3前	2			1	1	1				2
	【3015】免疫学実習	2後	1			1		1	1			
	【3016】医化学実習	1後	1			1		1	1			
	【3017】放射線基礎医学体験学習	1後	1			2	1		1			
	【3018】解剖学実習	2前	5			2	1		2			1
	【3019】微生物学実習	2前	1			1	1		1			
	【3020】組織学実習	2前	1			2	1		2			
	【3021】薬理学実習	2後	1			1	1		1			
	【3022】生理学実習	2後	1			2	2		3			
	【3023】病理学実習	3前	2			1	1	1	2			1
小計(24科目)	—	—	35			11	7	3	12	0	8	
基礎医学	【4000】呼吸器学(内科・外科)	2後	3			7	1					
	【4001】腎・泌尿器学	2後	2			2	1	1	1			
	【4002】循環器学(内科・外科)	2後	3			2	1	4	1			
	【4003】消化器学(内科・外科)	2後	3			3	5	2				
	【4004】神経学(内科・外科)	3前	3			3	3	1				2
	【4005】精神科学	3前	1			1	3		1			
	【4006】内分泌学・代謝学	3前	2			3	2		2			
	【4007】産科学・婦人科学	3前	2			1	3					1
	【4008】小児科学	3前	2			1			2			5
	【4009】整形外科学	3前	2			3	2					1
	【4010】全身管理学	3前	1			4	1					1
	【4011】麻酔学	3前	1			2		2	1			2

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
臨床医学	【4012】臨床免疫・アレルギー学	3後	1			1						
	【4013】血液学	3後	2			1						
	【4014】皮膚科学	3後	1			1	1					
	【4015】眼科学	3後	1			1						
	【4016】耳鼻咽喉科学	3後	1			1	1					
	【4017】放射線医学	3後	2			2						
	【4018】災害医療学	3後	1			1						
	【4019】環境疾病学	3後	1			2	2					
	【4020】乳房外科学	3後	1			2						
	【4021】臨床検査学	3後	1			1						
	【4022】感染症学	3後	1			1						
	【4023】臨床薬理学	4前	1			1						
	【4024】腫瘍学	4前	1			1						
	【4025】高齢者医学	4前	1			1						
	【4026】救急・災害医療体験学習	3後	1			1	1	6				
	【4027】被ばく医療演習	3後	0.5			3	2	4				
	【4028】臨床分子遺伝学	4前		1		2	2					
【4029】移植医療学	4前		1		1	1	2					
【4033】救急医療学	3前	1			1							
【4034】医療薬学概論	3前	1									6	
小計（32科目）	—	44.5	2		24	34	7	11	0		6	
前臨床実習	【4030】症候学	4前	3			7	13					
	【4031】基礎-臨床統合演習	4前	19			24	15					
	【4032】基本的診療技能	4前	2			14	11					
	小計（3科目）	—	24			26	18	0	0	0		
臨床実習	【5000】総合診療学演習	6前	6			12	27	19	26			
	【5001】診療科臨床実習	4後~5後	64			21	38	23	48			
	【5002】地域総合診療実習	6前	2			1	3		1		1	
	【5003】地域包括医療実習	6前	4			1	3		1			
	小計（4科目）	—	76			21	38	23	48	0	1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
臨床医学	【4012】臨床免疫・アレルギー学	3後	1			1						1
	【4013】血液学	3後	2			1		1				1
	【4014】皮膚科学	3後	1			1						
	【4015】眼科学	3後	1			1	1					
	【4016】耳鼻咽喉科学	3後	1			1	2	2				3
	【4017】放射線医学	3後	2			2						4
	【4018】災害医療学	3後	1			1				1		
	【4019】環境疾病学	3後	1			2	1					1
	【4020】乳房外科学	3後	1			2	1					
	【4021】臨床検査学	3後	1			1						
	【4022】感染症学	3後	1			1						1
	【4023】臨床薬理学	4前	1			1	2					1
	【4024】腫瘍学	4前	1			1						
	【4025】高齢者医学	4前	1			1	1		1			3
	【4026】救急・災害医療体験学習	3後	1			1				9		
	【4027】被ばく医療演習	3後	0.5			3	2	4				1
	【4028】臨床分子遺伝学	4前		1		6	1					1
【4029】移植医療学	4前		1		3		3					
【4033】救急医療学	3前	1			1							
【4034】医療薬学概論	3前	1									7	
小計（32科目）	—	44.5	2		40	31	14	21	0		35	
前臨床実習	【4030】症候学	4前	3			13	8					
	【4031】基礎-臨床統合演習	4前	19			34	11	2				
	【4032】基本的診療技能	4前	2			21	7	11				1
	小計（3科目）	—	24			37	14	11	0	0		1
臨床実習	【5000】総合診療学演習	6前	6			23	26	22	25			
	【5001】診療科臨床実習	4後~5後	64			36	35	35	72			
	【5002】地域総合診療実習	6前	2			1	3		1		1	
	【5003】地域包括医療実習	6前	4			1	3		1			
	小計（4科目）	—	76			36	35	35	72	0	1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
統括講義	【6001】統括講義	6後	36			23	20	1			
	小計（1科目）	—	36			23	20	1	0	0	0
合計（117科目）		—	255.5	15	0	34	49	27	63	0	31
卒業要件及び履修方法											
必修科目255.5単位 選択科目7単位以上 （基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上） 所要単位262.5単位以上修得すること											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
統括講義	【6001】統括講義	6後	36			35	11				
	小計（1科目）	—	36			35	11	0	0	0	0
合計（117科目）		—	255.5	15	0	51	44	39	91	0	100
卒業要件及び履修方法											
必修科目255.5単位 選択科目7単位以上 （基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上） 所要単位262.5単位以上修得すること											

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	倫理学	1前	1								1	
	心の科学	1前	1								1	
	現代社会と人間	1前	1								1	
	大学基礎論	1前	1			1					11	
	スポーツ科学（体育実技）	1前	1								3	
	哲学	1後		1							1	
	経済学	1後		1							1	
	法学	1後		1							1	
	科学と歴史	1後		1							1	
	人と文化	1後		1							1	
	文章論	1後		1							1	
	からだと健康	1後		1							2	
基礎 教養 科目	数学Ⅰ（基礎編）	1前	1								1	
	数学Ⅱ（応用・統計編）	1後	1								1	
	医学英語Ⅰ	1前	1								2	
	医学英語Ⅱ	1後	1								2	
	医学英語Ⅲ	2前	1								1	
	医学英語Ⅳ	2後	1								2	
	医学英語Ⅴ	3前	1								2	
	医学英語Ⅵ	3後	1								2	
	ドイツ語Ⅰ	1前		1							1	
	ドイツ語Ⅱ	1後		1							1	
	フランス語Ⅰ	1前		1							1	
	フランス語Ⅱ	1後		1							1	
	中国語Ⅰ	1前		1							1	
	中国語Ⅱ	1後		1							1	
	小計（26科目）	—	—	13	13		1	0	0	0	0	22

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	倫理学	1前	1								1	
	心の科学	1前	1								1	
	現代社会と人間	1前	1								2	
	大学基礎論	1前	1			1					11	
	スポーツ科学（体育実技）	1前	1								3	
	哲学	1後		1							1	
	経済学	1後		1							1	
	法学	1後		1							1	
	科学と歴史	1後		1							1	
	人と文化	1後		1							1	
	文章論	1後		1							2	
	からだと健康	1後		1							2	
基礎 教養 科目	数学Ⅰ（基礎編）	1前	1								1	
	数学Ⅱ（応用・統計編）	1後	1								1	
	医学英語Ⅰ	1前	1								2	
	医学英語Ⅱ	1後	1								2	
	医学英語Ⅲ	2前	1								2	
	医学英語Ⅳ	2後	1								2	
	医学英語Ⅴ	3前	1								2	
	医学英語Ⅵ	3後	1								2	
	ドイツ語Ⅰ	1前		1							1	
	ドイツ語Ⅱ	1後		1							1	
	フランス語Ⅰ	1前		1							1	
	フランス語Ⅱ	1後		1							1	
	中国語Ⅰ	1前		1							1	
	中国語Ⅱ	1後		1							1	
	小計（26科目）	—	—	13	13		1	0	0	0	0	26

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
準備教育科目	【9001】基礎物理学	1前	1								1
	【9002】基礎化学	1前	1			1		1	1		
	【9003】基礎生物学	1前	1			1			1		
	【9004】情報科学	1前	1								4
	【9005】行動心理学	1前	1								1
	【9006】基礎物理学実習	1前	0.5								6
	【9007】基礎化学実習	1前	0.5			1		1	1		
	【9008】基礎生物学実習	1前	0.5			1			2		
	【9009】情報科学実習	1前	0.5								4
小計(9科目)	—	7			2	0	1	3	0	7	
基本事項	【1000】医学概論	1前	1			2	1				
	【1001】医療安全学	1後	1				1				
	【1002】医療コミュニケーション学	1後	1			4		1	1		2
	【1003】患者安全・医療倫理学	4前	1			1					
	【1004】早期医療体験学習	1前	1			1			10		
	【1005】チーム医療体験学習	1後	1			2			9		1
	【1006】課題研究	3通	4			1					
小計(7科目)	—	10			6	2	1	20	0	3	
社会医学	【2000】衛生学	1後	1			1			2		
	【2001】地域医療学	2前	1				1				1
	【2002】介護・在宅医療学	2後	1				2				
	【2003】公衆衛生学	2後	1						1		
	【2004】医事法学	3前	1			1	1		2		
	【2005】医療管理学	3後	1			1					
	【2006】法医学	3後	1			1			2		
	【2007】衛生学体験学習	1後	1			1			2		
	【2008】僻地・被災地医療体験学習Ⅰ	2前	0.5			1	3		7		
	【2009】僻地・被災地医療体験学習Ⅱ	3前	0.5			1	4		5		
	【2010】介護・在宅医療体験学習	2後	1			1	3	1	6		
小計(11科目)	—	10			4	5	1	19	0	1	
	【3000】細胞生物学	1後	1			1		1			
	【3001】遺伝学	2前	1			2					
	【3002】医化学	1後	2			1		1		4	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
準備教育科目	【9001】基礎物理学	1前	1								1
	【9002】基礎化学	1前	1			1		1			
	【9003】基礎生物学	1前	1			3	1		1		
	【9004】情報科学	1前	1								4
	【9005】行動心理学	1前	1								1
	【9006】基礎物理学実習	1前	0.5			1	1		1		4
	【9007】基礎化学実習	1前	0.5			1		1	1		
	【9008】基礎生物学実習	1前	0.5			3	1		2		1
	【9009】情報科学実習	1前	0.5								4
小計(9科目)	—	7			5	2	1	4	0	11	
基本事項	【1000】医学概論	1前	1			3	0				
	【1001】医療安全学	1後	1				1				
	【1002】医療コミュニケーション学	1後	1			4		1	1		3
	【1003】患者安全・医療倫理学	4前	1			1					
	【1004】早期医療体験学習	1前	1			2			10		10
	【1005】チーム医療体験学習	1後	1			3	1	1	8		5
	【1006】課題研究	3通	4			1					
小計(7科目)	—	10			8	2	1	19	0	18	
社会医学	【2000】衛生学	1後	1			1			1		
	【2001】地域医療学	2前	1				1				4
	【2002】介護・在宅医療学	2後	1				2				2
	【2003】公衆衛生学	2後	1						1		
	【2004】医事法学	3前	1			1	1		2		
	【2005】医療管理学	3後	1			1					
	【2006】法医学	3後	1			1			2		
	【2007】衛生学体験学習	1後	1			1			2		
	【2008】僻地・被災地医療体験学習Ⅰ	2前	0.5			1	3		4		
	【2009】僻地・被災地医療体験学習Ⅱ	3前	0.5			1	3	1	5		
	【2010】介護・在宅医療体験学習	2後	1			1	3	1	5		
小計(11科目)	—	10			4	4	2	17	0	6	
	【3000】細胞生物学	1後	1			1		1			
	【3001】遺伝学	2前	1			1					
	【3002】医化学	1後	2			1		1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
臨床医学	【4009】 整形外科学	3前	2			1						
	【4010】 全身管理学	3前	1			1	2	2				
	【4011】 麻酔学	3前	1					1	1			
	【4012】 臨床免疫・アレルギー学	3後	1				1					
	【4013】 血液学	3後	2			1						
	【4014】 皮膚科学	3後	1			1	1					
	【4015】 眼科学	3後	1				1					
	【4016】 耳鼻咽喉科学	3後	1			1	1					
	【4017】 放射線医学	3後	2			2						
	【4018】 災害医療学	3後	1				1					
	【4019】 環境疾病学	3後	1			2	2					
	【4020】 乳房外科学	3後	1			2						
	【4021】 臨床検査学	3後	1			1						
	【4022】 感染症学	3後	1				1					
	【4023】 臨床薬理学	4前	1				1					
	【4024】 腫瘍学	4前	1				1					
	【4025】 高齢者医学	4前	1			1						
	【4026】 救急・災害医療体験学習	3後	1				1	1	7			
	【4027】 被ばく医療演習	3後	0.5			3	2		4			
	【4028】 臨床分子遺伝学	4前		1		2	2					
【4029】 移植医療学	4前		1		1	1	2					
【4033】 救急医療学	3前	1				1						
【4034】 医療薬学概論	3前	1									6	
小計 (32科目)	—	44.5	2		24	34	7	12	0		6	
前臨床実習	【4030】 症候学	4前	3			7	13					
	【4031】 基礎-臨床統合演習	4前	19			24	15					
	【4032】 基本的診療技能	4前	2			14	11					
	小計 (3科目)	—	24			26	18	0	0	0		
臨床実習	【5000】 総合診療学演習	6前	6			13	27	18	25			
	【5001】 診療科臨床実習	4後~5後	64			22	39	23	51			
	【5002】 地域総合診療実習	6前	2			1	3		1		1	
	【5003】 地域包括医療実習	6前	4			1	3		1			
	小計 (4科目)	—	76			22	39	23	51	0	1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
臨床医学	【4009】 整形外科学	3前	2			1						
	【4010】 全身管理学	3前	1				2	1	1			
	【4011】 麻酔学	3前	1					1		1		
	【4012】 臨床免疫・アレルギー学	3後	1					1				
	【4013】 血液学	3後	2			1						
	【4014】 皮膚科学	3後	1				1					
	【4015】 眼科学	3後	1					1				
	【4016】 耳鼻咽喉科学	3後	1			1	1					
	【4017】 放射線医学	3後	2			2						
	【4018】 災害医療学	3後	1				1					
	【4019】 環境疾病学	3後	1			2	2					
	【4020】 乳房外科学	3後	1			2						
	【4021】 臨床検査学	3後	1			1						
	【4022】 感染症学	3後	1				1					
	【4023】 臨床薬理学	4前	1				1					
	【4024】 腫瘍学	4前	1				1					
	【4025】 高齢者医学	4前	1			1						
	【4026】 救急・災害医療体験学習	3後	1				1			7		
	【4027】 被ばく医療演習	3後	0.5			3	2		4			
	【4028】 臨床分子遺伝学	4前		1		2	2					
【4029】 移植医療学	4前		1		1	1	2					
【4033】 救急医療学	3前	1				1						
【4034】 医療薬学概論	3前	1									6	
小計 (32科目)	—	44.5	2		32	25	7	12	0		6	
前臨床実習	【4030】 症候学	4前	3			10	11					
	【4031】 基礎-臨床統合演習	4前	19			30	12					
	【4032】 基本的診療技能	4前	2			18	10	3				
	小計 (3科目)	—	24			32	16	3	0	0		
臨床実習	【5000】 総合診療学演習	6前	6			17	27	24	24			
	【5001】 診療科臨床実習	4後~5後	64			31	34	28	54			
	【5002】 地域総合診療実習	6前	2			1	3				1	
	【5003】 地域包括医療実習	6前	4			1	3					
	小計 (4科目)	—	76			31	34	28	54	0	1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
統括講義	【6001】統括講義	6後	36			23	20	1			
	小計（1科目）	—	36			23	20	1	0	0	0
合計（117科目）		—	255.5	15	0	35	49	27	67	0	41
卒業要件及び履修方法											
必修科目255.5単位 選択科目7単位以上 （基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上） 所要単位262.5単位以上修得すること											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
統括講義	【6001】統括講義	6後	36			31	13				
	小計（1科目）	—	36			31	13	0	0	0	0
合計（117科目）		—	255.5	15	0	44	42	32	70	0	71
卒業要件及び履修方法											
必修科目255.5単位 選択科目7単位以上 （基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上） 所要単位262.5単位以上修得すること											

【平成30年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基 礎 教 養 科 目	倫理学	1前	1									1
	心の科学	1前	1									1
	現代社会と人間	1前	1					1				1
	大学基礎論	1前	1			1						11
	スポーツ科学（体育実技）	1前	1									3
	哲学	1後		1								1
	経済学	1後		1								1
	法学	1後		1								1
	科学と歴史	1後		1								1
	人と文化	1後		1								2
	文章論	1後		1								2
	からだと健康	1後		1								3
	数学Ⅰ（基礎編）	1前	1									1
	数学Ⅱ（応用・統計編）	1後	1									1
	医学英語Ⅰ	1前	1									2
	医学英語Ⅱ	1後	1									2
	医学英語Ⅲ	2前	1									2
	医学英語Ⅳ	2後	1									2
	医学英語Ⅴ	3前	1				1					2
	医学英語Ⅵ	3後	1				1					2
	ドイツ語Ⅰ	1前		1								1
	ドイツ語Ⅱ	1後		1								1
	フランス語Ⅰ	1前		1								1
	フランス語Ⅱ	1後		1								1
	中国語Ⅰ	1前		1								1
	中国語Ⅱ	1後		1								1
小計（26科目）	—	13	13		2	1	0	0	0		25	
	【9001】基礎物理学	1前	1									1

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
準備 教育 科目	【9002】基礎化学	1前	1			1		1				
	【9003】基礎生物学	1前	1			3	1		1			
	【9004】情報科学	1前	1								4	
	【9005】行動心理学	1前	1								1	
	【9006】基礎物理学実習	1前	0.5			1	1		1			3
	【9007】基礎化学実習	1前	0.5			1		1	1			
	【9008】基礎生物学実習	1前	0.5			3	1		3			
	【9009】情報科学実習	1前	0.5									4
	小計(9科目)	—	7			5	2	1	5	0		8
基本 事項	【1000】医学概論	1前	1			3						1
	【1001】医療安全学	1後	1				1					
	【1002】医療コミュニケーション学	1後	1			4		1	1			4
	【1003】患者安全・医療倫理学	4前	1			1						
	【1004】早期医療体験学習	1前	1			2			9			9
	【1005】チーム医療体験学習	1後	1			3	1	3	7			5
	【1006】課題研究	3通	4			1						
小計(7科目)	—	10			8	2	3	17	0		18	
社会 医学	【2000】衛生学	1後	1			1			1			
	【2001】地域医療学	2前	1				1					2
	【2002】介護・在宅医療学	2後	1				2					2
	【2003】公衆衛生学	2後	1						1			
	【2004】医事法学	3前	1			1	1		3			
	【2005】医療管理学	3後	1			1						
	【2006】法医学	3後	1			1			2			2
	【2007】衛生学体験学習	1後	1			1			2			1
	【2008】僻地・被災地医療体験学習Ⅰ	2前	0.5			1	3	1	6			
	【2009】僻地・被災地医療体験学習Ⅱ	3前	0.5			1	3	1	5			
	【2010】介護・在宅医療体験学習	2後	1			1	3	2	5			
小計(11科目)	—	10			4	4	4	19	0		7	
	【3000】細胞生物学	1後	1			1		1				
	【3001】遺伝学	2前	1			1		1	1			

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基礎 医学	【3002】 医化学	1後	2			1		1				2
	【3003】 免疫学	2後	1			1		1	1			
	【3004】 放射線基礎医学	1後	1			2	1					1
	【3005】 解剖学	2前	2			1	1		2			1
	【3006】 神経解剖学	2前	1			1	1		2			1
	【3007】 組織学	2前	1			1	1		2			1
	【3008】 発生学	1後	1			1	1		1			
	【3009】 微生物学Ⅰ	2前	1			1	1		1			
	【3010】 微生物学Ⅱ	2前	1			1	1		1			
	【3011】 生理学	2後	3			1			1			
	【3012】 神経生理学	2後	1			1	1					1
	【3013】 薬理学	2後	2			1	1					1
	【3014】 病理学	3前	2			1	1					2
	【3015】 免疫学実習	2後	1			1		1	1			
	【3016】 医化学実習	1後	1			1		1	1			
	【3017】 放射線基礎医学体験学習	1後	1			2	1		1			
	【3018】 解剖学実習	2前	5			1	1		2			1
	【3019】 微生物学実習	2前	1			1	1		1			
	【3020】 組織学実習	2前	1			1	1		2			1
	【3021】 薬理学実習	2後	1			1	1		1			
	【3022】 生理学実習	2後	1			2	1		3			
	【3023】 病理学実習	3前	2			1	1	1	2			1
	小計 (24科目)	—	35			10	6	3	12	0		9
		【4000】 呼吸器学(内科・外科)	2後	3			7	2				
【4001】 腎・泌尿器学		2後	2			2	1	1				
【4002】 循環器学(内科・外科)		2後	3			2						
【4003】 消化器学(内科・外科)		2後	3			3	4	3				

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
臨床 医学	【4004】神経学(内科・外科)	3前	3			3	3	1				1
	【4005】精神科学	3前	1			1	3		1			
	【4006】内分泌学・代謝学	3前	2			3	2		1			
	【4007】産科学・婦人科学	3前	2			1	3					
	【4008】小児科学	3前	2				2		2			3
	【4009】整形外科学	3前	2			3	2					1
	【4010】全身管理学	3前	1			3	1					1
	【4011】麻酔学	3前	1			1		1	1			2
	【4012】臨床免疫・アレルギー学	3後	1				1					
	【4013】血液学	3後	2			1		1				1
	【4014】皮膚科学	3後	1			1						
	【4015】眼科学	3後	1			1	1					
	【4016】耳鼻咽喉科学	3後	1			2	2					2
	【4017】放射線医学	3後	2			2						4
	【4018】災害医療学	3後	1				1		1			
	【4019】環境疾病学	3後	1			2	1					1
	【4020】乳房外科学	3後	1			2		1				
	【4021】臨床検査学	3後	1			1						
	【4022】感染症学	3後	1			1						1
	【4023】臨床薬理学	4前	1				1					
	【4024】腫瘍学	4前	1			2						
	【4025】高齢者医学	4前	1			1						
	【4026】救急・災害医療体験学習	3後	1				1		9			
	【4027】被ばく医療演習	3後	0.5			3	2		4			1
	【4028】臨床分子遺伝学	4前		1		1	1					
	【4029】移植医療学	4前		1		3		3				
	【4033】救急医療学	3前	1				1					
	【4034】医療薬学概論	3前	1									7
	小計(32科目)	—	44.5	2		36	29	11	18	0		24

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
前臨床実習	【4030】症候学	4前	3			11	9					
	【4031】基礎-臨床統合演習	4前	19			31	12	2				
	【4032】基本的診療技能	4前	2			19	8	10				
	小計(3科目)	—	24			34	15	10	0	0		
臨床実習	【5000】総合診療学演習	6前	6			19	26	25	21			
	【5001】診療科臨床実習	4後~5後	64			33	33	33	60			
	【5002】地域総合診療実習	6前	2			1	3				1	
	【5003】地域包括医療実習	6前	4			1	3					
	小計(4科目)	—	76			33	33	33	60	0	1	
統括講義	【6001】統括講義	6後	36			33	12					
	小計(1科目)	—	36			33	12	0	0	0	0	
合計(117科目)		—	255.5	15	0	46	41	37	79	0	86	
卒業要件及び履修方法												
必修科目255.5単位 選択科目7単位以上 (基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上) 所要単位262.5単位以上修得すること												

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教養科目	倫理学	1前	1								1
	心の科学	1前	1								1
	現代社会と人間	1前	1								1
	大学基礎論	1前	1								11
	スポーツ科学（体育実技）	1前	1								2
	哲学	1後		1							1
	経済学	1後		1							1
	法学	1後		1							1
	科学と歴史	1後		1							1
	人と文化	1後		1							1
	文章論	1後		1							1
	からだと健康	1後		1							2
	数学I（基礎編）	1前	1								1
	数学II（応用・統計編）	1後	1								1
	医学英語I	1前	1								2
	医学英語II	1後	1								2
	医学英語III	2前	1								1
	医学英語IV	2後	1								2
	ドイツ語I	1前		1							1
	ドイツ語II	1後		1							1
	フランス語I	1前		1							1
	フランス語II	1後		1							1
	中国語I	1前		1							1
	中国語II	1後		1							1
小計（24科目）	—	—	11	13		0	0	0	0	0	15
準備教育科目	【9001】基礎物理学	1前	1								1
	【9002】基礎化学	1前	1					1			
	【9003】基礎生物学	1前	1				1				
	【9004】情報科学	1前	1								3
	【9005】行動心理学	1前	1								1
	【9006】基礎物理学実習	1前	0.5								1
	【9007】基礎化学実習	1前	0.5			1		1	1		
	【9008】基礎生物学実習	1前	0.5			1	1		1		

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教養科目	倫理学	1前	1								1
	心の科学	1前	1								2
	現代社会と人間	1前	1					1			1
	大学基礎論	1前	1				1				12
	スポーツ科学（体育実技）	1前	1								3
	哲学	1後		1							1
	経済学	1後		1							1
	法学	1後		1							1
	科学と歴史	1後		1							1
	人と文化	1後		1							1
	文章論	1後		1							2
	からだと健康	1後		1							3
	数学I（基礎編）	1前	1								1
	数学II（応用・統計編）	1後	1								1
	医学英語I	1前	1								2
	医学英語II	1後	1								2
	医学英語III	2前	1								2
	医学英語IV	2後	1								2
	ドイツ語I	1前		1							1
	ドイツ語II	1後		1							1
	フランス語I	1前		1							1
	フランス語II	1後		1							1
	中国語I	1前		1							1
	中国語II	1後		1							1
小計（24科目）	—	—	11	13		1	1	0	0	0	21
準備教育科目	【9001】基礎物理学	1前	1								1
	【9002】基礎化学	1前	1				1	1	1	1	
	【9003】基礎生物学	1前	1				2	2		1	
	【9004】情報科学	1前	1								4
	【9005】行動心理学	1前	1								1
	【9006】基礎物理学実習	1前	0.5				1	1		1	3
	【9007】基礎化学実習	1前	0.5			1		1	1	1	
	【9008】基礎生物学実習	1前	0.5				3	2		3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	【9009】情報科学実習	1前	0.5								3
	小計(9科目)	—	7			2	1	1	2	0	5
基本事項	【1000】医学概論	1前	1			2	1				
	【1001】医療安全学	1後	1				1				
	【1002】医療コミュニケーション学	1後	1			1					
	【1004】早期医療体験学習	1前	1			1			10		
	【1005】チーム医療体験学習	1後	1			1			9		
	小計(5科目)	—	5			3	2	0	19	0	
社会医学	【2000】衛生学	1後	1			1					
	【2001】地域医療学	2前	1				1				1
	【2002】介護・在宅医療学	2後	1				2				
	【2003】公衆衛生学	2後	1						1		
	【2007】衛生学体験学習	1後	1			1			2		
	【2008】僻地・被災地医療体験学習Ⅰ	2前	0.5			1	3		6		
	【2010】介護・在宅医療体験学習	2後	1			1	3		5		
小計(7科目)	—	6.5			2	3	0	11	0	1	
基礎医学	【3000】細胞生物学	1後	1						1		
	【3001】遺伝学	2前	1			2					
	【3002】医化学	1後	2			1		1			
	【3003】免疫学	2後	1			1					
	【3004】放射線基礎医学	1後	1			1					
	【3005】解剖学	2前	2			1					
	【3006】神経解剖学	2前	1				1				
	【3007】組織学	2前	1				1				
	【3008】発生学	1後	1			1					
	【3009】微生物学Ⅰ	2前	1			1					
	【3010】微生物学Ⅱ	2前	1				1				
	【3011】生理学	2後	3			1					
	【3012】神経生理学	2後	1			1					
	【3013】薬理学	2後	2			1					
	【3015】免疫学実習	2後	1			1		1	1		
	【3016】医化学実習	1後	1			1		1	1		
	【3017】放射線基礎医学体験学習	1後	1			1	1		1		
	【3019】微生物学実習	2前	1			1	1				
	【3020】組織学実習	2前	1			1	1		2		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	【9009】情報科学実習	1前	0.5								4
	小計(9科目)	—	7			5	3	1	5	0	8
基本事項	【1000】医学概論	1前	1			3					1
	【1001】医療安全学	1後	1				1				
	【1002】医療コミュニケーション学	1後	1			4	1		1		4
	【1004】早期医療体験学習	1前	1			3	1	1	7		10
	【1005】チーム医療体験学習	1後	1			4	3	2	5		5
	小計(5科目)	—	5			9	4	3	13	0	19
社会医学	【2000】衛生学	1後	1			1				2	
	【2001】地域医療学	2前	1				1				2
	【2002】介護・在宅医療学	2後	1				2				2
	【2003】公衆衛生学	2後	1			1			2		
	【2007】衛生学体験学習	1後	1			1			2		1
	【2008】僻地・被災地医療体験学習Ⅰ	2前	0.5			1	3	1	7		
	【2010】介護・在宅医療体験学習	2後	1			1	3	2	6		
小計(7科目)	—	6.5			2	3	3	13	0	5	
基礎医学	【3000】細胞生物学	1後	1			1	1	1			
	【3001】遺伝学	2前	1			1		1	1		
	【3002】医化学	1後	2			1		1	1		2
	【3003】免疫学	2後	1			1	1	1	1		
	【3004】放射線基礎医学	1後	1			2	1				1
	【3006】神経解剖学	2前	1			2	1		2		
	【3008】発生学	1後	1			2			1		
	【3009】微生物学Ⅰ	2前	1			1	1		1		
	【3010】微生物学Ⅱ	2前	1			1	1		1		
	【3011】生理学	2後	3			1			2		
	【3012】神経生理学	2後	1			1	1				
	【3013】薬理学	2後	2			1	1				2
	【3015】免疫学実習	2後	1			1		1	1		
	【3016】医化学実習	1後	1			1		1	1		
	【3017】放射線基礎医学体験学習	1後	1			2	1		1		
	【3019】微生物学実習	2前	1			1	1		1		
	【3021】薬理学実習	2後	1			1	1		1		
	【3022】生理学実習	2後	1			2	1		3		
小計(18科目)	—	22			10	6	2	10	0	5	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	【3021】薬理学実習	2後	1			1	1		1			
	【3022】生理学実習	2後	1			2	2		2			
	小計(21科目)	—	26			8	6	2	8	0		
	合計(66科目)	—	55.5	13.0	0.0	13	11	2	38	0	21	
卒業要件及び履修方法												
必修科目255.5単位 選択科目7単位以上 (基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上) 所要単位262.5単位以上修得すること												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
臨床医学	【4000】呼吸器学(内科・外科)	2後	3			7	1					
	【4001】腎・泌尿器学	2後	2			2	1	1	1			
	【4002】循環器学(内科・外科)	2後	3			2	1	4	1			
	【4003】消化器学(内科・外科)	2後	3			3	5	2				
	小計(4科目)	—	11			14	8	7	2	0	0	
	合計(67科目)	—	62.5	13.0	0.0	33	20	14	35	0	55	
卒業要件及び履修方法												
必修科目255.5単位 選択科目7単位以上 (基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上) 所要単位262.5単位以上修得すること												

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教養科目	倫理学	1前	1								1
	心の科学	1前	1								1
	現代社会と人間	1前	1								1
	大学基礎論	1前	1			1					11
	スポーツ科学（体育実技）	1前	1								3
	哲学	1後		1							1
	経済学	1後		1							1
	法学	1後		1							1
	科学と歴史	1後		1							1
	人と文化	1後		1							1
	文章論	1後		1							1
	からだと健康	1後		1							2
	数学I（基礎編）	1前	1								1
	数学II（応用・統計編）	1後	1								1
	医学英語I	1前	1								2
	医学英語II	1後	1								2
	医学英語III	2前	1								1
	医学英語IV	2後	1								2
	ドイツ語I	1前		1							1
	ドイツ語II	1後		1							1
	フランス語I	1前		1							1
	フランス語II	1後		1							1
	中国語I	1前		1							1
	中国語II	1後		1							1
小計（24科目）	—	—	11	13		1	0	0	0	0	16
【9001】基礎物理学	1前	1									1
【9002】基礎化学	1前	1				1		1			
【9003】基礎生物学	1前	1				1			1		

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教養科目	倫理学	1前	1								1
	心の科学	1前	1								1
	現代社会と人間	1前	1								2
	大学基礎論	1前	1				1				11
	スポーツ科学（体育実技）	1前	1								3
	哲学	1後		1							1
	経済学	1後		1							1
	法学	1後		1							1
	科学と歴史	1後		1							1
	人と文化	1後		1							1
	文章論	1後		1							2
	からだと健康	1後		1							2
	数学I（基礎編）	1前	1								1
	数学II（応用・統計編）	1後	1								1
	医学英語I	1前	1								2
	医学英語II	1後	1								2
	医学英語III	2前	1								2
	医学英語IV	2後	1								2
	ドイツ語I	1前		1							1
	ドイツ語II	1後		1							1
	フランス語I	1前		1							1
	フランス語II	1後		1							1
	中国語I	1前		1							1
	中国語II	1後		1							1
小計（24科目）	—	—	11	13		1	0	0	0	0	22
【9001】基礎物理学	1前	1									1
【9002】基礎化学	1前	1				1		1			
【9003】基礎生物学	1前	1				3	1		1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
準備教育科目	【9004】情報科学	1前	1									4
	【9005】行動心理学	1前	1									1
	【9006】基礎物理学 実習	1前	0.5									6
	【9007】基礎化学実習	1前	0.5			1		1	1			
	【9008】基礎生物学 実習	1前	0.5			1			2			
	【9009】情報科学実習	1前	0.5									4
小計（9科目）	—	7			2	0	1	3	0		7	
基本事項	【1000】医学概論	1前	1			2	1					
	【1001】医療安全学	1後	1				1					
	【1002】医療コミュニケーション学	1後	1			4		1	1			2
	【1004】早期医療体験学習	1前	1			1			10			
	【1005】チーム医療体験学習	1後	1			2			9			1
小計（5科目）	—	5			6	2	1	20	0		3	
社会医学	【2000】衛生学	1後	1			1			2			
	【2001】地域医療学	2前	1				1					1
	【2002】介護・在宅医療学	2後	1				2					
	【2003】公衆衛生学	2後	1						1			
	【2007】衛生学体験学習	1後	1			1			2			
	【2008】僻地・被災地医療体験学習 I	2前	0.5			1	3		7			
	【2010】介護・在宅医療体験学習	2後	1			1	3	1	6			
小計（7科目）	—	6.5			2	3	1	13	0		1	
	【3000】細胞生物学	1後	1			1		1				
	【3001】遺伝学	2前	1			2						
	【3002】医化学	1後	2			1		1	1			4
	【3003】免疫学	2後	1			1						
	【3004】放射線基礎医学	1後	1			1	1					1
	【3005】解剖学	2前	2			1						
	【3006】神経解剖学	2前	1				1					
	【3007】組織学	2前	1				1					
	【3008】発生学	1後	1			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
準備教育科目	【9004】情報科学	1前	1									4
	【9005】行動心理学	1前	1									1
	【9006】基礎物理学 実習	1前	0.5					1	1	1		4
	【9007】基礎化学実習	1前	0.5					1		1		
	【9008】基礎生物学 実習	1前	0.5					3	1	2		1
	【9009】情報科学実習	1前	0.5									4
小計（9科目）	—	7					5	2	1	4	0	11
基本事項	【1000】医学概論	1前	1					3				
	【1001】医療安全学	1後	1						1			
	【1002】医療コミュニケーション学	1後	1					4		1	1	3
	【1004】早期医療体験学習	1前	1					2			10	10
	【1005】チーム医療体験学習	1後	1					3	1	1	8	5
小計（5科目）	—	5					8	2	1	19	0	18
社会医学	【2000】衛生学	1後	1					1			1	
	【2001】地域医療学	2前	1						1			4
	【2002】介護・在宅医療学	2後	1						2			2
	【2003】公衆衛生学	2後	1							1		
	【2007】衛生学体験学習	1後	1					1			2	
	【2008】僻地・被災地医療体験学習 I	2前	0.5					1	3		4	
	【2010】介護・在宅医療体験学習	2後	1					1	3	1	5	
小計（7科目）	—	6.5					2	3	1	10	0	6
	【3000】細胞生物学	1後	1					1		1		
	【3001】遺伝学	2前	1						1			
	【3002】医化学	1後	2					1		1		
	【3003】免疫学	2後	1						1			
	【3004】放射線基礎医学	1後	1					2	1			1
	【3005】解剖学	2前	2					1	1		2	1
	【3006】神経解剖学	2前	1					1	1		2	1
	【3007】組織学	2前	1					1	1		2	1
	【3008】発生学	1後	1					1	1		1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎医学	【3009】微生物学Ⅰ	2前	1			1						
	【3010】微生物学Ⅱ	2前	1				1					
	【3011】生理学	2後	3			1						
	【3012】神経生理学	2後	1			1						
	【3013】薬理学	2後	2			1						
	【3015】免疫学実習	2後	1			1		1	1			
	【3016】医化学実習	1後	1			1		1	1			
	【3017】放射線基礎医学体験学習	1後	1			1	1		1			
	【3019】微生物学実習	2前	1			1	1					
	【3020】組織学実習	2前	1			1	1		1			
	【3021】薬理学実習	2後	1			1	1		1			
【3022】生理学実習	2後	1			2	1		3				
小計(21科目)	—	26			8	5	2	8	0	4		
合計(66科目)	—	55.5	13.0	0.0	13	10	3	40	0	31		
卒業要件及び履修方法												
必修科目255.5単位 選択科目7単位以上 (基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上) 所要単位262.5単位以上修得すること												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎医学	【3009】微生物学Ⅰ	2前	1			1	1					
	【3010】微生物学Ⅱ	2前	1				1	1				
	【3011】生理学	2後	3			1			1		1	
	【3012】神経生理学	2後	1			1	1				1	
	【3013】薬理学	2後	2			1	1				1	
	【3015】免疫学実習	2後	1			1		1	1			
	【3016】医化学実習	1後	1			1		1	1			
	【3017】放射線基礎医学体験学習	1後	1			1	2	1		1		
	【3019】微生物学実習	2前	1			1	1					
	【3020】組織学実習	2前	1			1	1		2		1	
	【3021】薬理学実習	2後	1			1	1		1			
【3022】生理学実習	2後	1			2	1		2		1		
小計(21科目)	—	26			9	5	2	8	0	6		
合計(66科目)	—	55.5	13.0	0.0	18	10	4	36	0	61		
卒業要件及び履修方法												
必修科目255.5単位 選択科目7単位以上 (基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上) 所要単位262.5単位以上修得すること												

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎 教養 科目	倫理学	1前	1								1
	心の科学	1前	1								1
	現代社会と人間	1前	1				1				1
	大学基礎論	1前	1			1					11
	スポーツ科学（体育実技）	1前	1								3
	哲学	1後		1							1
	経済学	1後		1							1
	法学	1後		1							1
	科学と歴史	1後		1							1
	人と文化	1後		1							2
	文章論	1後		1							2
	からだと健康	1後		1							3
	数学I（基礎編）	1前	1								1
	数学II（応用・統計編）	1後	1								1
	医学英語I	1前	1								2
	医学英語II	1後	1								2
	医学英語III	2前	1								2
	医学英語IV	2後	1								2
	ドイツ語I	1前		1							1
	ドイツ語II	1後		1							1
	フランス語I	1前		1							1
	フランス語II	1後		1							1
	中国語I	1前		1							1
	中国語II	1後		1							1
小計（24科目）	—	11	13		1	1	0	0	0	21	
	【9001】基礎物理学	1前	1								1
	【9002】基礎化学	1前	1			1		1			
	【9003】基礎生物学	1前	1			3	1		1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
準備教育科目	【9004】情報科学	1前	1									4
	【9005】行動心理学	1前	1									1
	【9006】基礎物理学実習	1前	0.5			1	1		1			3
	【9007】基礎化学実習	1前	0.5			1		1	1			
	【9008】基礎生物学実習	1前	0.5			3	1			3		
	【9009】情報科学実習	1前	0.5									4
	小計（9科目）	—	7			5	2	1	5	0		8
基本事項	【1000】医学概論	1前	1			3						1
	【1001】医療安全学	1後	1				1					
	【1002】医療コミュニケーション学	1後	1			4		1	1			4
	【1004】早期医療体験学習	1前	1			2				9		9
	【1005】チーム医療体験学習	1後	1			3	1	3	7			5
	小計（5科目）	—	5			8	2	3	17	0		18
社会医学	【2000】衛生学	1後	1			1				1		
	【2001】地域医療学	2前	1				1					2
	【2002】介護・在宅医療学	2後	1				2					2
	【2003】公衆衛生学	2後	1						1			
	【2007】衛生学体験学習	1後	1			1				2		1
	【2008】僻地・被災地医療体験学習 I	2前	0.5			1	3	1	6			
	【2010】介護・在宅医療体験学習	2後	1			1	3	2	5			
	小計（7科目）	—	6.5			2	3	3	12	0		5
基礎医学	【3000】細胞生物学	1後	1			1		1				
	【3001】遺伝学	2前	1			1		1	1			
	【3002】医化学	1後	2			1		1				2
	【3003】免疫学	2後	1			1		1	1			
	【3004】放射線基礎医学	1後	1			2	1					1
	【3006】神経解剖学	2前	1			1	1			2		1
	【3008】発生学	1後	1			1	1			1		
	【3009】微生物学 I	2前	1			1	1			1		
	【3010】微生物学 II	2前	1			1	1			1		
	【3011】生理学	2後	3			1				1		
	【3012】神経生理学	2後	1			1	1					1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	【3013】薬理学	2後	2			1	1					1
	【3015】免疫学実習	2後	1			1		1	1			
	【3016】医化学実習	1後	1			1		1	1			
	【3017】放射線基礎 医学体験学習	1後	1			2	1		1			
	【3019】微生物学実習	2前	1			1	1		1			
	【3021】薬理学実習	2後	1			1	1		1			
	【3022】生理学実習	2後	1			2	1		3			
	小計（18科目）	—	22			9	5	2	10	0		6
臨床医学	【4000】呼吸器学(内科・外科)	2後	3			7	2					
	【4001】腎・泌尿器学	2後	2			2	1	1				
	【4002】循環器学(内科・外科)	2後	3			2						
	【4003】消化器学(内科・外科)	2後	3			3	4	3				
	小計（4科目）	—	11			14	7	4	0	0		0
合計（67科目）		—	62.5	13.0	0.0	31	16	11	38	0		55
卒業要件及び履修方法												
必修科目25.5単位 選択科目7単位以上 （基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上） 所要単位262.5単位以上修得すること												

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教養科目	医学英語 V	3前	1								2
	医学英語 VI	3後	1								2
	小計 (2科目)	—	2								4
基本事項	【1003】患者安全・医療倫理学	4前	1			1					
	【1006】課題研究	3前~3後	4			1					
	小計 (2科目)	—	5			2	0	0	0	0	
社会医学	【2004】医事法学	3前	1			1	1		2		
	【2005】医療管理学	3後	1			1					
	【2006】法医学	3後	1			1			1		
	【2009】僻地・被災地医療体験学習Ⅱ	3前	0.5			1	3		5		
	小計 (4科目)	—	3.5			3	4	0	7	0	
基礎医学	【3014】病理学	3前	2			1	2				
	【3018】解剖学実習	2前	5			1	1		2		
	【3023】病理学実習	3前	2			1	2		2		
	小計 (3科目)	—	9			2	3	0	4	0	
臨床医学	【4000】呼吸器学(内科・外科)	2後	3			3	2				
	【4001】腎・泌尿器学	2後	2			1	2	1			
	【4002】循環器学(内科・外科)	2後	3			1	2				
	【4003】消化器学(内科・外科)	2後	3			2	5				
	【4004】神経学(内科・外科)	3前	3			1	3				
	【4005】精神科学	3前	1			1	2				
	【4006】内分泌学・代謝学	3前	2			1	1	2			
	【4007】産科学・婦人科学	3前	2			1	2				
	【4008】小児科学	3前	2			1	1				
	【4009】整形外科学	3前	2			1					
	【4010】全身管理学	3前	1			1	2	2			
	【4011】麻酔学	3前	1					1	1		
	【4012】臨床免疫・アレルギー学	3後	1				1				
	【4013】血液学	3後	2			1					
	【4014】皮膚科学	3後	1			1	1				
	【4015】眼科学	3後	1				1				
	【4016】耳鼻咽喉科学	3後	1			1	1				
	【4017】放射線医学	3後	2			2					
【4018】災害医療学	3後	1				1					

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教養科目	医学英語 V	3前	1			1					2
	医学英語 VI	3後	1			1					2
	小計 (2科目)	—	2			1	0	0	0	0	4
基本事項	【1003】患者安全・医療倫理学	4前	1				1				1
	【1006】課題研究	3前~3後	4				2				
	小計 (2科目)	—	5			2	1	0	0	0	1
社会医学	【2004】医事法学	3前	1			1	1		3		
	【2005】医療管理学	3後	1			1					
	【2006】法医学	3後	1			1			2		2
	【2009】僻地・被災地医療体験学習Ⅱ	3前	0.5			1	3	1	6		
	小計 (4科目)	—	3.5			3	4	1	9	0	2
基礎医学	【3005】解剖学	2前	2			2	1		2		
	【3007】組織学	2前	1			2	1		2		
	【3014】病理学	3前	2			1	1	1			2
	【3018】解剖学実習	2前	5			2	1		2		1
	【3020】組織学実習	2前	1			2	1		2		
	【3023】病理学実習	3前	2			1	1	1	2		1
小計 (6科目)	—	13			3	2	1	4	0	3	
臨床医学	【4004】神経学(内科・外科)	3前	3			3	3	1			2
	【4005】精神科学	3前	1			1	3		1		
	【4006】内分泌学・代謝学	3前	2			3	2		2		
	【4007】産科学・婦人科学	3前	2			1	3				1
	【4008】小児科学	3前	2			1			2		5
	【4009】整形外科学	3前	2			3	2				1
	【4010】全身管理学	3前	1			4	1				1
	【4011】麻酔学	3前	1			2		2	1		2
	【4012】臨床免疫・アレルギー学	3後	1				1				1
	【4013】血液学	3後	2			1		1			1
	【4014】皮膚科学	3後	1			1					
	【4015】眼科学	3後	1			1	1				
	【4016】耳鼻咽喉科学	3後	1			2	2				3
【4017】放射線医学	3後	2			2					4	
【4018】災害医療学	3後	1				1		1			
【4019】環境疾病学	3後	1			2	1				1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	【4019】環境疾病学	3後	1			2	2					
	【4020】乳房外科学	3後	1			2						
	【4021】臨床検査学	3後	1			1						
	【4022】感染症学	3後	1				1					
	【4023】臨床薬理学	4前	1				1					
	【4024】腫瘍学	4前	1				1					
	【4025】高齢者医学	4前	1			1						
	【4026】救急・災害医療体験学習	3後	1				1	1	6			
	【4027】被ばく医療演習	3後	0.5			3	2		4			
	【4028】臨床分子遺伝学	4前		1		2	2					
	【4029】移植医療学	4前		1		1	1	2				
	【4033】救急医療学	3前	1				1					
	【4034】医療薬学概論	3前	1									6
	小計(32科目)	—	44.5	2		24	34	7	11	0		6
前臨床実習	【4030】症候学	4前	3			7	13					
	【4031】基礎-臨床統合演習	4前	19			24	15					
	【4032】基本的診療技能	4前	2			14	11					
	小計(3科目)	—	24			26	18	0	0	0		
臨床実習	【5000】総合診療学演習	6前	6			12	27	19	26			
	【5001】診療科臨床実習	4後~5後	64			21	38	23	48			
	【5002】地域総合診療実習	6前	2			1	3		1		1	
	【5003】地域包括医療実習	6前	4			1	3		1			
	小計(4科目)	—	76			21	38	23	48	0	1	
統括講義	【6001】統括講義	6後	36			23	20	1				
	小計(1科目)	—	36			23	20	1	0	0		
	合計(51科目)	—	200.0	2.0	0.0	34	45	25	56	0	11	
卒業要件及び履修方法												
必修科目255.5単位 選択科目7単位以上 (基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上) 所要単位262.5単位以上修得すること												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	【4020】乳房外科学	3後	1			2	1					
	【4021】臨床検査学	3後	1				2					
	【4022】感染症学	3後	1				2					1
	【4023】臨床薬理学	4前	1				1	2				1
	【4024】腫瘍学	4前	1				3					
	【4025】高齢者医学	4前	1				1	1		1		3
	【4026】救急・災害医療体験学習	3後	1					1		9		
	【4027】被ばく医療演習	3後	0.5			3	2		4			1
	【4028】臨床分子遺伝学	4前		1			6	1				1
	【4029】移植医療学	4前		1			3		3			
	【4033】救急医療学	3前	1					1				
	【4034】医療薬学概論	3前	1									7
	小計(28科目)	—	33.5	2		33	23	7	20	0		35
前臨床実習	【4030】症候学	4前	3			13	8					
	【4031】基礎-臨床統合演習	4前	19			34	11	2				
	【4032】基本的診療技能	4前	2			21	7	11				1
	小計(3科目)	—	24			37	14	11	0	0		1
臨床実習	【5000】総合診療学演習	6前	6			23	26	22	25			
	【5001】診療科臨床実習	4後~5後	64			36	35	35	72			
	【5002】地域総合診療実習	6前	2			1	3		1		1	
	【5003】地域包括医療実習	6前	4			1	3		1			
	小計(4科目)	—	76			36	35	35	72	0	1	
統括講義	【6001】統括講義	6後	36			35	11					
	小計(1科目)	—	36			35	11	0	0	0		
	合計(50科目)	—	193.0	2.0	0.0	51	41	37	82	0	47	
卒業要件及び履修方法												
必修科目255.5単位 選択科目7単位以上 (基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上) 所要単位262.5単位以上修得すること												

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教養科目	医学英語V	3前	1								2
	医学英語VI	3後	1								2
	小計(2科目)	—	2			0	0	0	0	0	4
基本事項	【1003】患者安全・医療倫理学	4前	1			1					
	【1006】課題研究	3前~3後	4			1					
	小計(2科目)	—	5			2	0	0	0	0	
社会医学	【2004】医事法学	3前	1			1	1		2		
	【2005】医療管理学	3後	1			1					
	【2006】法医学	3後	1			1			2		
	【2009】僻地・被災地医療体験学習Ⅱ	3前	0.5			1	4		5		
	小計(4科目)	—	3.5			3	5	0	8	0	
基礎医学	【3014】病理学	3前	2			1	2				
	【3018】解剖学実習	2前	5			1	1		1		
	【3023】病理学実習	3前	2			1	2		2		
	小計(3科目)	—	9			2	3	0	3	0	
臨床医学	【4000】呼吸器学(内科・外科)	2後	3			3	2				
	【4001】腎・泌尿器学	2後	2			1	2	1			
	【4002】循環器学(内科・外科)	2後	3			1	2				
	【4003】消化器学(内科・外科)	2後	3			2	5				
	【4004】神経学(内科・外科)	3前	3			1	3				
	【4005】精神科学	3前	1			1	2				
	【4006】内分泌学・代謝学	3前	2			1	1	2			
	【4007】産科学・婦人科学	3前	2			1	2				
	【4008】小児科学	3前	2			1	1				
	【4009】整形外科学	3前	2			1					
	【4010】全身管理学	3前	1			1	2	2			
	【4011】麻酔学	3前	1					1	1		
	【4012】臨床免疫・アレルギー学	3後	1				1				
	【4013】血液学	3後	2			1					
	【4014】皮膚科学	3後	1			1	1				
	【4015】眼科学	3後	1				1				
	【4016】耳鼻咽喉科学	3後	1			1	1				
	【4017】放射線医学	3後	2			2					
【4018】災害医療学	3後	1				1					

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教養科目	医学英語V	3前	1								2
	医学英語VI	3後	1								2
	小計(2科目)	—	2			0	0	0	0	0	4
基本事項	【1003】患者安全・医療倫理学	4前	1			1					
	【1006】課題研究	3前~3後	4			1					
	小計(2科目)	—	5			2	0	0	0	0	
社会医学	【2004】医事法学	3前	1			1	1		2		
	【2005】医療管理学	3後	1			1					
	【2006】法医学	3後	1			1			2		
	【2009】僻地・被災地医療体験学習Ⅱ	3前	0.5			1	3	1	5		
	小計(4科目)	—	3.5			3	4	1	8	0	
基礎医学	【3014】病理学	3前	2			1	1				
	【3018】解剖学実習	2前	5			1	1		2		1
	【3023】病理学実習	3前	2			1	1		2		
	小計(3科目)	—	9			2	2	0	4	0	1
臨床医学	【4000】呼吸器学(内科・外科)	2後	3				4	2			
	【4001】腎・泌尿器学	2後	2				2	1	1		
	【4002】循環器学(内科・外科)	2後	3				1	2			
	【4003】消化器学(内科・外科)	2後	3				3	5	2		
	【4004】神経学(内科・外科)	3前	3				2	2			
	【4005】精神科学	3前	1				1	2			
	【4006】内分泌学・代謝学	3前	2				1	1	1		
	【4007】産科学・婦人科学	3前	2				1	2			
	【4008】小児科学	3前	2				1	1			
	【4009】整形外科学	3前	2				1				
	【4010】全身管理学	3前	1				2	1	1		
	【4011】麻酔学	3前	1				1			1	
	【4012】臨床免疫・アレルギー学	3後	1					1			
	【4013】血液学	3後	2				1				
	【4014】皮膚科学	3後	1				1				
	【4015】眼科学	3後	1					1			
	【4016】耳鼻咽喉科学	3後	1				1	1			
	【4017】放射線医学	3後	2				2				
【4018】災害医療学	3後	1					1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	【4019】環境疾病学	3後	1			2	2					
	【4020】乳房外科学	3後	1			2						
	【4021】臨床検査学	3後	1			1						
	【4022】感染症学	3後	1				1					
	【4023】臨床薬理学	4前	1				1					
	【4024】腫瘍学	4前	1				1					
	【4025】高齢者医学	4前	1			1						
	【4026】救急・災害医療体験学習	3後	1				1	1	7			
	【4027】被ばく医療演習	3後	0.5			3	2		4			
	【4028】臨床分子遺伝学	4前		1		2	2					
	【4029】移植医療学	4前		1		1	1	2				
	【4033】救急医療学	3前	1				1					
	【4034】医療薬学概論	3前	1								6	
	小計(32科目)	—	44.5	2		24	34	7	12	0	6	
前臨床実習	【4030】症候学	4前	3			7	13					
	【4031】基礎-臨床統合演習	4前	19			24	15					
	【4032】基本的診療技能	4前	2			14	11					
	小計(3科目)	—	24			26	18	0	0	0		
臨床実習	【5000】総合診療学演習	6前	6			13	27	18	25			
	【5001】診療科臨床実習	4後~5後	64			22	39	23	51			
	【5002】地域総合診療実習	6前	2			1	3		1		1	
	【5003】地域包括医療実習	6前	4			1	3		1			
	小計(4科目)	—	76			22	39	23	51	0	1	
統括講義	【6001】統括講義	6後	36			23	20	1				
	小計(1科目)	—	36			23	20	1	0	0		
	合計(51科目)	—	200.0	2.0	0.0	35	46	25	59	0	11	
卒業要件及び履修方法												
必修科目255.5単位 選択科目7単位以上 (基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上) 所要単位262.5単位以上修得すること												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	【4019】環境疾病学	3後	1			2	1					
	【4020】乳房外科学	3後	1			2						
	【4021】臨床検査学	3後	1			1						
	【4022】感染症学	3後	1				1					
	【4023】臨床薬理学	4前	1				1					
	【4024】腫瘍学	4前	1				1					
	【4025】高齢者医学	4前	1			1						
	【4026】救急・災害医療体験学習	3後	1				1		7			
	【4027】被ばく医療演習	3後	0.5			3	2		4			
	【4028】臨床分子遺伝学	4前		1		2	1					
	【4029】移植医療学	4前		1		1	1	2				
	【4033】救急医療学	3前	1				1					
	【4034】医療薬学概論	3前	1								6	
	小計(32科目)	—	44.5	2		32	15	7	12	0	6	
前臨床実習	【4030】症候学	4前	3			10	11					
	【4031】基礎-臨床統合演習	4前	19			30	12					
	【4032】基本的診療技能	4前	2			18	10	3				
	小計(3科目)	—	24			32	16	3	0	0		
臨床実習	【5000】総合診療学演習	6前	6			17	27	24	24			
	【5001】診療科臨床実習	4後~5後	64			31	34	28	54			
	【5002】地域総合診療実習	6前	2			1	3				1	
	【5003】地域包括医療実習	6前	4			1	3					
	小計(4科目)	—	76			31	34	28	54	0	1	
統括講義	【6001】統括講義	6後	36			31	13	0				
	小計(1科目)	—	36			31	13	0	0	0		
	合計(51科目)	—	200.0	2.0	0.0	44	39	30	63	0	12	
卒業要件及び履修方法												
必修科目255.5単位 選択科目7単位以上 (基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上) 所要単位262.5単位以上修得すること												

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教養科目	医学英語V	3前	1			1						2
	医学英語VI	3後	1			1						2
	小計(2科目)	—	2			1	0	0	0	0		4
基本事項	【1003】患者安全・医療倫理学	4前	1			1						
	【1006】課題研究	3前~3後	4			1						
	小計(2科目)	—	5			2	0	0	0	0		0
社会医学	【2004】医事法学	3前	1			1	1		3			
	【2005】医療管理学	3後	1			1						
	【2006】法医学	3後	1			1			2		2	
	【2009】僻地・被災地医療体験学習II	3前	0.5			1	3	1	5			
	小計(4科目)	—	3.5			3	4	1	8	0		2
基礎医学	【3005】解剖学	2前	2			1	1		2			1
	【3007】組織学	2前	1			1	1		2			1
	【3014】病理学	3前	2			1	1					2
	【3018】解剖学実習	2前	5			1	1		2			1
	【3020】組織学実習	2前	1			1	1		2			1
	【3023】病理学実習	3前	2			1	1	1	2			1
	小計(6科目)	—	13			2	2	1	4	0		3
臨床医学	【4004】神経学(内科・外科)	3前	3			3	3	1				1
	【4005】精神科学	3前	1			1	3		1			
	【4006】内分泌学・代謝学	3前	2			3	2		1			
	【4007】産科学・婦人科学	3前	2			1	3					
	【4008】小児科学	3前	2				2		2		3	
	【4009】整形外科科学	3前	2			3	2					1
	【4010】全身管理学	3前	1			3	1					1
	【4011】麻酔学	3前	1			1		1	1			2
	【4012】臨床免疫・アレルギー学	3後	1				1					
	【4013】血液学	3後	2			1		1				1
	【4014】皮膚科学	3後	1			1						
	【4015】眼科学	3後	1			1	1					
	【4016】耳鼻咽喉科学	3後	1			2	2					2
	【4017】放射線医学	3後	2			2						4
	【4018】災害医療学	3後	1				1		1			
	【4019】環境疾病学	3後	1			2	1					1
	【4020】乳房外科学	3後	1			2		1				
	【4021】臨床検査学	3後	1			1						
	【4022】感染症学	3後	1			1						1
	【4023】臨床薬理学	4前	1				1					
【4024】腫瘍学	4前	1			2							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	【4025】高齢者医学	4前	1			1						
	【4026】救急・災害医療体験学習	3後	1				1			9		
	【4027】被ばく医療演習	3後	0.5			3	2			4		1
	【4028】臨床分子遺伝学	4前		1		1	1					
	【4029】移植医療学	4前		1		3		3				
	【4033】救急医療学	3前	1				1					
	【4034】医療薬学概論	3前	1									7
	小計 (28科目)	—	33.5	2		28	23	7	18	0		24
前臨床実習	【4030】症候学	4前	3			11	9					
	【4031】基礎-臨床統合演習	4前	19			31	12	2				
	【4032】基本的診療技能	4前	2			19	8	10				
	小計 (3科目)	—	24			34	15	10	0	0		
臨床実習	【5000】総合診療学演習	6前	6			19	26	25	21			
	【5001】診療科臨床実習	4後~5後	64			33	33	33	60			
	【5002】地域総合診療実習	6前	2			1	3					1
	【5003】地域包括医療実習	6前	4			1	3					
	小計 (4科目)	—	76			33	33	33	60	0		1
統括講義	【6001】統括講義	6後	36			33	12					
	小計 (1科目)	—	36			33	12	0	0	0		
	合計 (50科目)	—	193.0	2.0	0.0	46	38	35	70	0		34

卒業要件及び履修方法

必修科目255.5単位
 選択科目7単位以上
 (基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上)
 所要単位262.5単位以上修得すること

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
102 科目	15 科目	- 科目	117 科目	102 科目 [-]	15 科目 [-]	- 科目 [-]	117 科目 [-]	変更なし

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
	該当なし					

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{117} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	東北医科薬科大学―若 林病院取得のため (29)― 医学部教育研究棟完成 のため (30)― 東北医科薬科大学名取 守病院取得のため (30)―		
	校舎敷地	36,532.43㎡ 29,295.86㎡	— ㎡	— ㎡	36,532.43㎡ 29,295.86㎡			
	運動場用地	28,047.00㎡	— ㎡	— ㎡	28,047.00㎡			
	小 計	64,579.43㎡ 57,342.86㎡	— ㎡	— ㎡	64,579.43㎡ 57,342.86㎡			
	そ の 他	92,014.22㎡ 89,184.63㎡ 43,050.31㎡	— ㎡	— ㎡	92,014.22㎡ 89,184.63㎡ 43,050.31㎡			
	合 計	163,830.22㎡ 146,527.49㎡ 100,393.17㎡	— ㎡	— ㎡	163,830.22㎡ 146,527.49㎡ 100,393.17㎡			
(2) 校 舎	専 用	111,350.47㎡	— ㎡	— ㎡	111,350.47㎡	東北医科薬科大学―若 林病院取得のため (29)― 医学部教育研究棟完成 のため (30)―		
	(116,563.72㎡) (-99,854.67㎡) (-80,740.47㎡)	(— ㎡)	(— ㎡)	(116,563.72㎡) (-99,854.67㎡) (-80,740.47㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	36室 31室	演 習 室 58室 36室	実験実習室 58室 42室	情報処理学習施設 3室 (補助職員 — 人)	語学学習施設 — 室 (補助職員 — 人)	大学全体 福室キャンパス分増加 (30)	
	(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 医学部 医学科		室 数 48 44 室			教室数が増えたため (30)
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
	医学部 医学科	138,000 [53,000] (128,895 [49,888]) (-122,948 [-48,010]) (-119,413 [-47,259]) (-115,460 [-44,456]) (-114,831 [-44,110])	1,300 [550] (1,190 [540]) (-1,177 [540]) (-1,224 [540]) (-1,178 [539]) (-1,167 [533])	20,600 [16,100] (7,439 [6,028]) (-7,074 [5,724]) (-7,563 [5,723]) (-7,120 [5,395]) (-4,306 [2,688])	20,000 (581) (-572) (-614) (-614) (-607)	10,000 (4,288) (-3,805) (-3,266) (-3,433) (-4,648)	50 (28) (-18) (-11) (-15)	
	計	138,000 [53,000] (128,895 [49,888]) (-122,948 [-48,010]) (-119,413 [-47,259]) (-115,460 [-44,456]) (-114,831 [-44,110])	1,300 [550] (1,190 [540]) (-1,177 [540]) (-1,224 [540]) (-1,178 [539]) (-1,167 [533])	20,600 [16,100] (7,439 [6,028]) (-7,074 [5,724]) (-7,563 [5,723]) (-7,120 [5,395]) (-4,306 [2,688])	20,000 (581) (-572) (-614) (-614) (-607)	10,000 (4,288) (-3,805) (-3,266) (-3,433) (-4,648)	50 (28) (-18) (-11) (-15)	

(6) 図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体 福室キャンパス分増加。収納可能冊数は物理的に収納可能な冊数を記入(30)		
	2,625㎡ 2,036㎡		275 215		19.8万冊 17万冊				
(7) 体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	2,496.35㎡		テニスコート2面		-				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	医学部全体
		教員1人当り研究費等	400千円	500千円	図書購入費	0千円	50,000千円	5,000千円	
		共同研究費等	5,000千円	5,000千円	設備購入費	0千円	1,650,000千円	0千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		6,500千円	5,500千円	5,500千円	5,500千円	5,500千円	5,500千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	東北医科薬科大学									備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
薬学部										
薬学科	6	300	-	1800	学士 (薬学)	1.04		平成18年度	宮城県仙台市青葉区 小松島四丁目4番1号	
生命薬科学科	4	40	-	160	学士 (薬科学)	0.51		平成18年度	同上	
医学部										
医学科	6	100	-	600	学士 (医学)	1.00	変更なし	平成28年度	宮城県仙台市青葉区 小松島四丁目4番1号 (1~2年次) 仙台市宮城野区福室 1丁目15番1号 (3~ 6年次)	
薬学研究科										
薬学専攻	4	3	-	12	博士 (薬学)	1.08		平成24年度	宮城県仙台市青葉区 小松島四丁目4番1号	
薬科学専攻 博士前期課程	2	20	-	40	修士 (薬科学)	0.50		平成22年度	同上	
薬科学専攻 博士後期課程	3	3	-	9	博士 (薬科学)	0.77		平成24年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

＜医学部 医学科＞

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成28年度】

【平成29年度】

【平成30年度】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 ＜就任年月＞ 保有学位等	氏名 ＜就任年月＞ 保有学位等	氏名 ＜就任年月＞ 保有学位等	氏名 ＜就任年月＞ 保有学位等	氏名 ＜就任年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名
専任	教授	カミジョウ ケイジュ 上条 桂樹 ＜平成28年4月＞ 医学博士	カミジョウ ケイジュ 上条 桂樹 ＜平成28年4月＞ 医学博士	カミジョウ ケイジュ 上条 桂樹 ＜平成28年4月＞ 医学博士	カミジョウ ケイジュ 上条 桂樹 ＜平成28年4月＞ 医学博士	カミジョウ ケイジュ 上条 桂樹 ＜平成28年4月＞ 医学博士
		発生学 解剖学 解剖学実習 組織学実習 基礎-臨床統合演習	発生学 解剖学 解剖学実習 組織学実習 基礎-臨床統合演習	発生学 基礎生物学 基礎生物学実習 解剖学 神経解剖学 組織学 解剖学実習 組織学実習 基礎-臨床統合演習	発生学 基礎生物学 基礎生物学実習 解剖学 神経解剖学 組織学 解剖学実習 組織学実習 基礎-臨床統合演習	発生学 基礎生物学実習 解剖学 神経解剖学 組織学 解剖学実習 組織学実習 基礎-臨床統合演習
専任	教授	カワイ ヨシコ 河合 佳子 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	カワイ ヨシコ 河合 佳子 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	カワイ ヨシコ 河合 佳子 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	カワイ ヨシコ 河合 佳子 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	カワイ ヨシコ 河合 佳子 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）
		基礎生物学実習 生理学 生理学実習 基礎-臨床統合演習	基礎生物学 基礎生物学実習 生理学 生理学実習 基礎-臨床統合演習	基礎生物学 基礎生物学実習 生理学 生理学実習 基礎-臨床統合演習	基礎生物学 基礎生物学実習 生理学 生理学実習 基礎-臨床統合演習	基礎生物学 基礎生物学実習 生理学 生理学実習 基礎-臨床統合演習
専任	教授	マツザカ ヨシヤ 松坂 義哉 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	マツザカ ヨシヤ 松坂 義哉 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	マツザカ ヨシヤ 松坂 義哉 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	マツザカ ヨシヤ 松坂 義哉 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	マツザカ ヨシヤ 松坂 義哉 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）
		神経生理学 生理学実習 基礎-臨床統合演習	神経生理学 基礎生物学 基礎生物学実習 生理学実習 基礎-臨床統合演習	神経生理学 基礎生物学 基礎生物学実習 生理学実習 基礎-臨床統合演習	神経生理学 基礎生物学 基礎生物学実習 生理学実習 基礎-臨床統合演習	神経生理学 基礎生物学 基礎生物学実習 生理学実習 基礎-臨床統合演習
専任	教授	オカムラノフユキ 岡村 信行 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	オカムラノフユキ 岡村 信行 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	オカムラノフユキ 岡村 信行 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	オカムラノフユキ 岡村 信行 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	オカムラノフユキ 岡村 信行 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）
		薬理学 薬理学実習 基礎-臨床統合演習	薬理学 薬理学実習 基礎-臨床統合演習	薬理学 薬理学実習 基礎-臨床統合演習	薬理学 薬理学実習 基礎-臨床統合演習	薬理学 薬理学実習 基礎-臨床統合演習 臨床薬理学
専任	教授	ナカムラ ヤスヒロ 中村 保宏 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	ナカムラ ヤスヒロ 中村 保宏 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	ナカムラ ヤスヒロ 中村 保宏 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	ナカムラ ヤスヒロ 中村 保宏 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	ナカムラ ヤスヒロ 中村 保宏 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）
		病理学 病理学実習 環境疾病学 基礎-臨床統合演習	病理学 病理学実習 環境疾病学 基礎-臨床統合演習	病理学 病理学実習 環境疾病学 基礎-臨床統合演習	病理学 病理学実習 環境疾病学 基礎-臨床統合演習	病理学 病理学実習 環境疾病学 基礎-臨床統合演習
専任	教授	モリグチ タカシ 森口 尚 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	モリグチ タカシ 森口 尚 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	モリグチ タカシ 森口 尚 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	モリグチ タカシ 森口 尚 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	モリグチ タカシ 森口 尚 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）
		基礎化学実習 医化学 医化学実習 遺伝学 基礎-臨床統合演習	基礎化学 医化学 基礎化学実習 医化学実習 基礎-臨床統合演習	基礎化学 医化学 基礎化学実習 医化学実習 基礎-臨床統合演習	基礎化学 医化学 基礎化学実習 医化学実習 基礎-臨床統合演習	基礎化学 医化学 基礎化学実習 医化学実習 基礎-臨床統合演習
専任	教授	カンダ テル 神田 輝 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	カンダ テル 神田 輝 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	カンダ テル 神田 輝 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	カンダ テル 神田 輝 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	カンダ テル 神田 輝 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）
		微生物学Ⅰ 微生物学実習 基礎-臨床統合演習	微生物学Ⅰ 微生物学Ⅱ 微生物学実習 基礎-臨床統合演習	微生物学Ⅰ 微生物学Ⅱ 微生物学実習 基礎-臨床統合演習	微生物学Ⅰ 微生物学Ⅱ 微生物学実習 基礎-臨床統合演習	微生物学Ⅰ 微生物学Ⅱ 微生物学実習 基礎-臨床統合演習
専任	教授	ナカムラ アキラ 中村 晃 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	ナカムラ アキラ 中村 晃 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	ナカムラ アキラ 中村 晃 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	ナカムラ アキラ 中村 晃 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	ナカムラ アキラ 中村 晃 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）
		遺伝学 免疫学 免疫学実習 基礎-臨床統合演習	細胞生物学 遺伝学 免疫学 免疫学実習 基礎-臨床統合演習	細胞生物学 遺伝学 免疫学 免疫学実習 基礎-臨床統合演習	細胞生物学 遺伝学 免疫学 免疫学実習 基礎-臨床統合演習	細胞生物学 遺伝学 免疫学 免疫学実習 基礎-臨床統合演習
専任	教授	クリマサ アキヒロ 栗政 明弘 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	クリマサ アキヒロ 栗政 明弘 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	クリマサ アキヒロ 栗政 明弘 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	クリマサ アキヒロ 栗政 明弘 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）	クリマサ アキヒロ 栗政 明弘 ＜平成28年4月＞ 博士（医学）
		放射線基礎医学 放射線基礎医学体験学習 被ばく医療演習	放射線基礎医学 放射線基礎医学体験学習 被ばく医療演習	放射線基礎医学 基礎物理学実習 放射線基礎医学体験学習 被ばく医療演習	放射線基礎医学 基礎物理学実習 放射線基礎医学体験学習 被ばく医療演習	放射線基礎医学 基礎物理学実習 放射線基礎医学体験学習 被ばく医療演習
専任	教授	コイスマ ノブオ 濃沼 信夫 ＜平成28年4月＞ 医学博士	コイスマ ノブオ 濃沼 信夫 ＜平成28年4月＞ 医学博士	コイスマ ノブオ 濃沼 信夫 ＜平成28年4月＞ 医学博士	コイスマ ノブオ 濃沼 信夫 ＜平成28年4月＞ 医学博士	コイスマ ノブオ 濃沼 信夫 ＜平成28年4月＞ 医学博士
		医療管理学 統括講義	医療管理学 統括講義	医療管理学 統括講義	医療管理学 統括講義	医療管理学 統括講義

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		〈就任年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専任	講師	ワタナベ ゴウ 渡部 剛 〈平成29年4月〉 博士（医学） 内分泌学・代謝学 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	シバヤ タクミ 渋谷 拓見 〈平成28年4月〉 博士（医学） 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	サカグチ マサノブ 坂口 正展 〈平成29年4月〉 博士（医学） 診療科臨床実習
専任	講師	サトウ ナオアキ 佐藤 尚明 〈平成30年4月〉 博士（医学） 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	ヨシダ アキコ 吉田 明子 〈平成28年4月〉 博士（医学） 診療科臨床実習
専任	講師	カワゾエ ユウ 川副 友 〈平成29年4月〉 博士（医学） 救急・災害医療学体験学習 診療科臨床実習
専任	講師	オキツ ヨウコ 沖津 庸子 〈平成30年4月〉 博士（医学） 移植医療学
専任	講師	コイズミ ケンジ 小泉 賢治 〈平成29年4月〉 博士（医学） 全身管理学
専任	講師	ホシ クニヒコ 星 邦彦 〈平成28年4月〉 医学博士 全身管理学 麻酔学 診療科臨床実習 統括講義
専任	講師	イワクラ ヨシツグ 岩倉 芳倫 〈平成28年4月〉 博士（医学） 腎・泌尿器学 内分泌学・代謝学 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	スガワラ タカフミ 菅原 崇史 〈平成28年4月〉 博士（医学） 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	ワタナベ スグル 渡辺 卓 〈平成28年4月〉 博士（医学） 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	サイゴウ ヨウコ 西郷 陽子 〈平成28年4月〉 博士（医学） 移植医療学 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	助教	ヤマモト ユイ 山本 由似 〈平成28年4月〉 博士（薬学） 解剖学実習 組織学実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		〈就任年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専任	講師	ワタナベ ゴウ 渡部 剛 〈平成29年4月〉 博士（医学） 内分泌学・代謝学 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	サカグチ マサノブ 坂口 正展 〈平成28年4月〉 博士（医学） 診療科臨床実習
専任	講師	サトウ ナオアキ 佐藤 尚明 〈平成30年4月〉 博士（医学） 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	ヨシダ アキコ 吉田 明子 〈平成28年4月〉 博士（医学） 診療科臨床実習
専任	講師	カワゾエ ユウ 川副 友 〈平成29年4月〉 博士（医学） 救急・災害医療学体験学習 診療科臨床実習
専任	講師	オキツ ヨウコ 沖津 庸子 〈平成30年4月〉 博士（医学） 移植医療学
専任	講師	コイズミ ケンジ 小泉 賢治 〈平成29年4月〉 博士（医学） 全身管理学
専任	講師	ホシ クニヒコ 星 邦彦 〈平成28年4月〉 医学博士 全身管理学 麻酔学 診療科臨床実習 統括講義
専任	講師	イワクラ ヨシツグ 岩倉 芳倫 〈平成28年4月〉 博士（医学） 腎・泌尿器学 内分泌学・代謝学 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	スガワラ タカフミ 菅原 崇史 〈平成28年4月〉 博士（医学） 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	ワタナベ スグル 渡辺 卓 〈平成28年4月〉 博士（医学） 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	サイゴウ ヨウコ 西郷 陽子 〈平成28年4月〉 博士（医学） 移植医療学 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	助教	ヤマモト ユイ 山本 由似 〈平成28年4月〉 博士（薬学） 解剖学実習 組織学実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		〈就任年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専任	講師	ワタナベ ゴウ 渡部 剛 〈平成30年4月〉 博士（医学） 内分泌学・代謝学 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	サカグチ マサノブ 坂口 正展 〈平成28年4月〉 博士（医学） 診療科臨床実習
専任	講師	サトウ ナオアキ 佐藤 尚明 〈平成30年4月〉 博士（医学） 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	ヨシダ アキコ 吉田 明子 〈平成28年4月〉 博士（医学） 診療科臨床実習
専任	講師	オキツ ヨウコ 沖津 庸子 〈平成30年4月〉 博士（医学） 移植医療学
専任	講師	コイズミ ケンジ 小泉 賢治 〈平成30年4月〉 博士（医学） 全身管理学
専任	講師	ホシ クニヒコ 星 邦彦 〈平成28年4月〉 医学博士 全身管理学 麻酔学 診療科臨床実習 統括講義
専任	講師	イワクラ ヨシツグ 岩倉 芳倫 〈平成28年4月〉 博士（医学） 腎・泌尿器学 内分泌学・代謝学 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	スガワラ タカフミ 菅原 崇史 〈平成28年4月〉 博士（医学） 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	ワタナベ スグル 渡辺 卓 〈平成28年4月〉 博士（医学） 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	サイゴウ ヨウコ 西郷 陽子 〈平成28年4月〉 博士（医学） 移植医療学 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	助教	ヤマモト ユイ 山本 由似 〈平成28年4月〉 博士（薬学） 解剖学 神経解剖学 組織学 解剖学実習 組織学実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		〈就任年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専任	講師	ワタナベ ゴウ 渡部 剛 〈平成30年4月〉 博士（医学） 乳房外科学 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	ヨシダ アキコ 吉田 明子 〈平成28年4月〉 博士（医学） 麻酔学 診療科臨床実習
専任	講師	オキツ ヨウコ 沖津 庸子 〈平成30年4月〉 博士（医学） 移植医療学
専任	講師	コイズミ ケンジ 小泉 賢治 〈平成30年4月〉 博士（医学） 全身管理学
専任	講師	スガワラ タカフミ 菅原 崇史 〈平成28年4月〉 博士（医学） 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	サイゴウ ヨウコ 西郷 陽子 〈平成28年4月〉 博士（医学） 移植医療学 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	助教	ヤマモト ユイ 山本 由似 〈平成28年4月〉 博士（薬学） 解剖学 神経解剖学 組織学 解剖学実習 組織学実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		〈就任年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専任	准教授	ワタナベ ゴウ 渡部 剛 〈平成31年4月〉 博士（医学） 乳房外科学 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	ヨシダ アキコ 吉田 明子 〈平成28年4月〉 博士（医学） 麻酔学 診療科臨床実習
専任	講師	オキツ ヨウコ 沖津 庸子 〈平成30年4月〉 博士（医学） 移植医療学
専任	講師	スガワラ タカフミ 菅原 崇史 〈平成28年4月〉 博士（医学） 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	サイゴウ ヨウコ 西郷 陽子 〈平成28年4月〉 博士（医学） 移植医療学 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	助教	ヤマモト ユイ 山本 由似 〈平成28年4月〉 博士（薬学） 解剖学 神経解剖学 組織学 解剖学実習 組織学実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	助教	マゴメ タクヤ 馬込 卓弥 平成28年4月 博士(小児発達学)
		解剖学実習 組織学実習
専任	助教	アジマクミコ 安嶋久美子 (平成28年4月) 博士(理学)
		基礎生物学実習 生理学実習
専任	助教	ニシムラ ヨシアキ 西村 嘉晃 (平成28年4月) 博士(生命科学)
		生理学実習
専任	助教	ナガヌマ フミト 長沼 史登 (平成28年4月) 修士(医学)
		薬理学実習
専任	助教	ハタ シュウコ 端 秀子 (平成28年4月) 博士(農学)
		病理学実習
専任	助教	フカヤ サチコ 深谷 佐智子 (平成28年4月) 学士(医学)
		病理学実習
専任	助教	オオツキ アキヒト 大槻 晃史 (平成28年4月) 学士(歯学)
		基礎化学実習 医化学実習
専任	助教	タケダ カズヤ 武田 和也 (平成28年4月) 博士(理学)
		免疫学実習
専任	助教	カトウ アキヒロ 加藤 晃弘 (平成28年4月) 博士(学術)
		放射線基礎医学体験学習 被ばく医療演習
専任	助教	オガタ トモアキ 尾形 倫明 (平成28年4月) 博士(医学)
		医事法学
専任	助教	サトウ ミチヒロ 佐藤 倫広 (平成28年4月) 博士(医療薬学)
		衛生学体験学習
専任	助教	ヤマダ チホ 山田 千歩 (平成28年4月) 博士(医学)
		医事法学 法医学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	助教	アジマクミコ 安嶋久美子 (平成29年4月) 博士(理学)
		基礎生物学実習 生理学実習
兼任	講師	アジマクミコ 安嶋久美子 (平成28年4月) 博士(理学)
		基礎生物学実習
専任	助教	ニシムラ ヨシアキ 西村 嘉晃 (平成28年4月) 博士(生命科学)
		生理学実習
専任	助教	ナガヌマ フミト 長沼 史登 (平成28年4月) 博士(医学)
		薬理学実習
専任	助教	ハタ シュウコ 端 秀子 (平成28年4月) 博士(農学)
		病理学実習
専任	助教	フカヤ サチコ 深谷 佐智子 (平成28年4月) 博士(医学)
		病理学実習
専任	助教	オオツキ アキヒト 大槻 晃史 (平成28年4月) 博士(医学)
		基礎化学 医化学 基礎化学実習 医化学実習
専任	助教	タケダ カズヤ 武田 和也 (平成28年9月) 博士(理学)
		免疫学実習
専任	助教	カトウ アキヒロ 加藤 晃弘 (平成28年4月) 博士(学術)
		放射線基礎医学体験学習 被ばく医療演習
専任	助教	オガタ トモアキ 尾形 倫明 (平成28年4月) 博士(医学)
		医事法学
専任	助教	サトウ ミチヒロ 佐藤 倫広 (平成28年4月) 博士(医療薬学)
		衛生学 衛生学体験学習
専任	助教	ヤマダ チホ 山田 千歩 (平成28年4月) 博士(医学)
		医事法学 法医学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	アジマクミコ 安嶋久美子 (平成29年9月) 博士(理学)
		生理学実習
専任	助教	ニシムラ ヨシアキ 西村 嘉晃 (平成28年4月) 博士(生命科学)
		発生学 基礎生物学実習 生理学実習
専任	助教	ナガヌマ フミト 長沼 史登 (平成28年4月) 博士(医学)
		薬理学実習
専任	助教	ハタ シュウコ 端 秀子 (平成28年4月) 博士(農学)
		病理学実習
専任	助教	フカヤ サチコ 深谷 佐智子 (平成28年4月) 博士(医学)
		病理学実習
専任	助教	タケダ カズヤ 武田 和也 (平成28年11月) 博士(理学)
		免疫学実習
専任	助教	カトウ アキヒロ 加藤 晃弘 (平成28年4月) 博士(学術)
		放射線基礎医学体験学習 被ばく医療演習 基礎物理学実習
専任	助教	オガタ トモアキ 尾形 倫明 (平成28年4月) 博士(医学)
		医事法学
専任	助教	サトウ ミチヒロ 佐藤 倫広 (平成28年4月) 博士(医療薬学)
		衛生学 衛生学体験学習
専任	助教	ヤマダ チホ 山田 千歩 (平成28年4月) 博士(医学)
		医事法学 法医学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	助教	ニシムラ ヨシアキ 西村 嘉晃 (平成28年4月) 博士(生命科学)
		発生学 基礎生物学実習 生理学実習
専任	助教	ナガヌマ フミト 長沼 史登 (平成28年4月) 博士(医学)
		薬理学実習
専任	助教	ハタ シュウコ 端 秀子 (平成28年4月) 博士(農学)
		病理学実習
専任	助教	フカヤ サチコ 深谷 佐智子 (平成28年4月) 博士(医学)
		病理学実習
専任	助教	タケダ カズヤ 武田 和也 (平成28年11月) 博士(理学)
		免疫学実習 免疫学 遺伝学
専任	助教	ヤナギハラ アキヒロ 柳原 晃弘 (平成28年4月) 博士(学術)
		放射線基礎医学体験学習 被ばく医療演習 基礎物理学実習
専任	助教	オガタ トモアキ 尾形 倫明 (平成28年4月) 博士(医学)
		医事法学
専任	助教	サトウ ミチヒロ 佐藤 倫広 (平成28年4月) 博士(医療薬学)
		衛生学 衛生学体験学習
専任	助教	ヤマダ チホ 山田 千歩 (平成28年4月) 博士(医学)
		医事法学 法医学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	助教	ニシムラ ヨシアキ 西村 嘉晃 (平成28年4月) 博士(生命科学)
		発生学 基礎生物学実習 生理学実習
専任	助教	ナガヌマ フミト 長沼 史登 (平成28年4月) 博士(医学)
		薬理学実習
専任	助教	ハタ シュウコ 端 秀子 (平成28年4月) 博士(農学)
		病理学実習
専任	助教	フカヤ サチコ 深谷 佐智子 (平成28年4月) 博士(医学)
		病理学実習
専任	助教	タケダ カズヤ 武田 和也 (平成28年11月) 博士(理学)
		免疫学実習 免疫学 遺伝学
専任	助教	ヤナギハラ アキヒロ 柳原 晃弘 (平成28年4月) 博士(学術)
		放射線基礎医学体験学習 被ばく医療演習 基礎物理学実習
専任	助教	オガタ トモアキ 尾形 倫明 (平成28年4月) 博士(医学)
		医事法学
専任	助教	サトウ ミチヒロ 佐藤 倫広 (平成28年4月) 博士(医療薬学)
		衛生学 衛生学体験学習 公衆衛生学
専任	助教	ヤマダ チホ 山田 千歩 (平成28年4月) 博士(医学)
		医事法学 法医学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任年月> 保有学位等			<就任年月> 保有学位等			<就任年月> 保有学位等			<就任年月> 保有学位等			<就任年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
														ナカムラ ユタカ 中村 豊 <平成31年4月> 博士(医学)
														総合診療学演習 チーム医療体験学習 診療科臨床実習 早期医療体験学習 症候学 基礎-臨床統合演習
														カワカミ タミヒロ 川上 民裕 <平成30年10月> 博士(医学)
														統括講義 診療科臨床実習 基礎-臨床統合演習 皮膚科学
														オガタ マサキ 尾形 雅君 <平成31年4月> 博士(薬学)
														解剖学 神経解剖学 組織学 解剖学実習 組織学実習
														クマガイ コウジ 熊谷 浩司 <平成30年8月> 博士(医学)
														統括講義 総合診療学演習 診療科臨床実習 基本的診療技能 基礎-臨床統合演習 症候学 循環器学
														シロタ ユウコ 城田 祐子 <平成30年10月> 博士(医学)
														診療科臨床実習
														ヤマモト クニハル 山本 久仁治 <平成30年10月> 博士(医学)
														消化器学 総合診療学演習 診療科臨床実習
														イケダ タカハル 池田 高治 <平成31年3月> 博士(医学)
														診療科臨床実習 基礎-臨床統合演習
														アリカワ トモヒロ 有川 智博 <平成31年4月> 博士(医学)
														細胞生物学 免疫学 基礎化学 基礎化学実習 基礎生物学 基礎生物学実習 早期医療体験学習
														スガイ ヨシナオ 菅井 義尚 <平成30年8月> 博士(医学)
														循環器学 診療科臨床実習 基本的診療技能 僻地・被災地医療体験学習Ⅱ
														タカス アツコ 高須 充子 <平成30年10月> 博士(医学)
														診療科臨床実習 介護・在宅医療体験学習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	タナハシ コウタロウ 棚橋 浩太郎 (平成28年4月) 博士(理学)
		数学Ⅰ(基礎編) 大学基礎論 数学Ⅱ(応用・統計編)
兼任	教授	グ チェゴ 願 建国 (平成28年4月) 博士(医学)
		医学英語Ⅵ
兼任	教授	ヤマシタ タケシ 山下 剛 (平成28年4月) 文学修士
		大学基礎論 人と文化
兼任	教授	ホソノ マサヒロ 細野 雅祐 (平成28年4月) 博士(薬学)
		医学英語Ⅴ
兼任	教授	ササキ カツユキ 佐々木 克之 (平成28年4月) 体育学士
		スポーツ科学(体育実技) 大学基礎論 からだと健康
兼任	教授	コジマ リョウイチ 小島 良一 (平成28年4月) 文学修士
		医学英語Ⅰ 大学基礎論 医学英語Ⅱ 医学英語Ⅳ
兼任	教授	トミタ ミキオ 富田 幹雄 (平成28年4月) 博士(薬学)
		医療薬学概論
兼任	教授	スズキ ツネヨシ 鈴木 常義 (平成28年4月) 薬学士
		医療薬学概論
兼任	教授	ナガタ キヨシ 永田 清 (平成28年4月) 薬学博士
		医療薬学概論
兼任	教授	ナカムラ ヒトシ 中村 仁 (平成28年4月) 博士(薬学)
		医療薬学概論
兼任	教授	カトウ タダシ 加藤 正 (平成28年4月) 薬学博士
		医療薬学概論
兼任	教授	ヨシムラ ユウイチ 吉村 祐一 (平成28年4月) 薬学博士
		医療薬学概論
兼任	准教授	スギヤマ マサヒロ 杉山 雅宏 (平成28年4月) 博士(心理学)
		心の科学 行動心理学 大学基礎論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	タナハシ コウタロウ 棚橋 浩太郎 (平成28年4月) 博士(理学)
		数学Ⅰ(基礎編) 大学基礎論 数学Ⅱ(応用・統計編)
兼任	教授	グ チェゴ 願 建国 (平成28年4月) 博士(医学)
		医学英語Ⅵ
兼任	教授	ヤマシタ タケシ 山下 剛 (平成28年4月) 文学修士
		大学基礎論 人と文化
兼任	教授	ホソノ マサヒロ 細野 雅祐 (平成28年4月) 博士(薬学)
		医学英語Ⅴ
兼任	教授	ササキ カツユキ 佐々木 克之 (平成28年4月) 体育学士
		スポーツ科学(体育実技) 大学基礎論 からだと健康
兼任	教授	コジマ リョウイチ 小島 良一 (平成28年4月) 文学修士
		医学英語Ⅰ 大学基礎論 医学英語Ⅱ 医学英語Ⅳ
兼任	教授	トミタ ミキオ 富田 幹雄 (平成28年4月) 博士(薬学)
		医療薬学概論
兼任	教授	スズキ ツネヨシ 鈴木 常義 (平成28年4月) 薬学士
		医療薬学概論
兼任	教授	ナガタ キヨシ 永田 清 (平成28年4月) 薬学博士
		医療薬学概論
兼任	教授	ナカムラ ヒトシ 中村 仁 (平成28年4月) 博士(薬学)
		医療薬学概論
兼任	教授	カトウ タダシ 加藤 正 (平成28年4月) 薬学博士
		医療薬学概論
兼任	教授	ヨシムラ ユウイチ 吉村 祐一 (平成28年4月) 薬学博士
		医療薬学概論
兼任	准教授	スギヤマ マサヒロ 杉山 雅宏 (平成28年4月) 博士(心理学)
		心の科学 行動心理学 大学基礎論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	タナハシ コウタロウ 棚橋 浩太郎 (平成28年4月) 博士(理学)
		数学Ⅰ(基礎編) 大学基礎論 数学Ⅱ(応用・統計編)
兼任	教授	グ チェゴ 願 建国 (平成28年4月) 博士(医学)
		医学英語Ⅵ
兼任	教授	ヤマシタ タケシ 山下 剛 (平成28年4月) 文学修士
		大学基礎論 人と文化 ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	教授	ホソノ マサヒロ 細野 雅祐 (平成28年4月) 博士(薬学)
		医学英語Ⅴ
兼任	教授	ササキ カツユキ 佐々木 克之 (平成28年4月) 体育学士
		スポーツ科学(体育実技) 大学基礎論 からだと健康
兼任	教授	コジマ リョウイチ 小島 良一 (平成28年4月) 文学修士
		医学英語Ⅰ 大学基礎論 医学英語Ⅱ 医学英語Ⅳ
兼任	教授	トミタ ミキオ 富田 幹雄 (平成28年4月) 博士(薬学)
		医療薬学概論
兼任	教授	スズキ ツネヨシ 鈴木 常義 (平成28年4月) 薬学士
		医療薬学概論
兼任	教授	ナガタ キヨシ 永田 清 (平成28年4月) 薬学博士
		医療薬学概論
兼任	教授	ナカムラ ヒトシ 中村 仁 (平成28年4月) 博士(薬学)
		医療薬学概論
兼任	教授	カトウ タダシ 加藤 正 (平成28年4月) 薬学博士
		医療薬学概論
兼任	教授	ヨシムラ ユウイチ 吉村 祐一 (平成28年4月) 薬学博士
		医療薬学概論
兼任	准教授	スギヤマ マサヒロ 杉山 雅宏 (平成28年4月) 博士(心理学)
		心の科学 行動心理学 大学基礎論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	タナハシ コウタロウ 棚橋 浩太郎 (平成28年4月) 博士(理学)
		数学Ⅰ(基礎編) 大学基礎論 数学Ⅱ(応用・統計編)
兼任	教授	グ チェゴ 願 建国 (平成28年4月) 博士(医学)
兼任	教授	ヤマシタ タケシ 山下 剛 (平成28年4月) 文学修士
		大学基礎論 人と文化 ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	教授	ホソノ マサヒロ 細野 雅祐 (平成28年4月) 博士(薬学)
兼任	教授	ササキ カツユキ 佐々木 克之 (平成28年4月) 体育学士
		スポーツ科学(体育実技) 大学基礎論 からだと健康
兼任	教授	コジマ リョウイチ 小島 良一 (平成28年4月) 文学修士
		医学英語Ⅰ 大学基礎論 医学英語Ⅱ 医学英語Ⅳ
兼任	教授	トミタ ミキオ 富田 幹雄 (平成28年4月) 博士(薬学)
		医療薬学概論
兼任	教授	スズキ ツネヨシ 鈴木 常義 (平成28年4月) 薬学士
兼任	教授	ナガタ キヨシ 永田 清 (平成28年4月) 薬学博士
		医療薬学概論
兼任	教授	ナカムラ ヒトシ 中村 仁 (平成28年4月) 博士(薬学)
兼任	教授	カトウ タダシ 加藤 正 (平成28年4月) 薬学博士
兼任	教授	ヨシムラ ユウイチ 吉村 祐一 (平成28年4月) 薬学博士
		医療薬学概論
兼任	准教授	スギヤマ マサヒロ 杉山 雅宏 (平成28年4月) 博士(心理学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	タナハシ コウタロウ 棚橋 浩太郎 (平成28年4月) 博士(理学)
兼任	教授	グ チェゴ 願 建国 (平成28年4月) 博士(医学)
兼任	教授	ヤマシタ タケシ 山下 剛 (平成28年4月) 文学修士
		大学基礎論 人と文化 ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	教授	ホソノ マサヒロ 細野 雅祐 (平成28年4月) 博士(薬学)
兼任	教授	ササキ カツユキ 佐々木 克之 (平成28年4月) 体育学士
		スポーツ科学(体育実技) 大学基礎論 からだと健康
兼任	教授	コジマ リョウイチ 小島 良一 (平成28年4月) 文学修士
		医学英語Ⅰ 大学基礎論 医学英語Ⅱ 医学英語Ⅳ
兼任	教授	トミタ ミキオ 富田 幹雄 (平成28年4月) 博士(薬学)
		医療薬学概論
兼任	教授	スズキ ツネヨシ 鈴木 常義 (平成28年4月) 薬学士
兼任	教授	ナガタ キヨシ 永田 清 (平成28年4月) 薬学博士
		医療薬学概論
兼任	教授	ナカムラ ヒトシ 中村 仁 (平成28年4月) 博士(薬学)
兼任	教授	カトウ タダシ 加藤 正 (平成28年4月) 薬学博士
兼任	教授	ヨシムラ ユウイチ 吉村 祐一 (平成28年4月) 薬学博士
		医療薬学概論
兼任	准教授	スギヤマ マサヒロ 杉山 雅宏 (平成28年4月) 博士(心理学)

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
140 名	30 名

(注) ・大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

	設置時の計画					現在（報告書）の状況				
	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
医学部 医学科	34 (25)	49 (34)	25 (19)	50 (34)	158 (112)	47	46	33	59	185
附属 病院	- (-)	- (-)	2 (-)	13 (10)	15 (10)	-	-	3	20	23
教養教育センター	4 (4)	3 (3)	2 (2)	2 (2)	11 (11)	4	3	2	3	12
	現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
	教授	准教授	講師	助教	計(C)	教授	准教授	講師	助教	計(D)
医学部 医学科	48 [14]	46 [△3]	34 [9]	60 [10]	188 [30]	52 [18]	43 [△6]	50 [25]	88 [38]	233 [75]
附属 病院	- [-]	- [-]	3 [1]	21 [8]	24 [9]	- [-]	- [-]	3 [1]	24 [11]	27 [12]
教養教育センター	4 [-]	3 [-]	2 [-]	3 [1]	12 [1]	4 [-]	3 [-]	2 [-]	3 [1]	12 [1]

(注) ・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年 年齢(歳)	報告書提出時(上 記(B))の教員 のうち、定年を延 長して採用してい る教員数	完成年度時(上記 (C))の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	3 名	11 名

(注) ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)

(2) - ④設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{224}{184} = \boxed{121.73} \%$$

(注) ・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{3}{220} = \boxed{1.36} \%$$

(注) ・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>設 置 時 (平成28年)</p>	<p>1. 修学資金枠55人と一般枠45人という入学者枠の運用に当たっては、地域への医師定着や震災復興等、東北地方に新たに医学部を設置することとなった経緯や趣旨が損なわれることのないよう留意すること。</p>	<p>修学資金受給の有無にかかわらず、全ての学生が東北六県のいずれかを訪問・滞在し学ぶ地域滞在型の地域医療教育を行う。一般枠の学生の配置県を決定するために、「大学基礎論」の講義の中に、各県の担当者が来学して「各県の歴史・文化、医療の姿、研修体制」などを紹介する講義を設定した。学生は紹介内容をもとに希望県を申請し、東北6県のバランスを考慮しながら配置県を教務委員長が決定する。また、少人数教育、グループ学習については、一般枠学生だけで構成されることのないよう、配慮する。一般枠学生も入学試験の小論文および面接によって東北地方の地域医療への熱意があると判断されて入学しており、特徴ある地域医療教育により、さらに熱意と使命感を醸成し卒後の東北地方定着をめざす。また、同様の趣旨より、一般枠学生からの奨学金の相談に対しては、上記の配置県の自治体および自治体病院による奨学金を紹介していく体制を、学生委員会の業務の一つとして、構築した(28)</p>	<p>—</p>
<p>設 置 時 (平成28年)</p>	<p>2. 卒業後の取組として挙げられている「医師循環システムの構築」について、その概要は理解できるものの、システムの運用に向けた学内の体制やプロセス等については具体的な内容が明確に示されておらず不明瞭である。そのため、本計画が本学医学部の特色として十分に機能する形で実施できるよう、学内の体制整備等、実施に向けた環境整備を万全にすること。</p>	<p>宮城県における『医師循環システム』の構築について説明する。8年後には、A方式修学資金枠30名および宮城県一般枠医学部生修学資金を受けた一般枠学生が宮城県内の病院に勤務することになる。宮城県内の病院群を規模と機能を考慮して大、中、小病院に分けて、これらを2年間程度ごとに循環して医師として研鑽を積み地域医療に貢献するとともに、キャリア・アップを計るシステムを構築するために、宮城県（修学資金出資者）と協議を開始したところである。なお、宮城県には「宮城県医師育成機構」があり、東北大学医学部が中心となり、宮城県医師会、県内の主要病院の院長および宮城県当局が協力して医師の臨床研修のサポート、および県内病院の医師適正配置について調整を行ってきた。本年4月1日より、福田医学部長、および近藤統括病院長が理事として同機構に加わり、活動を開始したところである。また、卒後の研究やキャリア形成を支援する学内組織として、卒後研修担当教授をセンター長とする「卒後研修センター」と地域医療学教授をセンター長とする「地域医療総合支援センター」を立ち上げた。「卒後研修センター」による研修の支援・研修プログラムの管理と「地域医療総合支援センター」による研修期間の診療支援の両輪により、『医師循環システム』を効果的に動かしながらキャリア形成を支援し、地域定着につなげる。現時点では、「地域医療総合支援センター」は、本学医師の地域病院への派遣（当面は非常勤医師）を調整する組織として機能させる。これらを通じて積み上げた地域病院への医師派遣実績を「医師循環システムの構築」に反映させる(28)</p>	<p>今後、「医師循環システム」の構築と運用について、宮城県医師育成機構の協力・支援を求め、宮城県以外の東北5県については、修学資金を受給したA方式1名、B方式平均4名の卒業生が勤務することになる。この5名を適切に循環させるために、当該県独自の修学資金受給医師（他大学医学部卒業）の循環システムの中に組み入れて貰うよう、県当局および地元医学部の協力を要請する予定である。(28)</p> <p>宮城県内における修学資金貸与学生の卒後医師の配置先病院でのキャリア形成支援を含めたローテーションの仕組みなどについて、県当局と協議を始めている。(29)専門医制度の実施を踏まえ、特に資金循環型修学資金（A方式、1学年35名枠）を受給した者について、①キャリア形成に配慮した義務年限への組み込み方、②基幹施設と連携施設のローテーションの組み合わせ、③実施にあたっての課題と対応等を中心に、宮城県医療人材対策室との間で検討を進めている。</p> <p>宮城県を除く東北5県については、A宮城の対応を参考にして実施することを予定しており、各県の個別事情を把握しながら、実施にあたっての課題等の情報交換を行っている。(30)</p> <p>A方式宮城県枠学生（30名）及び宮城県を除くA方式東北5県枠学生（5名）の卒業後の配置について、今後各県行政当局・地元医学部等との協議を本格化させる予定。（元）</p>

<p>設置時 (平成28年)</p>	<p>3. 「医療薬学概論」の内容の一部が他の薬学系科目の内容と重複していると思われることから、他の薬学系科目を含めて全体として体系的な教育が行われるよう、科目内容の精査を行い必要に応じて修正をすること。なお、現在示されている科目内容においては、薬学の知識として重要と考えられる「創薬」に関する内容が十分に含まれておらず取り扱う内容がやや偏っていると思われることから、科目内容の精査・修正に当たっては、「創薬」に関する内容が十分に盛り込まれるよう留意すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>基礎化学とその応用である創薬化学や製剤・調剤学、さらに、体内動態からみた副作用など臓器横断的な学習内容、実際の薬物治療における薬剤師の役割と医師との連携、薬害防止などを、本学薬学部各分野の専門教員に教授してもらう。シラバス作成に当たり、医学部関連科目の担当教員と内容についてすり合わせを行った(30)</p>	<p>履行済</p> <p>—薬学系科目の内容を、特に「創薬」に関する内容を含め体系的に教育できるよう、「医療薬学概論」の内容を修正する。具体的には、基礎化学（医薬品の構造と活性、合成化学）とその応用である創薬化学や製剤・調剤学、さらに、体内動態からみた副作用など臓器横断的な学習内容、実際の薬物治療における薬剤師の役割と薬害防止などを、本学薬学部各分野の専門教員に教授してもらう。シラバス作成に当たっては、医学部関連科目の担当教員と内容について十分なすり合わせを行う予定である(28)</p>
<p>設置時 (平成28年)</p>	<p>4. シラバスは、旧来のGIO、SBOではなく、卒業時における到達目標を定め、それに従って各科目を位置付けた上で、評価方法についても明示するなど、グローバルスタンダードである学習成果基盤型教育に則って記載することが望ましい。</p>	<p>留意事項</p>	<p>シラバスは、グローバルスタンダードである学習成果基盤型教育に則って作成した。すなわち、卒業時に修得しておくべき3つのアウトカムを設定し、そのために身につけるべき8つの能力を明記した。シラバスには、各科目の学習において、その8つの能力ごとに達成すべきレベルと授業方法および評価方法を記載した。また、シラバスには、能力を段階的に身につけていく上で関連する科目を記載し、科目間の関連性をカリキュラムツリーとして示した。学習成果基盤型教育については、『学生便覧・シラバス 平成28年度』に記載し、また、入学時のオリエンテーションの際に詳細に説明を行った(28)</p>	<p>履行済</p> <p>今後、8つの能力のそれぞれについて、より詳細・具体的な達成目標を設定していく予定である(28)</p>
<p>設置時 (平成28年)</p>	<p>5. 教室名称については、患者や学生にとって分かりやすいものであることが望ましいが、内科学と外科学の教室に用いられる「第一～第三」という名称は便宜的な印象を与えるので、それが妥当なものであるか検討し、必要であればより分かりやすい名称に変更すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>本学の使命が、「地域医療に貢献できる幅広い診療能力を持った総合診療医の養成」であることを考慮し、内科学および外科学だけは小講座制を採用した。内科学第一教室では循環器内科学および呼吸器内科学のそれぞれ専門性を活かしながら、一つの教室の中で専門外の領域も容易に勉強できるという、医師（特に若い医師）にとっての利点がある。この点は学ぶ学生にとっても利点と考える。また、附属病院では、循環器内科、呼吸器内科という診療科名のもとで診療を行うので（教室名は表示しない）、患者にとっても学生にとっても分かりにくいという事態は生じない。さらに、同一教室内であるために容易にコンサルトでき、患者を転科させることなく教室内の仲間から支援を受けながら、診療を行うことが可能となる。少しでも専門が違えば、多科への紹介・転科が頻繁に行われることが大病院の弊害と言われている。教室（講座）を専門別にした場合は、専門内容が患者や学生にとってわかりやすいという利点はあるが、教室間の壁により、いくつかの弊害が生じることが指摘されている。数字ではなく、大講座の全体像を表す名称を用いることも可能であるが、「第一～第三」の教室名は後ろにカッコ書きで診療科名を入れて、下記のとおり教室名とした(28)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「内科学第一」を「内科学第一（循環器内科）」「内科学第一（呼吸器内科）」に変更。 ・「内科学第二」を「内科学第二（消化器内科）」「内科学第二（糖尿病代謝内科）」に変更。 ・「内科学第三」を「内科学第三（腎臓内分泌内科）」「内科学第三（血液・リウマチ科）」に変更。 ・「外科学第一」を「外科学第一（肝胆膵外科）」「外科学第一（消化器外科）」に変更。 ・「外科学第二」を「外科学第二（呼吸器外科）」に変更。 ・「外科学第三」を「外科学第三（乳腺・内分泌外科）」に変更。 	<p>履行済</p>

<p>設置時 (平成28年)</p>	<p>6. 附属病院の整備計画について、以下の各点に留意すること。 (1) 診療に当たる医師数を学部開設後も段階的に増加させ、完成年度時点で260人程度の規模とする計画について、附属病院の診療要員の確保は医学部の教育を実施する上でも重要なものであることから、適切な人員が確保できるよう計画を着実に実行すること。 (2) 新病棟の建設や仙台医療圏の2病院の統合等、学部開設後も機能拡充に向けた動きが続くことから、これらの動きが円滑に行われるよう、計画を着実に実行すること。 (3) 既存の他大学医学部の附属病院と遜色のない高度な運営基盤の構築が早期に行われるよう、スタッフ数や施設設備等の更なる増強を可能な限り早期に行うことが望ましい。</p>	<p>留意事項</p>	<p>(1) 平成28年4月には、外部機関からの医学部教員採用及び第3病院の譲受けがあり、医師の総数としては、計151名(本院117名+第3病院34名)確保している。(28) 平成29年4月時点では、計179名<本院の臨床系教員141名+本院の診療要員(教員でない医師)14名+第3病院の診療要員(教員でない医師)24名>を確保している。(29) (2) 平成28年4月に第3病院(199床)の譲受けは完了しており(「東北医科薬科大学 若林病院」(以下、「若林病院」という。))として運営)、医学部附属病院として目安となる600床以上の教育環境を確保している。(28) 平成29年3月、本院を増床する新病院棟(150床規模)の建設工事を開始している。(平成31年4月供用開始予定)(29) 本院と若林病院との連携や機能分担等を協議する両院連携ワーキングを病院経営委員会の下部組織として立上げ、種々の課題について協議をしている。第2病院との統合交渉については、平成29年2月、事業譲受に向けて「中間合意書」を締結している。(29) (3) 平成28年度から、診療科として従来の22診療科から28診療科に機能を強化した。(「腎臓内分泌内科」「感染症内科」「乳腺・内分泌外科」「小児科」「病理診断科」「救急科」を新たに開設)※「歯科」も「歯科口腔外科」に機能強化(28) 平成28年度は、医療機器については、本院に最新型の手術用ロボットを導入、同じく最新機種「MRI」2台を設置するなど、設備の強化に努めた。ICT化についても平成29年2月、本院に電子カルテシステムを導入(若林病院は導入済)した。また、本院は医師等医療スタッフの増員もあり、外来・入院ともに患者数が増加しており、これに対応する既存病院棟の改修工事も順次進めている。(29) 平成29年度の新設診療科は「緩和ケア内科」で、計29診療科となる。(29)</p>	<p>(1) 平成29年度より、第2教育研究棟、第1教育研究棟、新大学病院棟が約1年間隔で3年かけて順次整備され、教員を収容するスペースが段階的に拡大していくのに合わせて段階的に教員数を確保するように、公募などにより計画的に増員していく予定である。現時点での計画としては、平成29年度に33名、平成30年度に30名、平成31年度以降は完成年度まで毎年15名ずつの採用を計画しており、総数としては計259名程度を目指している。(28) 現時点の教員(医師)の採用計画としては、29年5月以降に7名、30年度中は22名、採用予定者としてほぼ確定している。その後も、令和元年度から完成年度(令和3年度)まで毎年15名程度ずつの採用を計画しており、総数として260名程度の医師数確保を目指している。(29) (2) 東北医科薬科大学病院(以下、「本院」という。)と若林病院との協力・連携、機能分担等の効率化・合理化を進める一方、本院の施設・設備、人員の拡充・強化を進め少しずつ見直し、診療機能の効率化・高度化のよい医療提供の場、および医学・薬学のそと臨床教育機能の向上を図る実践の場としてなるように工夫していく計画予定である。同じような診療科については、双方の協議のもとに診療内容の分担なども検討する。また、新大学病院棟完成と2病院再編統合までの間、それぞれの病院の特徴を活かして臨床研修医の獲得などに努力する。 1病院を譲り受けたことにより、教育上必要な診療科を備え、教育・研究体制を整えつつある。 大学病院の機能をさらに充実させるため、平成29年9月1日付けで第2病院を譲受けし、「東北医科薬科大学 名取守病院」として開設した。(29) 現在交渉中である第2病院(約60床)の譲受けを早期に実現するについて、引き続き最大限の努力をする。 —今年度中の譲受けで(平成29年9月頃)現時点では、概ね折り合いがついて見通しを持っている。(2928)平成31年度から予定している3病院の機能分担、病床再編、人員配置等の具体化と実施に向けた準備を進めている。本院と若林病院間の病床移動について、地元医師会からの意見確認を済ませ、現在行政手続きを進めている。(30) 平成31年4月より、本院の既存病院棟に隣接する新大学病院棟を開設した。それに併せて若林病院から本院へ病床を移動(88床)した。 また、減床した若林病院は地域のニーズに応え、一部を回復期リハビリテーション病棟に転用するなど病院機能の多様化を進めた。 令和2年9月には、名取守病院から本院へ病床を移動し、本院の診療機能を強化する予定であり、これにつき具体的な行政手続きを開始した。(元) (3) 医師以外の医療スタッフを徐々に増員するとともに、新大学病院棟完成までの間も救急センターの整備、手術用ロボットの導入、ICT化、MRIの増設、手術機器類の更新増設(眼科、脳外科、泌尿器科、整形外科)、産科医療再開のための施設改修などを進め、医療の広がりとともに厚みも増すような対応を進め、診療機能および教育機能の一層の強化を図る。新大学病院棟完成時には手術用ロボットの導入、最新の放射線治療装置、ハイブリッド手術室などの最新機器、設備の稼働を計画している。(2928)平成29年度の新設診療科として「緩和ケア内科」「肝胆膵外科」、平成30年度に「脳神経外科」「形成外科」「ペインクリニック外科」を設置した。(30) 本院は、新大学病院棟の稼働に伴い、ICUを8床から14床に、血管撮影室を2室から3室に、手術室を7室から9室(バイオクリーンルーム、ハイブリッド型各1室を含む)に増設した。同時に、高精度の放射線治療装置や血管撮影装置を増設した他、手術関連等の医療機器の整備を行った。 一方、既存病院棟を活用して強化する主な診療機能として、外来での抗がん剤治療、産科(分娩は9月より開始)、血液内科等がある。 院内の改修により、外来診療機能を強化する一方、救急病棟の新設、無菌室の整備、内視鏡センターの拡充等を行う。 また、10月から始まる臨床実習に備え、研修設備の充実も進める予定である。(元)</p>
------------------------	--	-------------	--	--

<p>設置時 (平成28年)</p>	<p>7. 教員の補充を必要とされた8授業科目については、科目開講時までに教員を充足すること。うち、専任教員の配置を必要とされた3授業科目については、確実に専任教員を配置すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>専任教員の配置が必要とされた授業科目のうち、「介護・在宅医療体験学習（専任補充2名）」については、専任教員を配置した（長谷川薫助教、峯岸英絵助教）。 「移植医療学」については、片寄友教授を後任として平成29年4月のAC教員審査で申請済みである。 また、兼任補充が必要とされた「救急・災害医療体験学習」は福家良太助教、「僻地・被災地医療体験学習Ⅰ」は住吉剛忠助教、「僻地・被災地医療体験学習Ⅱ」は佐藤大希講師を配置した（29） （佐藤大希講師は平成30年1月末で退職のため、「僻地・被災地医療体験学習Ⅱ」の後任として菅井義尚講師を平成30年3月のAC教員審査で申請中済である（30）） （福家良太助教は平成31年1月末で退職のため、「救急・災害医療体験学習」の後任として山家研一郎助教を平成31年3月のAC教員審査で申請中である（元）） 後任補充が必要とされた残り2科目（ともに総合診療学演習）については、川本俊輔教授、澤田健太郎助教を配置した（元）</p>	<p>履行中</p>	<p>—ご指摘の8科目（のべ科目数）について、留意事項6への対応に連動させて、科目開講時までに教員を補充する予定である（28）— —残りの2科目については、科目開講時までに教員を補充する予定である（29）— 残り2科目のうち、1科目（総合診療学演習）については、平成30年7月のAC教員審査において後任の補充を行う予定である（30）— 残り2科目の後任補充を行った。後任補充を行った1科目について後任者が退職したため、後任者を教員申請中（元）</p>
<p>設置時 (平成28年)</p>	<p>「医師循環システム」のモデル例として示されている図の一部において、大学病院の期間のみに「キャリア形成」という言葉を用いているが、キャリア形成は期間全体と通じて行われるべきものであることから、モデル例のような言葉の使い方は適切でないと思われる。そのため、「医師循環システム」を学生に説明する際には、制度全体の趣旨について誤解を招かないような説明方法を検討することが望ましい。</p>	<p>その他意見</p>	<p>キャリア形成は全ての病院、全ての期間が該当するので表現を改めて、誤解のないよう学生に説明を行う。大学病院や高度医療病院等に言及する場合には、「専門医の取得等を目的とする研修」という表現を用いる（28）</p>	<p>履行済</p>	<p>—</p>
<p>設置時 (平成28年)</p>	<p>動物実験施設について、将来的に福室キャンパスにも設置する方向で検討しているとのことだが、同施設は医学教育を行う上で重要な施設であることから、設置を積極的に検討することが望ましい。</p>	<p>その他意見</p>	<p>動物を用いる実習（1、2年次）はすべて小松島キャンパスで行うため、小松島キャンパス現有の動物実験施設の使用で教育に支障はないと考えている。ただし、研究上および将来の大学院教育には福室キャンパスにも動物実験施設は必須と考えている。福室キャンパスに建設予定の第1教育研究棟7階の一部に動物飼育・実験室を設置することを確定した（平成30年4月使用開始）（3028）</p>	<p>履行済</p>	<p>—別棟の動物実験施設を、将来、福室敷地内に建設することを検討する（28）— なお、第1教育研究棟7階の一部に整備する「動物飼育室」は面積を拡張し設置することとした（計画の一部変更）。（3029）</p>
<p>設置計画履行状況調査時 (平成29年)</p>	<p>附属病院の整備計画のうち、認可時の計画から遅れている1病院の譲渡についての今後の具体的な見通しを報告すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>—</p>	<p>履行済</p>	<p>平成29年6月までに5月31日付で同病院の事業譲受に係る契約を締結し、その後行政機関との協議など所要の手続きを経て、同9月頃病院事業を譲受ける予定である。（29）平成29年9月1日付で病院事業の譲受けを完了し、「東北医科薬科大学名取守病院」として開設した。（29）</p>

<p>設置計画履行状況調査時 (平成29年)</p>	<p>同一設置者が設置する既設学部等(薬学部生命薬科学科)の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>—</p>	<p>履行中</p>	<p>29年度の入試においては、入試広報等に注力した結果、入学者数が16名(昨年度)から27名に増員した。 引き続き入試相談会や高校訪問などの入試広報活動に力を入れるとともに、製薬企業やCROなどへの良好な就職状況(就職・進学率は毎年ほぼ100%)をPRしつつ、受験者への門戸を広げるため、入試科目の理科に化学の他に「生物」を選択科目に加える予定である。(入試科目の追加については、混乱を避けるべく現在の高校1年生を対象とし令和2年度入試からの予定。) なお、「生物」を入試で選択した学生を対象に専門選択科目に生物系の科目を多く配置するなど、カリキュラムの改正も実施する予定である。 就職・進学を見据えたカリキュラム改正及び入試科目の見直し等を実施し、他の理系学科にはない「くすりとヒトに関わる」幅広い知識と技能を学べる特色・特徴を、一層積極的にPRすることにより学生確保を目指していく。(29)</p>
<p>設置計画履行状況調査時 (平成30年2月)</p>	<p>同一設置者が設置する既設学部等(薬学部生命薬科学科)の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>—</p>	<p>履行中</p>	<p>引き続き、入試相談会や高校訪問などの入試広報活動に力を入れるとともに、製薬企業やCROなどへの良好な就職状況(就職・進学率は毎年ほぼ100%)をPRしつつ、受験者への門戸を広げるため、入試科目の理科に化学の他に「生物」を選択科目に加える予定である。(入試科目の追加については、混乱を避けるべく現在の高校1年生を対象とし令和2年度入試からの予定。) なお、「生物」を入試で選択した学生を対象に専門選択科目に生物系の科目を多く配置するなど、カリキュラムの改正も実施する予定である。 就職・進学を見据えたカリキュラム改正及び入試科目の見直し等を実施し、他の理系学科にはない「くすりとヒトに関わる」幅広い知識と技能を学べる特色・特徴を、一層積極的にPRすることにより学生確保を目指していく。-(30)-(元)</p>

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<医学部 医学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>教員構成</p> <p>設置認可申請時における予定専任教員数は、173名である。そのうち43名は、本学薬学部及び附属病院医師から内部登用している。</p> <p>専任教員の分野別内訳と配置数</p> <p>・基礎医学系教室 解剖学（4名）、生理学（3名）、神経科学（3名）、薬理学（3名）、病理学（5名）、医科学（3名）、微生物学（2名）、免疫学（3名）、放射線基礎医学（3名）、医療管理学（3名）、衛生学・公衆衛生学（3名）、法医学（2名） 合計 12教室 37名</p> <p>・臨床医学系教室 内科学第一（11名）、内科学第二（11名）、内科学第三（9名）、地域医療学（6名）、老年神経内科学（5名）、腫瘍内科学（3名）、精神科学（3名）、小児科学（6名）、外科学第一（12名）、外科学第二（6名）、外科学第三（5名）心臓血管外科学（5名）、整形外科学（4名）、脳神経外科学（5名）、皮膚科学（3名）、泌尿器科学（3名）、眼科学（4名）、耳鼻咽喉科学（6名）、放射線医学（6名）、産婦人科学（6名）、麻酔科学（4名）、救急・災害医療学（3名）、リハビリテーション学（4名） 合計 23教室 130名</p> <p>・医学教育推進センター（1名）</p> <p>・病院中央部門 臨床検査部（1名）、輸血部（1名）、血液浄化部（1名）、感染制御部（1名） 合計 4部 4名</p> <p>その他、病院中央部門に以下の部等を置き、臨床医学系教員等が担当する。 放射線部（2名）、手術部（1名）、薬剤部（2名）、病理部（2名）、救急・救命センター（2名）、医療安全部（1名）、周産母子センター（1名）、リハビリテーション部（1名）、集中治療部（2名）、歯科（1名）、地域医療連携センター（1名）</p> <p>教員構成の特色</p> <p>173名の専任教員の職位別構成は、教授、准教授・講師、助教がそれぞれ34名、76名、63名である。</p> <p>教員組織の年齢構成及び定年の扱い</p> <p>完成年次における年齢構成は、30歳代14名、40歳代62名、50歳代68名、60歳以上29名となる。</p> <p>専任教員数（採用計画） ※A C面接調査（H28.10実施）時の指摘による追加項目</p>	<p>完成年度における予定専任教員数（教養教育センターを除く）は、225名である。そのうち74名は、本学薬学部及び附属病院医師から内部登用している。</p> <p>・基礎医学系教室 解剖学（5名）、生理学（3名）、神経科学（3名）、薬理学（3名）、病理学（5名）、医化学（3名）、微生物学（3名）、免疫学（3名）、放射線基礎医学（3名）、医療管理学（3名）、衛生学・公衆衛生学（3名）、法医学（3名） 合計 12教室 40名</p> <p>・臨床医学系教室 内科学第一（循環器内科）（10名）、内科学第一（呼吸器内科）（6名）、内科学第二（消化器内科）（18名）、内科学第二（糖尿病代謝内科）（5名）、内科学第三（腎臓内分泌内科）（8名）、内科学第三（血液・リウマチ科）（9名）、地域医療学（8名）、老年神経内科学（6名）、腫瘍内科学（2名）、精神科学（6名）、小児科学（4名）、外科学第一（肝胆膵外科）（4名）、外科学第一（消化器外科）（8名）、外科学第二（呼吸器外科）（8名）、外科学第三（乳腺・内分泌外科）（4名）、心臓血管外科学（5名）、整形外科学（5名）、脳神経外科学（5名）、皮膚科学（3名）、泌尿器科学（6名）、眼科学（4名）、耳鼻咽喉科学（7名）、放射線医学（8名）、産婦人科学（6名）、麻酔科学（6名）、救急・災害医療学（7名）、リハビリテーション学（4名）、形成外科学（3名）、臨床検査医学（2名）、感染症学（2名） 合計 30教室 179名</p> <p>・医学教育推進センター（3名）</p> <p>・病院中央部門 輸血部（2名）、血液浄化部（2名） 合計 2部 4名</p> <p>その他、病院中央部門に以下の部等を置き、臨床医学系教員等が担当する。 放射線部（2名）、手術部（1名）、薬剤部（2名）、病理診断科（3名）、救急・救命センター（2名）、医療安全部（1名）、周産母子センター（1名）、リハビリテーション部（1名）、集中治療部（2名）、歯科口腔外科（1名）、地域医療連携センター（1名）、気管支鏡センター（1名）</p> <p>225名の専任教員の職位別構成は、教授、准教授・講師、助教がそれぞれ49名、84名、92名である。</p> <p>完成年次における年齢構成は、30歳代38名、40歳代76名、50歳代78名、60歳以上33名となる。</p> <p>令和元年5月時点の専任教員数（教養教育センターを除く）としては208名着任済みである【参照：5 教員組織の状況(2)-②専任教員数等】。完成年度（令和3年度）まで毎年15名程度ずつの採用を計画しており、総数として260名程度の教員数確保を目指している。</p>

・形成外科学教室の新設について

①設置理由

形成外科学は、先天的あるいは後天的な身体表面の醜状変形に対して、手術により機能および形態的を正常に復することで、個人の社会適合をサポートすることを目的とする外科学の一分野である。診療内容は全身の体表先天異常、外傷による変形・欠損（主として顔面と手）、熱傷瘢痕やケロイドによる変形・変色、悪性腫瘍手術後の再建（特に頭蓋、顔面の悪性腫瘍の切除手術による組織欠損・体表の変形）など幅広く、それぞれの専門外科では対応できない術後の形態・機能障害の患者を対象として、専門外科医と連携して治療にあたる。このように外科手術法の拡大・高度化による治療範囲の拡大と患者のQOLを改善する形成外科学は密接な関係にある。そこで、形成外科学教室（病院診療科：形成外科）を新設して病院診療機能の強化を図るとともに、この領域の学部教育、卒後教育を充実させる。

②設置の効果

1) 各専門外科では対応できない術後の形態・機能異常の改善を通じて、患者の円滑な社会復帰に貢献できる。大学病院として必須の診療機能と考える。

2) 外科系の講義・臨床実習のなかに形成外科学を盛り込むことにより、専門科横断的な臨床医学教育が充実する。

3) 形成外科学専門医を養成する教育体制が整い、後期研修医を引きつけることができる。

・教室定員（当面3名とする）

教授 権太 浩一（平成30年4月1日着任）

講師 高地 崇、館 一史（平成30年4月1日着任）

・病院診療体制

病院に「形成外科外来」を新設

・臨床検査医学教室の新設について

①設置理由

血液・生化学検査、微生物検査、生理検査、輸血検査などの臨床検査医学はEBMの基本であり、多岐にわたる臨床検査医学の医療における役割を理解し、検査結果の読み方、正しい検査結果を得るための留意事項（正しい結果が得られない条件）などについて学ぶことは、将来、地域医療に従事する医師として不可欠である。また、臨床検査は病院の全診療部部門を支える基盤的病院機能の重要な要素であり、その強化は病院機能の高度化につながる。そこで、現臨床検査部と輸血部を統括し新たに「臨床検査医学教室」を設置して教員の体制を整え、臨床検査医学に関する学部教育・卒後教育を充実させる。また、全診療科に対する診療支援を強化する。さらに、臨床検査専門医カリキュラムを制定・実施することにより、「臨床検査専門医」を取得できる体制を整える。

②設置の効果

1) 臨床検査医学に関する学部教育・卒後教育を充実させることができる。

2) 全診療科に対する臨床検査を通じた診療支援体制を強化することができる。

3) 検査データの管理体制整備により病院の危機管理体制の強化ができる。

4) 臨床検査専門医が取得できる体制ができる。

教室定員（当面の間3名とする）

教授 高橋 伸一郎

講師 沖津 庸子

助教1とする

公募等により助教1名追加

病院診療体制

臨床検査部 部長 高橋 伸一郎

輸血部長 部長（兼務） 高橋 伸一郎

副部長 沖津 庸子

	<p>・感染症学教室の新設について</p> <p>①設置理由 人口の高齢化とともに高齢者の難治性感染症の診断・治療・予防が喫緊の課題となっており、また病院内における感染管理や抗菌剤の適正使用管理の重要性が認識されるようになってきている。このようなことに適切な知識を持つ医療人を育成するうえで、学部教育のみならず卒後教育の面でも、その教育の重要性が増しているとともに、院内感染の予防や制御などの感染症管理は、病院の危機管理上も経営上も極めて重要で不可欠なものとなっている。そこで、新たに「感染症学教室」を設置し、感染症に関する学部教育・卒後教育を充実させることにより、卒後に地域医療の場で感染症に対処できる基本的な知識を教授する。また、感染症診療機能、感染症管理能力などの病院機能の強化を図る。さらに、臨床感染症学、感染管理学、臨床微生物学などの臨床研究を通じて、感染症に対する総合的な対応能力を有する専門家の育成を図る。</p> <p>②設置の効果 1) 臨床感染症学に関する学部教育・卒後教育が強化できる。 2) 病院の感染症診療機能、感染症管理能力の強化が期待できる。 3) 感染症専門医が取得できる教育体制ができる。</p> <p>教室定員（当面3名とする） 教授 関 雅文 特任教授 賀来 満夫 公募等により、准教授ないし講師を1名追加</p> <p>病院診療体制 感染症内科 科長 関 雅文 特任教授 賀来 満夫</p>
<p><授業科目の概要></p> <p>・現代社会と人間 本授業では、現代社会をとらえる基礎視角としての社会学の基本を「医療」との関連に着目しながら学ぶ。到達目標：1. 社会学の基礎視角、発想の仕方が理解できる。2. 社会と社会をとりまく世界との関係を理解できる。3. 社会システム論の基礎概念を理解できる。4. 医療における人間の特質について理解できる。5. 医療組織の特質について理解できる。6. 現代社会の変容が医療に及ぼす影響について理解できる。授業形態は講義形式をとる。</p> <p>・大学基礎論 大学基礎論では、学生が主体的かつ自律的に学ぶために、「聴く力」「読む力」「話す力」「書く力」「調べる力」を養う。併せて医師として求められる基本的な資質である「他人を思いやる視点」「高いコミュニケーション能力」「チームで連携する大切さを認識する力」「物事を総合的な視野に立って判断できる力」等を身につけさせる。授業形態は講義とチーム基盤型学習（TBL）、体験学習と訪問学習を融合させた形式をとる。</p>	<p>※以下の「授業科目の概要」は授業実施状況を踏まえて、教育効果向上・授業内容の充実を図ることを目的に変更（教育内容の追加・担当者の変更・オムニバスに変更等）を行った（赤字：平成30年5月以降の変更点、黒字：平成28～30年に報告済み）。</p> <p>・現代社会と人間 （概要）本科目は、現代社会をとらえる基礎視角としての社会学の基本を「医療」との関連に着目しながら学ぶ。 （オムニバス・共同（一部）／全15回） （兼任教員／14回） 社会学の基礎視角・発想の仕方、医療に対する社会学・文化人類学を学ぶ。特に現代社会を、歴史的な文脈の中に置いて理解し、医療の取り巻く環境及び現代社会の抱える困難について学習する。加えて、地域医療・在宅医療において視野に入れておくべき日本の地域社会の特徴及び日本の家族構造の特徴について理解を深める。 （住友 和弘・兼任教員／1回）（共同） ケアの現場の実情を紹介し、これをふまえながら多職種の連携とケアの実践において、立場・専門性・視点を異にする人びとの関わり等について学ぶ。</p> <p>・大学基礎論 （概要）大学基礎論では、学生が主体的かつ自律的に学ぶために必要となる基本的な学習力を養い、社会人として求められる基本的な資質や人間力を育む。また、医師としてのキャリア意識を各自に再確認させる。授業形態は講義とチーム基盤型学習（TBL）、訪問学習を融合させた形式をとる。 （オムニバス・共同（一部）／全15回） （大野 勲・兼任教員／8回）（共同） 医師として地域医療に貢献する志を抱いて入学してきた学生たちの目的意識を再確認させるために、東北地方各県の風土、文化・歴史、生活および医療を紹介する。学生たちは、グループ単位で、各県を事前調査・訪問し、見学内容をまとめ発表することにより、将来自らがその医療を支える東北地方の理解を深める。 （兼任教員／7回） 入学後に主体的かつ自律的に学ぶために必要となる「聴く力」、「読む力」、「話す力」、「書く力」および「調べる力」を養うとともに、社会人として求められる基本的な資質である「他人を思いやる視点」「高いコミュニケーション能力」「チームで連携する大切さを認識する力」「物事を総合的な視野に立って判断できる力」等を身につけさせるために、読書、情報の整理、発表・討論を行う。</p>

・医学英語Ⅴ

本授業では、医学を学ぶ者として必要となる、英語の学術論文を読解する能力や英文で書かれた実験プロトコルを理解し実施できる能力を育成するために、原著を利用して基本的英語表現を学ぶ。到達目標：1. 英語で書かれた教科書や論文の内容を理解し要約できる。2. 医学関連の分野で用いられる単語を記述できる。3. 学術論文の特徴を理解し、情報の検索を行うことができる。4. 医学関連の学術論文に書かれた実験操作法を理解し説明できる。授業形態は講義、演習およびプレゼンテーションとする。

・医学英語Ⅵ

本授業では、医学研究あるいは医師業務に必要な応用的英語力の醸成を目的とし、英文学術論文の通読あるいは英文医学情報の調査・読解を行う。主な到達目標：1. 最新の医学情報に関する英文を理解し、要約できる。2. 必要な医学情報を収集し、要点を分かりやすく説明できる。3. 英文学術論文の内容を簡潔に、分かりやすく要約することができる。授業形態は講義、演習およびプレゼンテーションとする。

・基礎化学

糖、脂質、アミノ酸、タンパク質など、生体内高分子の構造と機能、および合成と分解の代謝経路を学ぶ。また、各種酵素の分類と機能、およびミトコンドリア機能に関する概論も本教科で履修する。これらの内容は、生体内の生理活性物質合成を理解する上で必須の知識であり、糖尿病やガンなどの疾患病態生理と深く関連する重要な項目である。

・基礎生物学

本授業では、医学の基礎分野、臨床医学を学ぶ際に必要な最低限の知識を習得し、それをもとに病気がどのように起こるかを順序立てて考える方法を習得してもらうのが最大の目的である。そのために、主として人体における細胞の遺伝子制御や臓器、器官の構造とその様々な働き、臓器間・器官間の制御系および遺伝に関する基本概念を理解してもらうとともに、生物の進化と多様性、生態系における生物個体間の関係と生態行動の基本について学ぶ。

・医学英語Ⅴ

本授業では、医学を学ぶ者として必要となる、英語の学術論文を読解する能力を育成するために、原著を利用して基本的英語表現を学ぶ。到達目標：1. 英語で書かれた教科書や論文の内容を理解し要約できる。2. 医学関連の分野で用いられる単語を記述できる。3. 学術論文の特徴を理解し、情報の検索を行うことができる。4. Technical writingができ、英文abstractを自分で書ける。授業形態は講義および演習とする。

・医学英語Ⅵ

本授業では、医学研究あるいは医師業務に必要な応用的英語力の醸成を目的とし、英語医療面接および英語でのプレゼンテーション・質疑応答を行う。主な到達目標：1. 最新の医学情報に関する英文を理解し、要約できる。2. 必要な医学情報を収集し、要点を分かりやすく説明できる。3. 各種症候の原因疾患を列挙し、鑑別診断を行える。4. 英語で基本的な医療面接を行える。5. 英語で医学・医療に関する簡単な発表と質疑応答ができる。授業形態は講義、グループワークおよびプレゼンテーションとする。

・基礎化学

(概要) 糖、脂質、アミノ酸、タンパク質など、生体内高分子の構造と機能、および合成と分解の代謝経路を学ぶ。また、各種酵素の分類と機能、およびミトコンドリア機能に関する概論も本科目で履修する。これらの内容は、生体内の生理活性物質合成を理解する上で必須の知識であり、糖尿病やガンなどの疾患病態生理と深く関連する重要な項目である。

(オムニバス・共同(一部) / 全15回)

(森口 尚・有川 智博 / 6回) (共同)

DNAおよび遺伝子の構造・機能と転写・翻訳メカニズムについて学習する。また、糖の分類・組成および代謝と疾病病態との関わり、遺伝子編集技術と発生工学について学習する。

(森口 尚・高井 淳 / 2回) (共同)

RNAの構造と機能、アミノ酸・蛋白質の構造と機能について学習する。(上村 聡志 / 7回)

有機化合物の構造と化学反応および糖質と脂質の構造と機能について学習する。

・基礎生物学

(概要) 本授業では、医学の基礎分野、臨床医学を学ぶ際に必要な最低限の知識を習得し、それをもとに病気がどのように起こるかを順序立てて考える方法を修得するのが目的である。そのために、主として人体における細胞の遺伝子制御や臓器、器官の構造とその様々な働き、臓器間・器官間の制御系および遺伝に関する基本概念を理解するとともに、生物の進化と多様性、生態系における生物個体間の関係と生態行動の基本について学ぶ。

(オムニバス・共同(一部) / 全15回)

(河合 佳子 / 有川 智博 / 6回) (共同)

主として人体における臓器、器官の構造とその様々な働き、臓器間・器官間の制御系(特に消化器系、免疫系、細菌・ウイルス、癌発生の機序等)に関する基本概念を理解する。また、身体診察を行うにあたり基本となる手技とその生体機構について理解する。

(河合 佳子 / 1回)

身体診察を行うにあたり基本となる手技とその生体機構について理解する。

(河合 佳子・林 もゆる / 1回) (共同)

基礎生物学実習に先立ち、生物の進化と多様性、生態系における生物個体間の関係と生態行動の基本について理解する。

(有川 智博 / 2回)

主として人体における細胞の遺伝子制御や構造とその様々な働きおよび遺伝に関する基本概念を理解する。

(松坂 義哉・有川 智博 / 3回) (共同)

主として人体における臓器、器官の構造とその様々な働き、臓器間・器官間の制御系(特に細胞のシグナル伝達、ホルモン系、神経系等)に関する基本概念を理解する。

(坂本 一寛・有川 智博 / 2回) (共同)

主として人体における臓器、器官の構造とその様々な働き、臓器間・器官間の制御系(特にホメオスタシス機構)に関する基本概念を理解する。

・基礎生物学実習

本実習では、今までに高校生物を学習してきていない学生には、今後の基礎医学や臨床医学を学ぶ際に必要な知識を習得してもらい、自分の言葉で説明できるようにするのが目的である（ベーシックコース）。また、高校生物を学習してきた学生、および希望者には、英語のヒト生物学の教科書を用いてグループ学習を行い、日本語で学んだ知識に照らし合わせながら医学英語に慣れる機会を与え、自分の言葉で説明できるようにするのが目的である（アドバンスコース）。

・医学概論

（概要）死生観、生と死に関わる倫理、患者の権利と視点、医の倫理、医師の使命、インフォームドコンセントに関わる態度と考え方を学ぶ。

（オムニバス方式／全15回）

（高木 徹也／7回）

ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等の医の倫理に係る規範、医療と医学研究における倫理を学ぶとともに、患者の基本的権利についての理解を深め、これらに関する現状の問題点を学ぶ。

（木場 崇剛・渡部 洋／8回）（共同）

患者のために全力を尽くす医師に求められる医師の義務と裁量権に関する基本的態度、習慣、考え方と知識を身につけるとともに、患者本位の医療の実践に向け、適切な説明を行った上で患者の選択に基づき主体的な同意を得るために、対話能力と必要な態度、考え方を身につける。

・医療コミュニケーション学

患者及びその家族とのコミュニケーションの重要性、およびチーム医療における医師と医療従事者間の意志疎通・連携の重要性を学ぶ。医師と患者・家族との関係については、相手が弱者であり医師とは対等の立場でないことを理解し、患者・家族との信頼関係を築くためのコミュニケーションの方法、留意点について学ぶ。チーム医療における医師と他職種の連携では、お互いの専門性を尊重しつつ患者中心の医療を連携して実施するためのコミュニケーションの方法、留意点について学ぶ。

・基礎生物学実習

本実習では、1年次前期「基礎生物学」で学んだ内容、すなわち生命体の構造と発生、多様性についての理解を深めるために、ゼブラフィッシュの受精卵を用いて発生過程を観察するとともに実体顕微鏡の使用法について学習する。また、聴診器を用いた呼吸音・心音の聴取法や血圧測定法などの基本的事項を習得する。

・医学概論

（概要）死生観、生と死に関わる倫理、患者の権利と視点、医の倫理、医師の使命、インフォームドコンセントに関わる態度と考え方を学ぶ。

（オムニバス・共同（一部）／全15回）

（高木 徹也／6回）

ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等の医の倫理に係る規範、医療と医学研究における倫理を学ぶとともに、患者の基本的権利についての理解を深め、これらに関する現状の問題点を学ぶ。

（下平 秀樹・渡部 洋／8回）（共同）

患者のために全力を尽くす医師に求められる医師の義務と裁量権に関する基本的態度、習慣、考え方と知識を身につけるとともに、患者本位の医療の実践に向け、適切な説明を行った上で患者の選択に基づき主体的な同意を得るために、対話能力と必要な態度、考え方を身につける。

（兼任教員／1回）

患者の立場における死生観について理解を深め、医師として必要な思考を身につけ、患者への適切な対応や終末期医療、尊厳死、安楽死のあり方について学ぶ。

・医療コミュニケーション学

（概要）患者及びその家族とのコミュニケーションの重要性、およびチーム医療における医師と医療従事者間の意志疎通・連携の重要性を学ぶ。医師と患者・家族との関係については、相手が弱者であり医師とは対等の立場でないことを理解し、患者・家族との信頼関係を築くためのコミュニケーションの方法、留意点について、症例・事例をもとに学ぶ。チーム医療における医師と他職種の連携では、お互いの専門性を尊重しつつ患者中心の医療を連携して実施するためのコミュニケーションの方法、留意点について学ぶ。

（オムニバス・共同（一部）／全15回）

（大野 勲／1回）

傾聴等のコミュニケーションスキルを含むコミュニケーションの概要、患者の立場・心境・価値観・権利およびプライバシーを考慮した、医療従事者としての患者・家族とのコミュニケーションおよび医療機関内・医療機関相互の多職種協働に向けたコミュニケーションについて学ぶ。

（児山 香／3回）

緩和領域における患者・家族とのコミュニケーションのとり方について、悪性腫瘍疾患患者の例をもとに学ぶ。

（鈴木 映二／3回）

精神症状、うつ、不安、妄想の強い患者、認知症患者とその家族とのコミュニケーションのとり方について、精神科疾患患者の例をもとに学ぶ。

（渡部 洋／3回）

女性患者や妊婦とその家族とのコミュニケーションのとり方について、産婦人科疾患患者の例をもとに学ぶ。

（TILLET EPOUSE MIYAZAWA ISABELLE MARIE ODETTE（宮澤イザベル）／1回）

患者が外国人あるいは患者の家族が外国人の場合のコミュニケーションのとり方について、外国人の抱えるコミュニケーション問題への対応を含めて学ぶ。

（目時 弘仁・兼任教員／1回）（共同）

予防医学、健康教育、保健活動、健診など地域の保健衛生活動の従事者や行政担当者との連携において必要とされるコミュニケーションのとり方を学ぶ。

（兼任教員／3回）

医療上の紛争予防と紛争問題が生じたときのコミュニケーションのとり方、患者の心境、患者の立場からみた医療人に求められるコミュニケーションのとり方について学ぶ。

・課題研究

将来、科学的思考のできる臨床医となるための訓練の場とする。医学教育センターの指導のもと、3年次の1年間、基礎医学系および社会医学系教室のなかのひとつに配属させ実施する。それまでに学んだ基礎医学、社会医学の知識・体験をもとに、意義や実現性等を加味し、課題を設定する。実験的研究、疫学的調査研究等について、まず教科書、論文等により課題に関する重要事項をまとめ、新たな視点とその課題解決の方向性を定める。月に一度、研究の進捗状況を報告する。研究の成果はレポート・論文として提出するとともに、研究発表会において口頭発表を行う。学生は、随時必要に応じて、当該教室教員の支援、助言を受けることができる。また、研究内容に関連する本学大学院薬学研究科の各教室は必要に応じて協力する。

・衛生学

人類をとりまく環境、健康を維持増進するために必要な環境と、環境変化がもたらす健康影響について理解する。大気汚染系疾病、重金属や化学物質曝露による健康被害と、その診断、治療、予防について基礎知識を習得する。環境中毒、金属中毒・ガス中毒、有機溶剤中毒に関し、その曝露・吸収・代謝・排泄、標的臓器、発癌性と変異原性について学ぶ。また、大気汚染対策、水質汚染対策、化学物質の環境リスク評価廃棄物対策について学習する。さらに、被災地域等における環境保健について課題を抽出し、対策を検討する。

・介護・在宅医療学

(概要) 地域において医療と幅広く密接に連携する介護、在宅の役割を学ぶ。介護、在宅医療を担う施設、マンパワーに関する基礎的な事項を理解する。

(オムニバス方式／全15回)

(佐藤 滋／9回)

高齢化が急速に進行する地域における介護、地域包括ケア、在宅医療のニーズを理解する。介護保険制度、地域医療構想の概要を理解するとともに、特別養護老人ホームや老人保健施設、訪問看護ステーションなど医療・介護サービスを提供する施設、訪問看護師や介護福祉士、ケアマネジャーなど在宅介護や介護予防、高齢者の生活支援の担い手の役割、連携の仕組みを学ぶ。

(大原 貴裕／6回)

被災地域や仮設住宅における在宅医療、在宅医療で必要となる難病への対応や緩和ケアなど、地域医療と密接に関わる介護、在宅の実際を学ぶ。

・課題研究

将来、科学的思考のできる臨床医となるための訓練の場とする。医学教育推進センターの指導のもと、3年次の1年間、基礎医学系および社会医学系教室のなかのひとつに配属させ実施する。それまでに学んだ基礎医学、社会医学の知識・体験をもとに、意義や実現性等を加味し、課題を設定する。実験的研究、疫学的調査研究等について、まず教科書、論文等により課題に関する重要事項をまとめ、新たな視点とその課題解決の方向性を定める。研究の進捗状況を確認しながら、研究の成果はレポート・論文として提出するとともに、研究発表会において口頭発表を行う。学生は、随時必要に応じて、当該教室教員の支援、助言を受けることができる。また、研究内容に関連する医学部臨床医学系教室や本学大学院薬学研究科の各教室は必要に応じて協力する。

・衛生学

(概要) 人類をとりまく環境、健康を維持増進するために必要な環境と、環境変化がもたらす健康影響について理解する。大気汚染系疾病、重金属や化学物質曝露による健康被害と、その診断、治療、予防について基礎知識を習得する。環境中毒、金属中毒・ガス中毒、有機溶剤中毒に関し、その曝露・吸収・代謝・排泄、標的臓器、発癌性と変異原性について学ぶ。また、大気汚染対策、水質汚染対策、化学物質の環境リスク評価廃棄物対策について学習する。さらに、被災地域等における環境保健について課題を抽出し、対策を検討する。

(オムニバス方式・共同(一部)／全15回)

(目時 弘仁／12回)

健康を維持増進するために必要な環境と、環境変化がもたらす健康影響について概説し、環境変化がもたらす健康影響について理解する素地を醸成する。特に物理的原因や化学的環境、産業保健とそれに関わる医療従事者の業務について詳説する。

金属中毒・ガス中毒、有機溶剤中毒について、その曝露過程や吸収・代謝・排泄について詳説する。医学研究で得られる実測データと統計の実際について詳説する。

(目時 弘仁・村上 任尚／1回) (共同)

医学研究で得られる実測データと統計の実際について詳説する。

(佐藤 倫広／2回)

毒物の曝露・吸収・代謝・排泄や、標的臓器等、薬物と共通の機構について詳説する。カドミウム汚染と健康影響について詳説する。

・介護・在宅医療学

(概要) 地域において医療と幅広く密接に連携する介護、在宅の役割を学ぶ。介護、在宅医療を担う施設、マンパワーに関する基礎的な事項を理解する。

(オムニバス・共同(一部)／全15回)

(大原 貴裕／5回)

被災地域や仮設住宅における在宅医療、在宅医療で必要となる難病への対応や緩和ケアなど、地域医療と密接に関わる介護、在宅の実際を学ぶ。

(佐藤 滋／6回)

高齢化が急速に進行する地域における介護、地域包括ケア、在宅医療のニーズを理解する。介護保険制度、地域医療構想の概要を理解するとともに、特別養護老人ホームや老人保健施設、訪問看護ステーションなど医療・介護サービスを提供する施設、訪問看護師や介護福祉士、ケアマネジャーなど在宅介護や介護予防、高齢者の生活支援の担い手の役割、連携の仕組みを学ぶ。

(大原 貴裕・佐藤 滋／2回) (共同)

入院から安定した在宅診療に結びつけるためにはどのような仕組みや多職種間の連携が必要か、典型例を用いたワークショップを行う。

(大原 貴裕・佐藤 滋・兼任教員／1回) (共同)

現場で在宅診療を行っている兼任教員から、在宅診療の実際についての講演を受け、感想文を作成する。

(大原 貴裕・兼任教員／1回) (共同)

現場で在宅診療を行っている兼任教員から、在宅緩和ケア、看取りの実際についての講演を受け、感想文を作成する。

・公衆衛生学

社会と健康、疾病との関係、健康の保持・増進に必要な生活環境や社会経済状況、人口統計、生命表、死因分析、健康状態を測る指標を理解し、社会的視点から患者を把握する意義を学ぶ。母子保健、食品保健、精神保健福祉対策、学校保健、産業保健、健康診査、がん検診、予防接種等に関する基礎知識を学ぶ。また、地域住民の疾病予防と健康増進の状況に係るデータの収集や分析の方法、生活習慣病に係る疫学の手法を習得する。地域の保健活動におけるチームワークの重要性を認識し、協調的な行動がとれるよう学習する。

・医事法学

(概要) 医療、介護、福祉関連の法律(医療法、医師法、介護保険法など)と医療事故・訴訟に関する基本的な知識を学ぶ。

(オムニバス方式/全15回)

(高木 徹也・山田 千歩/9回) (共同)

医師法、医療法、健康保険法など医療関係法規の他、介護保険法など医師に必要となる介護関連法規や福祉・児童家庭関係法規について学ぶ。患者の権利、インフォームドコンセント、医師の義務について理解し、適切な医師患者関係が築けるよう学習する。医療事故や医療過誤、臨床試験をめぐる諸問題に係る法的課題を学び、特に薬剤の種類と危険性、薬剤相互作用を理解して薬物に関する医療事故を防止する行動がとれるよう学習する。障害者保健福祉施策、生活保護制度の概要を学び、障害者福祉と生活保護についての理解を深める。

(伊藤 道哉・尾形 倫明/6回) (共同)

介護保険法など医師に必要となる介護関連法規や福祉・児童家庭関係法規について学ぶとともに、障害者保健福祉施策、生活保護制度の概要を学び、障害者福祉と生活保護についての理解を深める。薬事法、臨床試験をめぐる諸問題に係る法的課題を解説する。

・法医学

(概要) 死の判定と死体現象、窒息、損傷、異常温度による死、乳児の急死、DNA多型の法医学的应用、災害時の法医学的対応、中毒症例の臨床法医学的対応について基本知識を習得する。

(オムニバス方式/全15回)

(高木 徹也/8回)

医師に必要となる法医学の知識、死の兆候、死の判定法、早期に起きる死体現象、晩期にみられる死体現象など、死の判定と死体現象について学ぶ。窒息、溢死、圧死、溺死、体表損傷の見方、温熱損傷による死、熱傷、焼死、交通事故に特徴的な損傷について学習する。

(山田 千歩/7回)

性と胎児、急死など新生児・乳児に係る法医学、DNA多型の法医学的应用、災害時の法医学的対応、中毒症例の臨床法医学的対応について基本知識を習得する。

・公衆衛生学

(概要) 社会と健康・疾病との関係、健康の保持・増進に必要な生活環境や社会経済状況、人口統計、生命表、死因分析、健康状態を測る指標を理解し、社会的視点から患者を把握する意義を学ぶ。母子保健、食品保健、精神保健、学校保健、老人保健、産業保健、健康診査、がん検診、感染症対策、予防接種等に関する基礎知識を学ぶ。また、地域住民の疾病予防と健康増進の状況に係るデータの収集や分析の方法、生活習慣病に係る疫学の手法を習得する。地域の保健活動における**多職種連携の重要性を認識し、協調的な行動がとれるよう学習する。**

(オムニバス・共同(一部)/全15回)

(村上 任尚/11回)

社会と健康・疾病との関係、健康の保持・増進に必要な生活環境や社会経済状況を理解し、保険制度の概要とともに社会的視点から患者を把握する意義を学ぶ。食品保健、精神保健、学校保健、老人保健、産業保健、健康診査、がん検診、感染症対策、予防接種等に関する基礎知識を学ぶ。また、地域住民の疾病予防と健康増進の状況に係るデータの収集や分析の方法、生活習慣病に係る疫学の手法を習得する。地域の保健活動における**多職種連携の重要性を認識し、協調的な行動がとれるよう学習する。**

(目時 弘仁/2回)

母子保健および生殖医療に関する基礎知識を学ぶ。また、出生・死亡や婚姻・離婚と関連する人口統計、生命表、死因分析、健康状態を測る指標について学習する。

(村上 任尚・佐藤 倫広/2回) (共同)

がん、循環器疾患およびそれらの危険因子について疫学的観点から学習する。

・医事法学

(概要) 医療、介護、福祉関連の法律(医療法、医師法、介護保険法など)と医療事故・訴訟に関する基本的な知識を学ぶ。

(オムニバス・共同(一部)/全15回)

(高木 徹也・山田 千歩/7回) (共同)

医師法、医療法、健康保険法など医療関係法規の他、介護保険法など医師に必要となる介護関連法規や福祉・児童家庭関係法規について学ぶ。患者の権利、インフォームドコンセント、医師の義務について理解し、適切な医師患者関係が築けるよう学習する。医療事故や医療過誤、臨床試験をめぐる諸問題に係る法的課題を学び、特に薬剤の種類と危険性、薬剤相互作用を理解して薬物に関する医療事故を防止する行動がとれるよう学習する。障害者保健福祉施策、生活保護制度の概要を学び、障害者福祉と生活保護についての理解を深める。

(伊藤 道哉・尾形 倫明/6回) (共同)

介護保険法など医師に必要となる介護関連法規や福祉・児童家庭関係法規について学ぶとともに、障害者保健福祉施策、生活保護制度の概要を学び、障害者福祉と生活保護についての理解を深める。薬事法、臨床試験をめぐる諸問題に係る法的課題を理解する。

(奈良 明奈/2回)

薬物療法上の医薬品の種類とその薬理作用を理解し、そのリスクマネジメントについて学ぶ。臨床の現場において、濫用薬物中毒患者への対応について学び、その法的根拠を学習する。

・法医学

(概要) 死の判定と死体現象、窒息、損傷、異常温度による死、乳児の急死、DNA多型の法医学的应用、災害時の法医学的対応、中毒症例の臨床法医学的対応について基本知識を習得する。

(オムニバス方式/全15回)

(高木 徹也/8回)

医師に必要となる法医学の知識、鈍器損傷、鋭器損傷、銃器損傷、交通機関損傷などの創傷の種類や成傷機序、溺水や頸部圧迫による窒息の病態生理、凍死や熱中症、焼死などの環境異常による死因について学ぶ。災害時の法医学的対応について基本知識を習得する。

(山田 千歩/4回)

早期死体現象や晩期死体現象、エンバーミングなどの特殊死体現象、死体の損壊など死体の変化について学ぶ。内因死、新生児・乳児や高齢者の死因や病態生理について基本知識を習得する。

(奈良 明奈/1回)

中毒物質とその作用機序、分析方法など臨床法医学的対応について基本知識を習得する。

(兼任教員/2回)

医師が知っておくべき歯科学の基礎的知識とその応用による個人識別について理解する。指紋、血液型、DNA型による個人識別の基本的知識を習得する。

・僻地・被災地医療体験学習Ⅰ

東日本大震災で被災した地域にある、地域医療ネットワーク病院（気仙沼市立病院、公立志津川病院）等を訪問し、被災地における医療の課題と対策を考察する。すなわち、大規模災害時における医療、被災地域の医療活動、災害拠点病院の役割、トリアージの応需体制、近隣の医療施設との連絡調整、避難所における医療、大災害における感染症対策の実際を体験する。

・細胞生物学

細胞は、あらゆる生命の基本単位である。細胞生物学は、細胞の持つ様々な特性を学ぶことで、様々な科学の理解の基礎となる。細胞膜の構造や膜輸送、微細構造とその機能、細胞骨格、イオンチャンネルや、分化と動態、細胞運動の仕組みを分子レベルで理解する。また、遺伝情報の転写、翻訳からタンパク質の発現、タンパク質の輸送機構について学ぶ。さらに、細胞周期や生殖細胞と減数分裂、細胞のがん化について最新の知見を理解することができる。

・遺伝学

（概要）遺伝子から蛋白質への流れに基づいて生命現象を学び、遺伝子工学の手法と応用やヒトゲノムの解析を学ぶ。

（オムニバス方式／全15回）
（中村 晃／7回） 染色体異常や、生殖・発生異常や腫瘍発生の遺伝子機構について学ぶ。また腫瘍や各種遺伝性疾患における遺伝子診断や遺伝子治療についても理解する。

（森口 尚／8回）
がんや生活習慣病の多くが多遺伝子変異の起因することが明らかにされてきており、遺伝学は病態の理解のみならず、診断や治療に必須な学問である。遺伝学の講義により遺伝子と染色体の構造、DNAからRNAを経てタンパク質合成に至る基礎的な分子機構を理解する。

・医化学

（概要）生体物質の代謝の動態を解説する。

（オムニバス方式／全30回）
（森口 尚／20回） 医化学総論に加え、酵素反応、核酸と転写・翻訳、アミノ酸代謝およびこれらの代謝と疾患との関連を解説する。

（上村 聡志／10回）
糖・脂質代謝とエネルギー産生および細胞増殖における代謝反応について概説する。

・僻地・被災地医療体験学習Ⅰ

東日本大震災で被災した地域にある、地域医療ネットワーク病院（気仙沼市立病院、南三陸病院）等を訪問し、被災地における医療の課題と対策を考察する。すなわち、大規模災害時における医療、被災地域の医療活動、災害拠点病院の役割、トリアージの応需体制、近隣の医療施設との連絡調整、避難所における医療、大災害における感染症対策の実際を体験する。

・細胞生物学

（概要）細胞は、あらゆる生命の基本単位である。細胞生物学は、細胞の持つ様々な特性を学ぶことで、様々な科学の理解の基礎となる。細胞膜の構造や膜輸送、微細構造とその機能、細胞骨格、イオンチャンネルや、分化と動態、細胞運動の仕組みを分子レベルで理解する。また、遺伝情報の転写、翻訳からタンパク質の発現、タンパク質の輸送機構について学ぶ。さらに、細胞周期や生殖細胞と減数分裂、細胞のがん化について最新の知見を理解する。

（オムニバス・共同／全15回）
（中村 晃・有川 智博／4回）（共同）
細胞接着や細胞間情報伝達に関して、細胞間の結合様式や細胞間や細胞内で生じるシグナル伝達機構を分子レベルで理解する。また、細胞周期の制御メカニズムを学び、制御された細胞死（アポトーシス）の基本知識を習得する。

（海部 知則・有川 智博／11回）（共同）
生命の基本単位である細胞の特徴的な構造とその機能を学ぶ。その後、細胞膜の構造と細胞膜を介した物質移動、細胞内の微細構造と物質輸送等の細胞維持機構を理解する。また、細胞形状を支持する細胞骨格の基本構造や細胞運動を分子レベルで理解する。核と遺伝情報の転写、タンパク質への翻訳について学ぶ。さらに、細胞増殖や分化に関して細胞分裂や減数分裂の制御過程を学び、がん細胞の特徴やがん化する仕組みについての基本知識と最新知見を理解する。

・遺伝学

（概要）遺伝情報の伝達機構とヒトゲノムの解析について学ぶ。また、染色体異常疾患を含む単一遺伝子疾患や、ミトコンドリア病、エピゲノム異常が関与する疾患について学ぶ。さらに遺伝的要因のみならず、環境要因が関わる多因子疾患やゲノムの多様性が薬物治療に与える影響を理解する。

（オムニバス・共同（一部）／全15回）
（中村 晃／13回）
遺伝情報の伝達機構の概要と染色体異常や、エピゲノム異常がかかわる生殖・発生異常や腫瘍発現機構について学ぶ。また腫瘍や各種遺伝性疾患における遺伝子診断や遺伝子治療さらには分子標的薬の作用について理解する。

（中村 晃・武田 和也／1回）（共同）
神経疾患における遺伝子異常の概説と遺伝子異常が関わる代表的な神経疾患について理解する。

（海部 知則／1回）
がん関連遺伝子やがんゲノムアトラス研究から判明したがん遺伝子、さらにがんの分子標的薬について理解する。

・医化学

（概要）生体物質の代謝の動態を学ぶ。

（オムニバス・共同（一部）／全30回）
（森口 尚／12回）
酵素反応、核酸と転写・翻訳、アミノ酸代謝、ヘム・鉄代謝、核内受容体、血液生化学および関連する疾患について解説する。また、RNAの構造と機能、遺伝子編集技術、酸化ストレス応答、細胞周期と発ガン、ゲノム科学について概説する。

（森口 尚・高井 淳／5回）（共同）
鉄代謝・赤血球造血と腎臓病、ヘム・ビリルビン代謝、血液細胞分化、および染色体構造の異常について理解する。

（上村 聡志／9回）
医化学総論に加え、遺伝子修復と複製、糖尿病・肥満の生化学、糖・脂質代謝とエネルギー産生および細胞増殖における代謝反応について理解する。

（兼任教員／4回）
ゲノムDNAの構造と機能、次世代シーケンサー、多因子疾患、ビタミンと核内受容体、およびエピジェネティクスと遺伝子発現について理解する。

・免疫学

免疫学は生体防御を担う免疫システムを学ぶ学問である。感染症のみならず、アレルギー疾患、自己免疫疾患、がん治療や移植治療などのさまざまな疾患や治療の基礎となる。外来から侵入する異物（非自己）と自己を識別する多様な免疫システムを、遺伝子、分子、細胞、個体レベルで理解する。また、最新の免疫治療についても学ぶ。実習では、免疫担当細胞の種類と機能、抗体や補体の反応、個体レベルでの免疫応答について体験し、免疫学の理解を深めることを目標とする。

・放射線基礎医学

放射線の物理化学的性質を理解するとともに、ゲノムに与える障害とその修復の機構について学ぶ。また、放射線の生体、組織・細胞に与える障害、すなわち細胞死や炎症などの急性・慢性の障害（確定的影響）および将来の発癌リスク（確率的影響）に関する正確な知識を学ぶ。さらに放射線の安全管理や放射線防護の方法について学ぶ。これらの知識をもとに、原子炉事故などの放射線災害時に医師として適切に行動・対処できる基礎知識を身につける。

・解剖学

人体の正常構造と機能を主として顕微鏡を使わずに肉眼的な視点から学ぶ。解剖学は、医学の基盤をなしており、人体の正確な解剖学的知識なしには、正しい診断や治療を行うことはできない。ここでは、基本的な解剖学用語を身につけるとともに、人体の構造を器官系ごとに学び、その構造と生体内での位置関係を学ぶ。さらに肉眼解剖学的知識を、組織学や医化学、分子・細胞生物学的知識と結び付けることで、各器官の機能や働きについて考察できるようにする。

・免疫学

（概要）免疫学では、生体防御を担う免疫システムおよび感染症、アレルギー疾患、自己免疫疾患、がん治療や移植治療などのさまざまな疾患や治療の基礎知識を学ぶ。外来から侵入する異物（非自己）と自己を識別する多様な免疫システムを、遺伝子、分子、細胞、個体レベルで理解する。また、最新の免疫治療についても学ぶ。

（オムニバス・共同（一部）／全15回）

（中村 晃／12回）

自然免疫・獲得免疫の概要とともに、T細胞・B細胞分化、ヘルパーT細胞の作用や免疫記憶さらには原発性・後天性免疫不全症や自己免疫疾患や腫瘍免疫について理解する。

（有川 智博／1回）

アレルギーの分類とその発症機序さらに代表的アレルギー性疾患について理解する。

（中村 晃・武田 和也／1回）（共同）

関節リウマチやSLEなど代表的な自己免疫疾患や重症筋無力症や多発性硬化症など自己免疫性の神経疾患について理解する。

（海部 知則／1回）

NK細胞や γ/δ 細胞など自然リンパ球についての概説とそれらがかわる粘膜免疫について理解する。

・放射線基礎医学

（概要）放射線の物理・化学的性質および生体に及ぼす生物影響に関する正確な知識を身につける。また、臨床放射線医学につながる画像診断の基本的理論や、悪性腫瘍の放射線治療に関する基礎的な知識を身につける。さらに原子力発電所事故などの放射線災害時に、医師として適切に行動・対処できる基礎知識を身につける。

（オムニバス方式／全15回）

（栗政 明弘／7回）

放射線の生体、組織・細胞に与える障害、すなわち細胞死や炎症などの急性・慢性の障害（確定的影響）および将来の発癌リスク（確率的影響）に関する正確な知識を学ぶ。さらに、胎児影響や遺伝的影響・リスクについて、理解する。これまでの過去の放射線事故や原子炉事故などを学ぶと共に、緊急被ばく事故に際しての放射線災害時に医師として適切に行動・対処できる基礎知識を身につける。また、悪性腫瘍の基本事項と放射線発がんについて学ぶ。

（桑原 義和／5回）

放射線の物理化学的性質、放射線の量・単位を理解するとともに、細胞が放射線を受けた場合のゲノムに与える障害とその修復の機構について学ぶ。さらに放射線の安全管理や放射線防護の方法について学ぶ。

（福田 寛／2回）

臨床放射線医学と密接に関係のあるX線と放射線画像診断に関して、また核医学の技術を用いた診断に関する基本的原理を理解する。さらに放射線治療に関する治療装置の原理と人体ならびに腫瘍細胞への放射線の作用の基本を理解する。

（兼任教員／1回）

広島長崎の原爆による放射線被ばくについて学び、また福島放射線被ばくに関する事故を理解する。

・解剖学

（概要）人体の正常構造と機能を主として顕微鏡を使わずに肉眼的な視点から学ぶ。解剖学は、医学の基盤をなしており、人体の正確な解剖学的知識なしには、正しい診断や治療を行うことはできない。ここでは、基本的な解剖学用語を身につけるとともに、人体の構造を器官系ごとに学び、その構造と生体内での位置関係を学ぶ。さらに肉眼解剖学的知識を、組織学や医化学、分子・細胞生物学的知識と結び付けることで、各器官の機能や働きについて考察できるようにする。

（オムニバス・共同（一部）／全30回）

（上条 桂樹／9回）

人体の正常解剖学のうち、解剖学総論、骨学、および各器官系の肉眼解剖学について、下記内容以外を学ぶ。

（石田 雄介／7回）

呼吸器系（鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭）、感覚器および神経系の講義肉眼解剖学を学ぶ。

（上条 桂樹・山本 由似／5回）（共同）

消化器系の講義肉眼解剖学を学ぶ。

（上条 桂樹・直野 留美／2回）（共同）

内分泌系の講義肉眼解剖学を学ぶ。

（尾形 雅君／7回）

脈管系、泌尿器系、生殖器系の講義肉眼解剖学を学ぶ。

・神経解剖学

神経は神気の経脈という意味を持ち、杉田玄白によって考案された用語だというのが、まさに言い得て妙であり、日本で案出された用語であるが広く漢字通用国に流布されている。神経系は動物に特有のものであり、知覚や運動、思考、情動、記憶などを営みうるのは神経あつてのものである。痛みや違和感などの症状を自覚して患者さんが病院に訪れることも多いが、これも神経系によるところが大きい。これらのことを達成するために神経系は緻密で複雑なものとなっているが、神経解剖学では機能と関連させ、かつ適切な専門用語を用いて説明できることを目標とする。

・組織学

組織学は解剖学（形態学）の重要な一分野であり、光学顕微鏡や電子顕微鏡を用いて細胞および組織の正常な形態と機能を学習するため顕微解剖学とも言われる。組織学は主に正常な組織を対象とするが、正常な組織を理解して初めて異常や病気の組織を理解することができるので、これから学習していく基礎医学・社会医学・臨床医学等を学ぶ上で重要な基礎となっている。組織学では顕微解剖を通して認識できる構造物を、機能と関連させ、かつ適切な専門用語を用いて説明できることを目標とする。

・発生学

1個の受精卵が、分裂を繰り返して、胚葉の形成からさまざまな組織が分化して、心・脈管系、筋骨格系、消化器系、神経系などの臓器・器官が形成され個体を作られる過程を学ぶ。人体の正常発生過程を形態学的に学ぶことにとどまらず、それを支配する基本的な遺伝的・分子生物学的バックグラウンドについても学習する。さらに、各発生過程における臨床的に重要な先天形態異常についても学び、病態やその発生機序について理解を深める。

・神経解剖学

（概要）神経は神気の経脈という意味を持ち、杉田玄白によって考案された用語だというのが、まさに言い得て妙であり、日本で案出された用語であるが広く漢字通用国に流布されている。神経系は動物に特有のものであり、知覚や運動、思考、情動、記憶などを営みうるのは神経あつてのものである。痛みや違和感などの症状を自覚して患者さんが病院に訪れることも多いが、これも神経系によるところが大きい。これらのことを達成するために神経系は緻密で複雑なものとなっているが、神経解剖学では機能と関連させ、かつ適切な専門用語を用いて説明できることを目標とする。

（オムニバス・共同／全15回）

（石田 雄介・上条 桂樹／4回）（共同）

中枢神経系と末梢神経系、髄膜・脳室系、脳の血管支配と血液脳関門、脊髄神経と神経叢、神経支配について、一般体性感覚の受容機序と伝導路、視覚の受容機序と伝導路、等について基本知識を習得する。

（石田 雄介・山本 由似／4回）（共同）

交感神経系と副交感神経系、脊髄、脳幹の構造、機能、伝導路、平衡覚の受容機序と伝導路、嗅覚の受容機序と伝導路、等について基本知識を習得する。

（石田 雄介・直野 留美／3回）（共同）

大脳基底核の構造と機能、視床下部の構造と機能について、大脳皮質の機能局在と辺縁系、記憶と学習、等について基本知識を習得する。

（石田 雄介・尾形 雅君／4回）（共同）

脳神経、核の局在と機能、小脳の構造と機能について、聴覚の受容機序と伝導路、味覚の受容機序と伝導路、等について基本知識を習得する。

・組織学

（概要）組織学は解剖学（形態学）の重要な一分野であり、光学顕微鏡や電子顕微鏡を用いて細胞および組織の正常な形態と機能を学習するため顕微解剖学とも言われる。組織学は主に正常な組織を対象とするが、正常な組織を理解して初めて異常や病気の組織を理解することができるので、これから学習していく基礎医学・社会医学・臨床医学等を学ぶ上で重要な基礎となっている。組織学では顕微解剖を通して認識できる構造物を、機能と関連させ、かつ適切な専門用語を用いて説明できることを目標とする。

（オムニバス・共同／全15回）

（石田 雄介・上条 桂樹／4回）（共同）

組織学の総論として、四大組織のうち上皮組織、結合組織について基本知識を習得する。また組織学の各論として、泌尿器系、生殖器系（主に男性生殖器）、等について基本知識を習得する。

（石田 雄介・山本 由似／4回）（共同）

組織学の総論として、四大組織のうち神経組織、その他の組織について基本知識を習得する。また組織学の各論として、内分泌系、感覚器系、等について基本知識を習得する。

（石田 雄介・直野 留美／3回）（共同）

組織学の各論として、消化器系（消化器系の一部。主に上部消化管が中心）、免疫系、そして呼吸器系、等について基本知識を習得する。

（石田 雄介・尾形 雅君／4回）（共同）

組織学の総論として、四大組織のうち筋組織について基本知識を習得する。また組織学の各論として、消化器系（消化器系の一部。主に下部消化管が中心）、生殖器系（主に女性生殖器）、そして神経系等について基本知識を習得する。

・発生学

（概要）個体と器官が形成される発生過程を理解する。発生は、受精に始まり、受精卵という1個の細胞からさまざまな組織が分化し、臓器・器官が形成され個体を作られる過程である。ここでは、人体の正常な正常構造をはじめに学び、その発生過程を形態的に追うとともに、そのもととなる分子的なメカニズムについても理解を深める。あわせて、各発生過程における臨床的に重要な先天異常を学び、病態やその発生機序についての理解を深める。

（オムニバス・共同（一部）／全15回）

（上条 桂樹／11回）

発生学の理解に必要な人体の正常構造および人体発生学の総論と各論を学ぶ。

（石田雄介・上条 桂樹／3回）（共同）

発生学の理解に必要な組織について学ぶ。

（西村 嘉晃・上条 桂樹／1回）（共同）

器官発生のうち、神経系の発生について学ぶ。

・微生物学 I

AIDSの原因であるHIV感染者の増加、インフルエンザや風疹の流行、アフリカでのエボラウイルス感染拡大、デング熱の国内発生など、現代社会を生きる私たちにとってウイルス感染症にまつわる話題は事欠かない。本講義においては、ウイルス学の総論として分類、形態、増殖機構、感染と宿主応答について学び、その後の各論では医学的に重要なウイルスに重点をおいて、各種ウイルスによる感染症と病原性発症機序、ウイルス発がん機構、ワクチンによる予防などについて学ぶ。

・微生物学 II

化学療法剤の開発により、細菌感染症の罹患率や死亡率は劇的に低下したものの、世界的にみると未だ人類の健康を脅かす最大の病因因子であることには変わりない。一方で医療の高度化による薬剤耐性菌が蔓延、さらに老年人口の増加に伴う易感染性宿主の増加は、感染症の劇症化・難治化をもたらしている。こうした現状を認識した上で、細菌学の基礎となる分類、形態、代謝、遺伝学、病原性発症機序について深く理解し、さらに各種病原微生物と疾患の関わりを学ぶ。

・生理学

生理学とは、生体内の機能およびそれを統合するメカニズムについて学習する科目である。そのために、生体の恒常性を維持するための細胞内情報伝達機構と組織・臓器における生体内ホメオスタシスの仕組み、生体防御機構を理解する。さらに、各臓器間の連携を理解するとともに、いかに生体が緻密かつ合理的に制御されているかを学ぶ。また、正常の機構をもとに、将来臨床科目を学ぶ上で必要な、病因を順序立てて探索できる考え方、すなわち病態生理学の考え方を学ぶ。

・微生物学 I

(概要) 化学療法剤の開発により、細菌感染症の罹患率や死亡率は劇的に低下したものの、世界的にみると未だ人類の健康を脅かす最大の病因因子であることには変わりない。一方で医療の高度化による薬剤耐性菌が蔓延、さらに老年人口の増加に伴う易感染性宿主の増加は、感染症の劇症化・難治化をもたらしている。こうした現状を認識した上で、細菌学の基礎となる分類、形態、代謝、遺伝学、病原性発症機序について深く理解し、さらに各種病原微生物と疾患の関わりを学ぶ。

(オムニバス・共同 (一部) / 全 15 回)

(神田 輝 / 7 回)

細菌学の歴史、消毒・滅菌、細菌の代謝と細菌学各論(グラム陽性球菌、有芽胞菌、グラム陰性通性嫌気性桿菌)、真菌学、原虫学、寄生虫学について基礎知識を習得する。さらに細菌感染症と疾患の関わりを学ぶ。

(神田 輝・矢島 美彩子 / 2 回) (共同)

細菌の構造・機能とそれに基づく分類・診断法を修得する。

(生田 和史 / 6 回)

細菌の遺伝学、病原性発現機序、化学療法、細菌学各論(グラム陰性好気性桿菌、グラム陰性球菌、スピロヘータ、らせん状菌、放線菌、抗酸菌)、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて基礎知識を習得する。

・微生物学 II

(概要) AIDSの原因であるHIV感染者の増加、インフルエンザや風疹・麻疹の流行、アフリカでのエボラウイルス感染拡大、デング熱の国内発生など、現代社会を生きる私たちにとってウイルス感染症にまつわる話題は事欠かない。本講義においては、ウイルス学の総論として分類、形態、増殖機構、感染と宿主応答について学び、その後の各論では医学的に重要なウイルスに重点をおいて、各種ウイルスによる感染症と病原性発症機序、ウイルス発がん機構、ワクチンによる予防などについて学ぶ。

(オムニバス・共同 (一部) / 全 15 回)

(神田 輝 / 8 回)

ウイルスの形態・構造・分類、ウイルスの感染・増殖機構、病原性発現機構、ワクチンによる予防、肝炎ウイルス、ウイルス発がん、プリオン、および新興ウイルス感染症について必要な基礎知識を習得する。

(神田 輝・矢島 美彩子 / 1 回) (共同)

ウイルス検査法、宿主応答、抗ウイルス化学療法について必要な基礎知識を習得する。

(生田 和史 / 5 回)

ウイルス学各論として、各種DNAウイルス(ポックス、ヘルペス、アデノ、パピローマなど)、および各種RNAウイルス(インフルエンザ、麻疹、ムンプス、ポリオ、ノロ、風疹など)について基礎知識を習得する。

(生田 和史・矢島 美彩子 / 1 回) (共同)

各種RNAウイルス(レトロウイルスなど)について基礎知識を習得する。

・生理学

(概要) 生理学では、生体内の機能およびそれを統合するメカニズムについて学習する。すなわち、生体の恒常性を維持するための細胞内情報伝達機構と組織・臓器における生体内ホメオスタシスの仕組み、生体防御機構を理解する。さらに、各臓器間の連携を理解するとともに、いかに生体が緻密かつ合理的に制御されているかを学ぶ。また、正常の機構をもとに、将来臨床科目を学ぶ上で必要な、病因を順序立てて探索できる考え方、すなわち病態生理学の考え方を学ぶ。

(オムニバス・共同 (一部) / 全 45 回)

(河合 佳子 / 29 回)

生体の恒常性を維持するための細胞内情報伝達機構と組織・臓器における生体内ホメオスタシスの仕組み、生体防御機構を理解する。特に、血管(動脈系、静脈系)、血行力学や血圧の調節に関する事項を含む循環器系、呼吸器系、腎臓排泄系に関しての機能を理解する。また、正常の機構をもとに、将来臨床科目を学ぶ上で必要な病態生理学の考え方を学ぶ。

(林 もゆる / 11 回)

生体の恒常性を維持するための細胞内情報伝達機構と組織・臓器における生体内ホメオスタシスの仕組み、生体防御機構を理解する。特に血液系、消化器系、内分泌系に関しての機能を理解する。さらに、各臓器間の連携を理解するとともに、いかに生体が緻密かつ合理的に制御されているかを学ぶ。

・神経生理学

基礎医学教育では健全な人体が動作する仕組みを理解する。神経系は運動、感覚、認知機能、自律機能などの生体機能を司るシステムであり、その正常な働きの結果、我々は体外・体内環境についての情報収集、その結果による情勢判断・意思決定、行動のサイクルを通して、健全な意思決定を実現できる。正常な神経系の動作原理を理解する事によって、さまざまな神経筋疾患の病態を理解し、その修正手段を講じる事が可能となる。本講義では、ヒトとしての重要な機能を司る神経系の構造とその働く仕組みを理解する。

・薬理学

最適な薬物療法を選択するためには、様々な疾患や病態における薬物の作用を論理的かつ体系的に理解し、その生体における動態を予測するための薬理学的思考能力を養うことが重要である。そこで本講義では、薬物や毒物の個体・細胞・分子レベルにおける作用機序および生体と薬物分子との相互作用について理解を深め、的確な薬物療法を行うための基本的な考え方を修得する。さらに様々な疾患の診療で使用されている薬物の種類、作用機序、動態、副作用などについて学ぶ。

(河合 佳子・林 もゆる・浅香 智美／2回) (共同)

生理学の科目の中で学んだ各臓器間・器官系の連携の理解を深め、正常の機構をもとに病気の原因となる機構を順序立てて探索できる考え方、すなわち病態生理学の考え方を学ぶ。

(河合 佳子・浅香 智美／2回) (共同)

生体の恒常性を維持しホメオスタシスの仕組みを理解するための細胞内情報伝達機構を理解する。また、細胞内外の受容体の種類としくみや心筋細胞の情報伝達の特殊性を学ぶ。

(浅香 智美／1回)

生体の恒常性維持機構の理解を深めるために、特殊環境、特に宇宙空間での生理機能変化について学ぶ。

・神経生理学

(概要) 基礎医学教育では健全な人体が動作する仕組みを理解する。神経系は運動、感覚、認知機能、自律機能などの生体機能を司るシステムであり、その正常な働きの結果、我々は体外・体内環境についての情報収集、その結果による情勢判断・意思決定、行動のサイクルを通して、健全な意思決定を実現できる。正常な神経系の動作原理を理解する事によって、さまざまな神経筋疾患の病態を理解し、その修正手段を講じる事が可能となる。本講義では、ヒトとしての重要な機能を司る神経系の構造とその働く仕組みを理解する。

(オムニバス方式／全15回)

(松坂 義哉／8回)

体外環境からの刺激の知覚、情報の統合・処理、外界への働きかけを行う体性神経系と体内環境のモニター、調整を行う自律神経系の正常構造と機能、および疾患における病態について学ぶ。

(坂本 一寛／7回)

神経細胞、視覚、大脳基底核、高次中枢、睡眠・覚醒の構造と機能を疾患と関連付けながら、歴史的経緯と最新の研究動向を踏まえつつ、システムとして理解する。

・薬理学

(概要) 最適な薬物療法を選択するためには、様々な疾患や病態における薬物の作用を論理的かつ体系的に理解し、その生体における動態を予測するための薬理学的思考能力を養うことが重要である。そこで薬理学では、薬物や毒物の個体・細胞・分子レベルにおける作用機序および生体と薬物分子との相互作用について理解を深め、的確な薬物療法を行うための基本的な考え方を修得する。さらに様々な疾患の診療で使用されている薬物の種類、作用機序、動態、副作用などについて学ぶ。

(オムニバス方式／全30回)

(岡村 信行／13回)

薬の用量と薬理作用との関係性、薬物有害反応、薬の作用様式、細胞内情報伝達機構、薬の投与経路と体内動態について学ぶ。また中枢神経系・呼吸器系・消化器系・血液造血器系・内分泌代謝系の各疾患で用いられている治療薬の種類と作用機序、和漢薬、新薬開発と臨床試験、薬物中毒の治療について基本知識を習得する。

(中村 正帆／14回)

神経薬理総論、末梢神経作用薬、全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬、薬物依存と嗜好について学習する。さらに循環器系(高血圧、狭心症、心不全)治療薬、腎泌尿器系治療薬、免疫抑制薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬、化学療法薬(抗菌薬、抗ウイルス薬、抗腫瘍薬)の種類と作用機序について基本知識を習得する。

(兼任教員／3回)

心筋の電気生理学、刺激伝導系異常の病態生理、抗不整脈薬の作用機序について学習する。また、漢方の歴史・漢方薬の特徴・診断の進め方などの漢方薬について学習する。

・病理学

(概要) 遺伝子・発生異常、細胞変性、代謝障害、循環障害、炎症、創傷治癒における病因・病態を理解する。

(オムニバス方式／全30回)

(中村 保宏／10回)

病理学総論の授業では、細胞傷害・適応、遺伝子・発生異常、炎症・修復・創傷治癒、循環障害、代謝と疾患、免疫・感染、腫瘍などにおける病因・病態を理解し、それらの病理学的基礎知識を身につける。

(笠島 敦子・村上 一宏／20回) (共同)

病理学各論の授業では、病理学総論で習得した知識を基に、各臓器における様々な疾患での病理形態像を理解し、それらの臨床像と結び付けて学習することを目標とする。

・放射線基礎医学体験学習

放射線の生体に及ぼす影響など、放射線基礎医学で学んだ知識を基に、原子炉事故などの放射線災害時に医師として適切に行動・対処できる基礎知識を身につけることを目標とする。女川原子力発電所を見学し(日帰り)、同所のリスク管理体制を学ぶ。福島県立医科大学放射線災害医療センターを見学(日帰り)し、事故時の線量測定、除染の方法を学ぶ。また、福島県立医科大学医療科学センター県民健康管理センターを見学(日帰り)し、放射線の長期影響に関する調査等の取組の実際を学ぶ。

・呼吸器学(内科・外科)

(概要) 呼吸器系の正常構造と機能を理解し、主な呼吸器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

(オムニバス方式／全45回)

(大類 孝／16回)

呼吸器の構造と機能を、次に呼吸器疾患の症候学および診断学と呼吸器疾患の総論を解説する。各論として主な呼吸器疾患の病態、症候、検査、診断、治療を教授する。

(海老名 雅仁／6回)

主な呼吸器疾患の病態、症候、検査、診断、治療を教授する。

(高橋 秀徳／7回)

主な呼吸器疾患の病態、症候、検査、診断、治療を教授する。

(田畑 俊治／15回)

主な呼吸器疾患の外科的治療および合併症を教授する。

(近藤 丘／1回)

肺移植の適応および合併症を教授する。

・病理学

(概要) 遺伝子・発生異常、細胞変性、代謝障害、循環障害、炎症、創傷治癒における病因・病態を理解する。

(オムニバス・共同(一部)／全30回)

(中村 保宏／15回)

病理学総論の授業として、細胞傷害・適応、遺伝子・発生異常、炎症・修復・創傷治癒、循環障害、代謝と疾患、免疫・感染、腫瘍などにおける病因・病態を理解し、それらの病理学的基礎知識を身につける。

(村上 一宏／9回)

病理学総論で習得した知識を基に、各臓器における様々な疾患での病理形態像を、それらの臨床像と結び付けて学習することを目標とする。

(中村 保宏・村上 圭吾／2回) (共同)

病理学総論で習得した知識を基に、肝・胆道・膵疾患における様々な病理形態像を、それらの臨床像と結び付けて学習する。

(兼任教員／4回)

病理学総論で習得した知識を基に、内分泌疾患、乳腺疾患、神経疾患における様々な病理形態像を、それらの臨床像と結び付けて学習する。

・放射線基礎医学体験学習

放射線の生体に及ぼす影響など、放射線基礎医学で学んだ知識を基に、原子炉事故などの放射線災害時に医師として適切に行動・対処できる基礎知識を身につける。女川原子力発電所を見学し(日帰り)、同所のリスク管理体制を学ぶ。また、福島県の被災地を見学(1泊2日)し、放射線の長期影響に関する調査等の取組の実際を学ぶ。

・呼吸器学(内科・外科)

(概要) 呼吸器系の正常構造と機能を理解し、主な呼吸器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

(オムニバス・共同(一部)／全45回)

(海老名 雅仁・吉村 成央／10回) (共同)

呼吸器系の構造と機能を呼吸器疾患の総論と合わせて学習する。また、各論として主な呼吸器疾患の病態、症候、検査、診断、治療を学ぶ。

(大類 孝・吉村 成央／11回) (共同)

呼吸器疾患の症候学および診断学を、各論として主な呼吸器疾患の病態、症候、検査、診断、治療を学ぶ。

(田畑 俊治／14回)

主な呼吸器疾患の外科的治療および合併症を学ぶ。

(近藤 丘／1回)

肺移植の適応および合併症を学ぶ。

(佐川 元保／1回)

主な呼吸器疾患の気管支鏡検査を学ぶ。

(小山 周樹／3回)

主な呼吸器疾患の画像診断法(胸部X P、胸部CTおよび核医学検査)を学ぶ。

(大類 孝／1回)

睡眠時無呼吸および換気異常の病態、症候、検査、診断ならびに人工換気を含めた治療を学ぶ。

(高橋 識至／1回)

呼吸器疾患の治療の一環としてCOPDのリハビリテーションについて学ぶ。

(海老名 雅仁・大類 孝・田畑 俊治／3回) (共同)

主な呼吸器疾患の病態、症候、検査、診断、治療に関し、理解を深める。

・腎・泌尿器学

(概要) 腎・尿路系および男性生殖器系の正常構造と機能を理解し、主な腎・尿路系および男性生殖器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

(オムニバス方式／全30回)

(森 建文・岩倉 芳倫／15回) (共同)

腎疾患では、糸球体や尿細管間質障害による様々な原発性・二次性の腎炎・腎症やネフローゼ症候群、二次性高血圧の原因となる腎血管狭窄や腎内分泌、免疫・血液異常に伴う血管炎や沈着症について、病態、診断と治療方針を決定するプロセスを学習する。

(佐藤 信・海法 康裕／15回) (共同)

泌尿器系癌(腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌、精巣腫瘍など)、神経因性膀胱、尿路結石、尿路感染症、先天奇形(先天性水腎症、膀胱尿管逆流症など)および男子不妊症について、病態、診断と治療方針を決定するプロセスを学習する。

・循環器学(内科・外科)

(概要) 循環器系の正常構造と機能を理解し、主な循環器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。これらの身体所見、検査所見から診断に至る考え方を教授する。

(オムニバス方式／全45回)

(片平 美明／18回)

心・血管系の正常構造と機能、循環器の主要症候、主な循環器疾患(心不全、虚血性心疾患、高血圧症)の疫学、病因、病態生理、合併症、症候、予後を教授する。

(小丸 達也／17回)

主な循環器疾患(不整脈、心臓弁膜症、心筋・心膜疾患、先天性心疾患、動脈疾患、静脈・リンパ管疾患)の疫学、病因、病態生理、合併症、症候、予後を教授する。

(川本 俊輔／10回)

外科的治療では、原理原則とその治療効果、手術適応と限界、合併症などの予後を規定する因子について学び、循環器疾患治療における外科手術の位置づけを理解する。さらに、重症心不全に対する補助人工心臓や心臓移植治療についても、その適応と課題について理解する。

・腎・泌尿器学

(概要) 腎・尿路系および男性生殖器系の正常構造と機能を理解し、主な腎・尿路系および男性生殖器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

(オムニバス・共同／全30回)

(森 建文・衣笠 哲史／15回) (共同)

腎疾患では、糸球体や尿細管間質障害による様々な原発性・二次性の腎炎・腎症やネフローゼ症候群、二次性高血圧の原因となる腎血管狭窄や腎内分泌、免疫・血液異常に伴う血管炎や沈着症について、病態、診断と治療方針を決定するプロセスを学習する。

(佐藤 信・海法 康裕／11回) (共同)

泌尿器系癌(前立腺癌、精巣腫瘍など)、神経因性膀胱、尿路結石、尿路感染症、先天奇形(先天性水腎症、膀胱尿管逆流症など)および男子不妊症について、病態、診断と治療方針を決定するプロセスを学習する。

(佐藤 信・伊藤 淳／3回) (共同)

泌尿器系癌(腎癌、尿路上皮癌など)、腎尿路系の組織・解剖・発生・画像診断について学習する。

(海法 康裕・伊藤 淳／1回) (共同)

上部尿路、下部尿路の機能・役割・検査法について学習する。

・循環器学(内科・外科)

(概要) 循環器系の正常構造と機能を理解し、主な循環器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。これらの身体所見、検査所見から診断に至る考え方を修得する。

(オムニバス・共同(一部)／全45回)

(小丸 達也／15回)

心・血管系の正常構造と機能、循環器の主要症候、主な循環器疾患(心臓弁膜症、心筋・心膜疾患、肺動脈疾患等)の疫学、病因、病態生理、合併症、症候、予後を習得する。

(小丸 達也・熊谷 浩司／3回) (共同)

心不全の疫学、病因、病態生理、合併症、症候、予後を習得する。

(小丸 達也・山家 実／3回) (共同)

高血圧症の疫学、病因、病態生理、合併症、症候、予後を習得する。

(小丸 達也・亀山 剛義／4回) (共同)

虚血性心疾患の疫学、病因、病態生理、合併症、症候、予後を習得する。

(小丸 達也・川合 英一郎／4回) (共同)

先天性心疾患の疫学、病因、病態生理、合併症、症候、予後を習得する。

(熊谷 浩司・菅井 義尚／4回) (共同)

不整脈の疫学、病因、病態生理、合併症、症候、予後を習得する。

(川本 俊輔／8回)

外科的治療では、原理原則とその治療効果、手術適応と限界、合併症などの予後を規定する因子について学び、循環器疾患治療における外科手術の位置づけを理解する。さらに、重症心不全に対する補助人工心臓や心臓移植治療についても、その適応と課題について理解する。

(清水 拓也／4回)

動脈疾患、静脈・リンパ管疾患の疫学、病因、病態生理、合併症、症候、予後を習得する。

・消化器学（内科・外科）

（概要）消化器系の正常構造と機能を理解し、主な消化器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

（オムニバス方式／全45回）

（佐藤 賢一／10回）

消化器系臓器の構造と機能の総論、上部および下部消化管疾患の病因・病態生理・症候・検査の方法・適応・解釈と診断、内科的治療を教授する。

（山本 毅／10回）

肝臓疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と内科的治療を教授する。

（目黒 敬義／6回）

胆道・膵臓疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と内科的治療を教授する。

（成島 陽一／7回）

肝臓・胆道・膵臓疾患の外科的治療の適応と術式および合併症を学ぶ。

（柴田 近・小川 仁・中野 徹／12回）（共同）

上部および下部消化管疾患の外科的治療の適応と術式および合併症を学ぶ。

・神経学（内科・外科）

（概要）神経系の正常構造と機能を理解し、主な神経系疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

（オムニバス方式／全45回）

（中島 一郎／19回）

神経系の正常構造と機能を解説し、神経系の異常に伴う症候を説明する。神経診察の基本を概説し、診察から推察できる責任病巣や病態のとりえ方を解説する。主な神経疾患や神経症候の病因、病態生理、症候、検査法、診断、治療について解説する。

（藤盛 寿一／6回）

神経疾患の診断や病態の理解に必要な神経系の検査を説明し、神経内科診療に役立つ知識を身につけさせる。また、神経診察所見や検査結果の解釈、病態的意義について解説する。

（佐々木 達也・林 俊哲／20回）（共同）

脳腫瘍、脳血管障害（脳卒中）、神経外傷、先天性奇形、感染性疾患、痛み等については、実例の手術ビデオを呈示しながら、多彩な脳神経外科の臨床を学べる内容とする。

・消化器学（内科・外科）

（概要）消化器系の正常構造と機能を理解し、主な消化器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

（オムニバス・共同（一部）／全45回）

（佐藤 賢一／8回）

消化器系臓器の構造と機能の総論、**上部および**下部消化管・肝臓・胆道・膵臓疾患の病因・病態生理・症候・検査の方法・適応・解釈と診断、内科的治療を学ぶ。

（廣田 衛久／4回）

膵臓疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と内科的治療を学ぶ。

（目黒 敬義／2回）

胆道疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と内科的治療を学ぶ。

（小暮 高之／7回）

肝臓疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と内科的治療を学ぶ。

（遠藤 克哉／4回）

上部・下部消化管疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と内科的治療を学ぶ。

（片寄 友／4回）

胆道・肝臓疾患の外科的治療の適応と術式および合併症を教授する。

（片寄 友・山本 久仁治／2回）（共同）

肝臓疾患の外科的治療の適応と術式および合併症を学ぶ。

（柴田 近／5回）

上部および下部消化管疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患の外科的治療の適応と術式および合併症、無菌法、損傷、創傷治療を含む外科総論を学ぶ。

（小川 仁・中野 徹／9回）（共同）

上部および下部消化管疾患の外科的治療の適応と術式および合併症を学ぶ。

・神経学（内科・外科）

（概要）神経系の正常構造と機能を理解し、主な神経系疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

（オムニバス・共同（一部）／全45回）

（中島 一郎／17回）

神経系の正常構造と機能を学び、神経系の異常に伴う症候を理解する。神経診察の基本、診察から推察できる責任病巣や病態のとりえ方を修得する。主な神経疾患や神経症候の病因、病態生理、症候、検査法、診断、治療について学ぶ。

（藤盛 寿一／3回）

神経疾患の診断や病態の理解に必要な神経系の検査を学習し、神経内科診療に役立つ知識を身につける。また、神経診察所見や検査結果の解釈、病態的意義について修得する。

（佐々木 達也・林 俊哲／19回）（共同）

脳腫瘍、脳血管障害（脳卒中）、神経外傷、先天性奇形、感染性疾患、痛み等については、実例の手術ビデオ**も見ながら**、多彩な脳神経外科の臨床を学ぶ。

（古川 勝敏／1回）

認知症の病因、病態、分類、症候、検査、治療について学ぶ。

（佐藤 滋／1回）

脳炎・髄膜炎の病因、病態、分類、症候、検査、治療について学ぶ。

（菊池 大一／2回）

高次脳機能障害の症候や診察法について学ぶ。

（兼任教員／2回）

大脳皮質の機能局在を解説**および**高次機能障害との関連を学ぶ。**また、てんかんの外科を学ぶ。**

・精神科学

(概要) 精神と行動の障害に対して、全人的な立場から、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を理解し、良好な患者と医師の信頼関係に基づいた全人的医療を学ぶ。

(オムニバス方式／全15回)

(鈴木 映二／8回)

総論として、面接方法と精神療法、診断分類、症候論を説明し、精神医学の対象領域を聴取できるようにする。各論として、代表的な各精神疾患の特徴を、時に症例を提示しながら、疾患の症状、留意点、問題点、治療、予後などを講義する。

(中川 誠秀／4回)

精神科臨床の場では、精神状態の把握のみならず、治療のための社会的な関わり合いを念頭に置き、倫理的側面を重視する必要がある。そのための精神保健福祉法に則った治療を概説する。

(吉村 淳／3回)

各論として、薬物依存、思春期および老年期の精神医学、認知症について、時に症例を提示しながら、疾患の症状、留意点、問題点、治療、予後などを講義する。

・内分泌学・代謝学

(概要) 内分泌・代謝系の構成と機能を理解し、主な内分泌・代謝疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

(オムニバス方式／全30回)

(岩倉 芳倫／15回)

内分泌ホルモン(視床下部-下垂体系、甲状腺、副甲状腺、副腎)、外分泌ホルモン(睪島から分泌されるホルモン)および男性・女性ホルモンの合成・代謝経路、分泌調節機構および作用機序を解説する。これらの知識を基に、その異常によって起こる病態・症候、鑑別診断と確定診断へ向けた適切な検査法および内科的治療を教授する。

(鈴木 昭彦・渡部 剛／6回) (共同)

内分泌系の異常による疾患の外科的治療の適応と術式を教授する。

(赤井 裕輝／9回)

前記ホルモンとの相互作用を含む糖、脂質、蛋白質および核酸代謝の理解を基に、代謝異常に起因する病態(糖尿病や通風など)、症候と治療について教授する。

・精神科学

(概要) 精神と行動の障害に対して、全人的な立場から、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を理解し、良好な患者と医師の信頼関係に基づいた全人的医療を学ぶ。

(オムニバス・共同(一部)／全15回)

(鈴木 映二／2回)

総論として、面接方法と精神療法、診断分類、症候論を学び、精神科学の対象となる症候について習得する。各論として、精神科治療薬の種類、作用機序、副作用および心理社会的治療についても学ぶ。

(鈴木 映二・櫻田 久美／5回) (共同)

総論として、精神と行動の障害についての診立てや鑑別を修得する。代表的な精神疾患の特徴、症例を学ぶ。提示された症例をグループごとに、自主学習的に疾患の症状、留意点、問題点、治療、予後などを講師がファシリテーターとなりまとめさせる。最後にパワーポイントを使って合同発表会を行い、精神医学の理解を深める。

(中川 誠秀／2回)

各論として、神経症性障害および症状性精神障害について、症例を通じて、疾患の症状、留意点、問題点、治療、予後などを学ぶ。

(吉村 淳／4回)

各論として、統合失調症、アルコール・薬物依存、および思春期の精神医学について、症例を通じて、疾患の症状、留意点、問題点、治療、予後などを学ぶ。また、精神科臨床の場では、治療のための社会的な関わり合いを念頭に置き、倫理的側面を重視する必要がある。そのため、精神保健福祉法や医療観察法に則った治療を理解する。

(山田 和男／2回)

各論として、気分障害および老年期の精神医学、認知症について、時に症例を通じて、疾患の症状、留意点、問題点、治療、予後などを学ぶ。

・内分泌学・代謝学

(概要) 内分泌・代謝系の構成と機能を理解し、主な内分泌・代謝疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

(オムニバス・共同(一部)／全30回)

(森 建文・谷 淳一／8回) (共同)

内分泌ホルモン(視床下部-下垂体系、副甲状腺、副腎)および男性・女性ホルモンの合成・代謝経路、分泌調節機構および作用機序を学ぶ。これらの知識を基に、その異常によって起こる病態、症候、鑑別診断と確定診断へ向けた適切な検査法および内科的治療を修得する。

(谷 淳一・中村 はな／4回) (共同)

甲状腺ホルモンの合成・代謝経路、分子調節機構および作用機序を学び、甲状腺疾患における病態、症候、検査の方法、鑑別診断、内科的治療法について修得する。

(鈴木 昭彦・寺澤 孝幸／3回) (共同)

内分泌系の異常による疾患の外科的治療の適応と術式を学ぶ。

(赤井 裕輝／13回)

前記ホルモンとの相互作用を含む糖、脂質、蛋白質および核酸代謝の理解を基に、代謝異常に起因する病態(糖尿病や通風など)、症候と治療について修得する。

(赤井 裕輝・丹治 泰裕／2回) (共同)

前記ホルモンとの相互作用を含む肥満(症)における様々な代謝異常、および脂質代謝の理解を基に、起因する病態(動脈硬化など)、症候と治療について学ぶ。

・産科学・婦人科学

(概要) 妊娠、分娩と産褥期の管理に必要な基礎知識、主な異常妊娠、異常分娩と異常産褥の病態と治療および母子保健、生殖医療のあり方を学ぶ。女性生殖器の正常構造と機能を理解し、主な女性生殖器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

(オムニバス方式／全30回)

(渡部 洋／10回)

女性生殖器の発生、構造、機能を理解し、産婦人科診察法と検査法の基礎、婦人科腫瘍学、生殖内分泌学、周産期医学、女性のヘルスケアに関して総合的に教授する。生殖医療の倫理、EBMに則った産婦人科治療とインフォームドコンセントについても解説する。

(中西 透／10回)

主な婦人科疾患とし、女性生殖器の発生と分化異常、不妊症、婦人科良性腫瘍、婦人科悪性腫瘍の病因、病態、診断、治療について解説する。

(渡辺 正／10回)

産科では正常妊娠、分娩、産褥期の管理の学習を基本として、異常妊娠、異常分娩、産褥異常の診断、管理、治療について解説する。

・小児科学

(概要) 子どもの成長と発達に加え、小児の代表的な疾患の重要事項を習得させる。また、身体の疾患だけでなく近年社会的にも問題視されている心身医学的な問題に関する基礎知識の習得を目指す。

(オムニバス方式／全30回)

(森本 哲司／20回)

総論として、小児の生理、成長と発達、小児保健および体液・輸液について概説する。各論として、循環器疾患、腎疾患、感染症、内分泌疾患、消化器疾患の病態と治療および心身医学的問題について解説する。

(小川 英伸／10回)

血液・腫瘍疾患、免疫アレルギー・膠原病、代謝異常、小児救急や新生児疾患について解説する。

・産科学・婦人科学

(概要) 妊娠、分娩と産褥期の管理に必要な基礎知識、主な異常妊娠、異常分娩と異常産褥の病態と治療および母子保健、生殖医療のあり方を学ぶ。女性生殖器の正常構造と機能を理解し、主な女性生殖器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

(オムニバス方式／全30回)

(渡部 洋／7回)

産婦人科学を総論として、女性生殖器の発生、構造、機能、産婦人科診察法と検査法の基礎、EBMに則った産婦人科治療、産婦人科治療の倫理について修得する。さらに婦人科腫瘍学、生殖内分泌学、女性医学および産科学を総論的に学習する。

(中西 透／6回)

婦人科学として、女性生殖器の機能、性器の位置異常、子宮体癌、良性卵巣腫瘍や悪性卵巣腫瘍、絨毛性疾患、婦人科悪性腫瘍の放射線療法や化学療法について学ぶ。

(渡辺 正／6回)

生殖内分泌学および産科学として、婦人科診察法、思春期・更年期、不妊症、正常妊娠の成立と経過、産科手術、産褥と乳房管理について学ぶ。

(酒井 啓治／9回)

産科学として、産科の基本的診察手技と胎児発育機能検査法・出生前診断、妊娠中の異常や多胎妊娠、合併症妊娠、正常分娩、異常分娩について学ぶ。

(兼任教員／2回)

妊娠中の異常、胎児異常、出生前診断の方法と倫理について学ぶ。

・小児科学

(概要) 子どもの成長と発達に加え、小児の代表的な疾患の重要事項を習得する。また、身体の疾患だけでなく近年社会的にも問題視されている心身医学的な問題に関する基礎知識を習得する。

(オムニバス・共同(一部)／全30回)

(森本 哲司／15回)

総論として、小児の生理、成長と発達、小児保健および体液・輸液について概説する。小児救急、および各論として、遺伝・染色体異常、先天代謝異常、腎疾患、感染症、代謝内分泌疾患、境界領域疾患(小児皮膚科、眼科、耳鼻科など)の病態と治療、小児における検査法について学ぶ。また、理解度把握のための講義を行うことにより理解を深める。

(川合 英一郎／1回)

小児疾患の病態と治療について学ぶ。

(森本 哲司・北沢 博／3回) (共同)

小児のアレルギー・リウマチ性疾患の病態と治療について学ぶ。

(森本 哲司・兼任教員／2回) (共同)

小児の血液・主要疾患の病態と治療について学ぶ。

(森本 哲司・兼任教員／3回) (共同)

胎児～新生児の生理、および新生児疾患の病態と治療について学ぶ。

(兼任教員／6回)

小児の神経・筋疾患の病態と治療および心身医学的問題について、また、小児における消化器疾患および小児外科疾患の病態と治療について学ぶ。

・整形外科学

整形外科の傷病は大きく外傷、腫瘍、変性疾患に分けられ、さらに変性疾患は、脊椎、肩、肘、股関節、膝関節などの身体部位別に細かく分けられる。講義では、初めに総論として機能解剖、骨、筋肉の生理、画像検査等について解説する。その後、関節学、骨代謝、骨折、スポーツ障害、骨軟部腫瘍、脊椎・脊髄病、神経・筋疾患、手の外科、運動器リハビリテーションの各論について解説する。運動器系の正常構造と機能を理解し、主な運動器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療について理解できることを到達目標とする。

・整形外科学

(概要) 整形外科の傷病は大きく外傷、腫瘍、変性疾患に分けられ、さらに変性疾患は、脊椎、肩、肘、股関節、膝関節などの身体部位別に細かく分けられる。講義では、初めに総論として機能解剖、骨、筋肉の生理、画像検査等について解説する。その後、関節学、骨代謝、骨折、スポーツ障害、骨軟部腫瘍、脊椎・脊髄病、神経・筋疾患、手の外科、運動器リハビリテーションの各論について解説する。運動器系の正常構造と機能を理解し、主な運動器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療について理解できることを到達目標とする。

(オムニバス方式／全30回)

(小澤 浩司／14回)

総論として、整形外科の歴史と社会的役割、骨・軟骨・関節・靭帯・脊椎・脊髄の構造と機能、四肢の骨・関節の構築と主な骨の配置、骨の成長と骨形成・吸収の機序、四肢の主要筋群の運動と神経支配、姿勢と体幹の運動にかかわる筋群、抗重力筋、徒手検査(関節可動域検査、徒手筋力検査)と感覚、運動麻痺・筋力低下等について学ぶ。また、骨軟部腫瘍の分類、軟部腫瘍の診断、病理所見、治療について理解する。特に、良性骨腫瘍及び悪性骨腫瘍、原発性骨腫瘍(骨肉腫、Ewing肉腫)の臨床所見、画像所見、病理所見、初期治療を学習する。頸椎症性脊髄症(脊柱靭帯骨化症を含む)の神経症候、上肢絞扼性神経障害、体幹・下肢絞扼性神経障害の症候、診断と治療について学ぶ。骨折の分類(単純と複雑)と症候・治療と合併症、四肢の基本的固定法、コンパートメント症候群・腰部脊柱管狭窄症・腰椎分離・すべり症・腰椎椎間板ヘルニア等の診断と治療について学習する。

(石塚 正人／5回)

総論として、筋骨格系画像診断の適応について理解する。関節の脱臼・亜脱臼・捻挫・靭帯損傷の定義、重症度分類、関節動揺、変形性関節症・関節痛・関節腫脹・関節炎・腱鞘炎の病態、診断と治療、また、肩関節疾患、肘関節疾患、膝関節疾患、変形性膝関節症の病態、診断と治療を学習する。骨粗鬆症の病因、病態と治療・骨折の好発部位、骨形成不全症と骨軟骨異形成症、フレイル、サルコペニア、ロコモティブ・シンドロームの概念、その対処法、予防について学習する。

(兼任教員／2回)

骨盤の構成、性差、股関節疾患について理解する。また、関節炎の原因と治療、化膿性関節炎の症候、診断と治療、関節リウマチの病態生理、症候、診断、治療とリハビリテーション、関節リウマチの関節外症状、痛風、多発関節炎、全身性エリテマトーデス(SLE)について学習する。

(9 権太 浩一／3回)

形成外科が主として用いる治療手段・術式の一般論を理解し、それらが適用される四肢の疾患や外傷を学ぶ。特に形成外科的治療手技が多用される手領域について、その疾患・外傷、治療法について学習する。

(17 伊藤 修／3回)

運動器疾患のリハビリテーションの対象と実際、脊髄・脊柱損傷のリハビリテーション、切断のリハビリテーションの実際について学習する。

(34 室谷 嘉一／3回)

がんのリハビリテーションの概念と適応、リハビリテーションの薬物療法(痙縮の診断と治療)、スポーツ障害のリハビリテーションについて学習する。

・全身管理学

(概要) 食事、輸液療法、医用機器、人工臓器、リハビリテーションの基本を学ぶ。

(オムニバス方式／全15回)

(柴田 近／3回)

栄養管理としての食事および輸液療法の種類と適応および合併症について解説する。

(小泉 賢治／4回)

人工腎臓には、血液をダイアライザーに通す方法と腹膜を介した方法の2種類がある。血液浄化療法はこれらの手法を用いて周術期や日常的な全身管理を行っており、その原理と基礎を説明する。

(星 邦彦／4回)

人工呼吸管理は、ただ血液ガスの改善だけを目指して一回換気量などを設定すると肺障害が生じ多臓器不全になることがわかってきた。そこで肺障害を起こさないような人工呼吸器設定はどういうものか解説する。

(伊藤 修・室谷 嘉一／4回) (共同)

リハビリテーションでは、身体障害の概念・評価、治療の種類と適応そして医師の役割と他職種との連携について概説する。

・麻酔学

(概要) 周術期管理および全身麻酔・局所麻酔の基本を学ぶ。

(オムニバス方式／全15回)

(星 邦彦／10回)

全身麻酔中に循環・呼吸状態を把握する為に必要とされる循環生理や呼吸生理の基本的知識および患者監視モニターの血圧や心電図、パルスオキシメータや呼気終末炭酸ガス濃度などのデータの解釈について解説する。また、循環が変動した時に投与される循環作動薬の薬理作用と投与法を教授する。

(長屋 慶／5回)

長時間の麻酔や出血量が多い場合に循環血液量を維持するために投与される輸液や血液製剤の種類や適応、投与法を中心に解説する。

・血液学

まず、血液・造血器・リンパ系の正常構造と機能を理解し、主な血液・造血器・リンパ系疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。また、抗腫瘍剤を用いた臨床試験の方法・解釈の仕方も学ぶ。さらに、ここ四半世紀の血液学の飛躍的・ダイナミックな進歩(サイトカインの発見および臨床応用、造血器悪性腫瘍の責任遺伝子の同定、白血病の分化誘導療法・分子標的療法、造血幹細胞移植の拡大など)も講義を通して味わってもらう。

・全身管理学

(概要) 食事、輸液療法、医用機器、人工臓器、リハビリテーションの基本を学ぶ。

(オムニバス／全15回)

(柴田 近／4回)

栄養管理としての食事および輸液療法の種類と適応および合併症について学ぶ。

(室谷 嘉一／4回)

人工腎臓には、血液をダイアライザーに通す方法と腹膜を介した方法の2種類がある。血液浄化療法はこれらの手法を用いて周術期や日常的な全身管理を行っており、その原理と基礎を学ぶ。

(河野 達郎／1回)

人工呼吸管理は、ただ血液ガスの改善だけを目指して一回換気量などを設定すると肺障害が生じ多臓器不全になることがわかってきた。そこで肺障害を起こさないような人工呼吸器設定はどういうものか理解する。

(伊藤 修／4回)

リハビリテーションでは、身体障害の概念・評価、治療の種類と適応そして医師の役割と他職種との連携について学習する。

(兼任教員／2回)

人工呼吸中に使用するコンプライアンスや抵抗、呼吸仕事量などの基本生理、患者に易しい人工呼吸器の設定方法を学ぶ。

・麻酔学

(概要) 周術期管理および全身麻酔・局所麻酔の基本を学ぶ。

(オムニバス・共同(一部)／全15回)

(河野 達郎／6回)

全身麻酔中に循環状態を把握する為に必要とされる循環生理および患者監視モニターの血圧や心電図などのデータの解釈について理解する。また、循環が変動した時に投与される循環作動薬の薬理作用と投与法を学習する。

(河野 達郎・伊藤 裕之／3回) (共同)

全身麻酔中に呼吸状態を把握する為に必要とされる呼吸生理の基本的知識および患者監視モニターのパルスオキシメータや呼気終末炭酸ガス濃度などのデータの解釈について理解する。

(長屋 慶・吉田 明子／4回) (共同)

長時間の麻酔や出血量が多い場合に循環血液量を維持するために投与される輸液や血液製剤の種類や適応、投与法を中心に学習する。

(兼任教員／2回)

小児と大人の異なる体の構造や臓器の機能と麻酔法を学ぶ。集中治療に関する循環、呼吸の基本的知識および人工呼吸が生体の呼吸・循環にどのように影響を与えているかについて理解する。

・血液学

(概要) 血液・造血器・リンパ系の構造と機能を理解し、主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。

(オムニバス方式／全30回)

(亀岡 淳一／24回)

血液・造血器・リンパ系の正常構造と機能を理解し、主な血液・造血器・リンパ系疾患(急性白血病・凝固系疾患を除く)の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。さらに、ここ四半世紀の血液学の飛躍的・ダイナミックな進歩(サイトカインの発見および臨床応用、造血器悪性腫瘍の責任遺伝子の同定、白血病の分化誘導療法・分子標的療法、造血幹細胞移植の拡大など)も学習する。

(阿部 正理／4回)

急性白血病の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。また、抗腫瘍剤を用いた臨床試験の方法・解釈の仕方も学ぶ。

(兼任教員／2回)

血液・造血器・リンパ系の正常構造と機能を理解し、凝固系疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

・皮膚科学

(概要) 皮膚の正常構造と機能を理解し、主な皮膚疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。可能な限り担当教員が実際に経験した症例の臨床像・病理像のスライドを供覧することにより講義内容に説得性をもたせる。また、大多数の疾患が病理像とともに検討できるという皮膚科の特徴を最大限利用・提示し、皮膚科の醍醐味と面白さを伝えるように努めるとともに、常に「皮膚は全身の一部である」という視点に立った講義を行う。

(オムニバス方式／全15回)

(岡 昌宏／10回)

総論(皮膚の正常構造と機能、発疹学、皮膚の検査法、皮膚科的治療法など)、代表的な湿疹・皮膚炎および蕁麻疹、薬疹の病態と治療法、環境要因による皮膚疾患の病態と治療法、色素性皮膚疾患、皮膚腫瘍について講義する。

(福永 瑞穂／5回)

皮膚付属器疾患および膠原病などの全身性疾患に合併する皮膚疾患の病態と治療法および皮膚感染症の治療法について講義する。

・眼科学

眼・視覚系の正常構造と機能を解剖・生理・分子生物学的見地より学び、眼疾患との関わりを理解する。代表的な眼・視覚系疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法とその意味、診断、治療法について学び、将来の一般臨床医として必要な眼科学の基礎的知識を身につける。人間は外界の情報の80%を視覚を通して獲得しており、視覚障害によって生活や精神的活動性は著しく制約を受けるためそれによる社会的損失は計り知れず大きい。視覚障害を引き起こす眼科疾患に対する最新の治療法等について学んでいく。

・耳鼻咽喉科学

(概要) 耳鼻咽喉系の構造と機能を基に、各種検査方法および代表的な疾患の病態と治療について、症例を提示しながら教授する。

(オムニバス方式／全15回)

(太田 伸男／10回)

聴覚器・平衡器の構造と機能を基に、聴覚の検査方法や平行機能検査を理解し、伝音難聴や感音難聴・めまいなどの病態と中耳疾患の手術的治療などを教授する。鼻副鼻腔の構造と機能を基に、嗅覚障害やアレルギー性鼻炎、副鼻腔炎の病態と内視鏡を用いた副鼻腔の手術を教授する。また、口腔・咽喉の構造と嚥下や発声のしくみを基に、扁桃疾患や口腔底・頸部領域の感染症、味覚障害、嚥下障害、発声障害の病態と治療を教授する。

(東海林 史／5回)

頭頸部の構造を基に、頭頸部に発生する嚢胞・良性腫瘍・悪性腫瘍および鑑別診断と手術治療や放射線治療・化学療法、形態・機能の温存や再建術を教授する。

・皮膚科学

皮膚の正常構造と機能を理解し、主な皮膚疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。そのために、実際に経験した症例の臨床像・病理像のスライドを供覧することにより講義内容に説得性をもたせる。また、大多数の疾患が病理像とともに検討できるという皮膚科の特徴を最大限利用・提示し、皮膚科の醍醐味と面白さを伝えるように努めるとともに、常に「皮膚は全身の一部である」という視点から理解を深める。

総論(皮膚の正常構造と機能、発疹学、皮膚の検査法、皮膚科的治療法など)、代表的な湿疹・皮膚炎および蕁麻疹、薬疹の病態と治療法、環境要因による皮膚疾患の病態と治療法、色素性皮膚疾患、皮膚腫瘍について学ぶ。また、皮膚付属器疾患および膠原病などの全身性疾患に合併する皮膚疾患の病態と治療法および皮膚感染症の治療法について学ぶ。

・眼科学

(概要) 眼・視覚系の正常構造と機能を解剖・生理・分子生物学的見地より学び、眼疾患との関わりを理解する。代表的な眼・視覚系疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法とその意味、診断、治療法について学び、将来の一般臨床医として必要な眼科学の基礎的知識を身につける。人間は外界の情報の80%を視覚を通して獲得しており、視覚障害によって生活や精神的活動性は著しく制約を受けるためそれによる社会的損失は計り知れず大きい。視覚障害を引き起こす眼科疾患に対する最新の治療法等について学んでいく。

(オムニバス方式／全15回)

(高橋 秀肇／14回)

眼・視覚系の正常構造と機能を解剖・生理・分子生物学的見地より学び、眼疾患との関わりを理解する。さらに代表的な眼・視覚系疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法とその意味、診断、治療法について学び、将来の一般臨床医として必要な眼科学の基礎的知識を身につける。

(権太 浩一／1回)

眼科に関連する形成・再建治療について、形成外科の観点から学ぶ。

・耳鼻咽喉科学

(概要) 耳鼻咽喉系の構造と機能を基に、各種検査方法および代表的な疾患の病態と治療について、症例を通じて学習する。

(オムニバス方式／全15回)

(太田 伸男／4回)

聴覚器・平衡器の構造と機能を基に、聴覚の検査方法や平行機能検査を理解し、伝音難聴や感音難聴・めまいなどの病態と中耳疾患の手術的治療などを学習する。鼻副鼻腔の構造と機能を基に、嗅覚障害やアレルギー性鼻炎、副鼻腔炎の病態と内視鏡を用いた副鼻腔の手術を学習する。また、口腔・咽喉の構造と嚥下や発声のしくみを基に、扁桃疾患や口腔底・頸部領域の感染症、味覚障害、嚥下障害、発声障害の病態と治療を学習する。頭頸部の構造を基に、頭頸部に発生する嚢胞・良性腫瘍・悪性腫瘍および鑑別診断と手術治療や放射線治療・化学療法、形態・機能の温存や再建術を学習する。

(東海林 史／4回)

聴覚器・平衡器の構造と機能を基に、聴覚の検査方法や平行機能検査を理解し、伝音難聴や感音難聴・めまい・顔面神経麻痺などの病態と中耳疾患の手術的治療などを教授する。口腔・咽喉の構造としくみを基に味覚障害の病態と治療を教授する。鼻副鼻腔の構造と機能を基に嗅覚障害の病態を教授する。

(鈴木 貴博／3回)

頭頸部の構造を基に、頭頸部に発生する唾液腺疾患・外傷・異物・悪性腫瘍および鑑別診断と手術治療を学習する。

(権太 浩一／1回)

頭頸部の構造を基に、頭頸部に発生する悪性腫瘍および鑑別診断と手術治療や放射線治療・化学療法、形態・機能の温存や再建術を学習する。

(兼任教員／3回)

頭頸部の構造を基に、頭頸部に発生する唾液腺疾患・外傷・異物・悪性腫瘍および鑑別診断と手術治療や放射線治療・化学療法、形態・機能の温存や再建術を学習する。口腔・咽喉の構造と嚥下や発声のしくみを基に、喉頭疾患や嚥下障害、発声障害の病態と治療を学習する。また、**口腔・咽喉の構造と嚥下や発声のしくみを基に、齲齒、私有炎などの歯科疾患および口内炎、口腔病変、口腔底膿瘍の病態と治療を学習する。**

・放射線医学

(概要) 核医学検査およびMRI (磁気断層影画像法) 検査法の測定原理を概説し、代表的な疾患の画像診断法の理解を深める。また、放射線治療のために必要とされる物理学・生物学的基礎の理解の上に、がんの治療法、効果および副作用について教授する。さらに放射線作業従事者の放射線防護、安全管理についても概説する。

(オムニバス方式/全30回)

(福田 寛/6回)

核医学、PETおよびMRIの原理と臨床応用およびinterventional radiologyについて解説する。また医療被曝や放射線防護と安全管理について概説する。

(小山 周樹/24回)

呼吸器や循環器、消化器、脳神経系、尿・生殖器、運動器、内分泌系の代表的疾患における画像診断学および放射線治療の総論と代表的疾患における放射線治療の実際について解説する。

・災害医療学

災害医療学の講義では、災害医療全般 (トリアージ、災害医療支援チーム、災害救急情報システム、特殊災害等) と、東日本大震災の経験に基づく実災害における対応について学習する。災害医療全般の講義では、主にDMATの活動を基本として、災害医療概論、トリアージ方法、ロジスティクス、災害時の救急医療情報システム、域外搬送、Confined Space Medicine、CBRNE災害、などについて学習する。東日本大震災関連では、超急性期～急性期～亜急性期～慢性期に渡る被災域内病院の対応、傷病者の域外・域内搬送、避難所の医療・衛生環境支援、被災者の身体的・精神的ケア、原発事故対応、行政側の対応、事業継続計画等について、想定外の甚大な災害時の対応について学ぶ。以上、災害医療の概論を理解し、更に実災害時の対応を学ぶことで、災害医療に対する理解をより深める。

・環境疾病学

(概要) 中毒と環境要因によって生じる疾患について、疫学、病態生理、症候、診断と治療など、基本的な内容に関して包括的に教授する。

(オムニバス方式/全15回)

(目時 弘仁/2回)

中毒・環境要因による疾病の疫学を概説する。

(遠藤 智之/10回)

中毒の症状に関わる内容として意識障害の鑑別、治療に関わる内容として血液浄化療法の種類と適応について解説する。環境要因による障害では、気温・気圧の変化に伴う傷病、直接的な熱による障害である熱傷・電撃傷、その他、アナフィラキシー、感染症、窒息、縊頸、溺水など、救急医療で頻度の高い急病についての診断と治療について解説する。

(中村 保宏・笠島 敦子/3回) (共同)

中毒・環境要因による疾患における臓器病変の組織学的変化を概説する。

・放射線医学

(概要) X線検査法、X線CT検査法、核医学検査およびMRI (磁気断層影画像法) 検査法の測定原理を概説し、代表的な疾患の画像診断法の理解を深める。また、放射線治療のために必要とされる物理学・生物学的基礎の理解の上に、がんの治療法、効果および副作用について学ぶ。さらに放射線作業従事者の放射線防護、安全管理についても理解する。

(オムニバス方式/全30回)

(小山 周樹/20回)

呼吸器や消化器、脳神経系、泌尿器・生殖器、運動器、乳腺、内分泌系の代表的疾患における画像診断学および放射線治療の総論と代表的疾患における放射線治療の実際について学習する。

(福田 寛/6回)

核医学、PETの原理と臨床応用および非密封RIによる治療について学習する。また医療被曝や放射線防護と安全管理について理解する。

(兼任教員/4回)

脳腫瘍の画像診断、循環器系疾患の画像診断、循環器核医学および最新の放射線治療法について学ぶ。

・災害医療学

(概要) 災害医療学の講義では、災害医療全般 (トリアージ、医療や関連分野の災害支援チーム、広域災害救急情報システム、国際災害支援、CBRNE災害等) と、東日本大震災、熊本地震などの経験に基づく災害対応の実状や、東海地震、東南海地震などへの対応計画、病院の災害対応と事業継続計画など、医療者以外の動きや行政の災害対応など災害医療の現場をとりまく環境についても学習する。災害医療の概論を理解し、更に実災害時の状況を学ぶことで、災害医療に対する理解をより深める。

(オムニバス方式/全15回)

(遠藤 智之/5回)

災害医療概論、トリアージ、災害時疾病、Confined Space Medicine、CBRNE災害、被災者への長期的な影響など、災害医療の中でも急性期から慢性期にかけての医療的活動全般に関して学習する。

(佐藤 大/10回)

国や地域レベルでの行政の災害対応や、災害支援チーム、災害時の情報共有やコミュニケーション、避難所支援、事業継続計画など災害対応におけるシステム要因について、実災害時の活動を踏まえながら学習する。

・環境疾病学

(概要) 中毒と環境要因によって生じる疾患について、疫学、病態生理、症候、診断と治療など、基本的な内容に関して包括的に学習する。

(オムニバス方式/全15回)

(目時 弘仁/2回)

中毒・環境要因による疾病の疫学を学ぶ。

(遠藤 智之/9回)

中毒の症状に関わる内容として意識障害の鑑別、治療に関わる内容として血液浄化療法の種類と適応について学ぶ。環境要因による障害では、気温・気圧の変化に伴う傷病、直接的な熱による障害である熱傷・電撃傷、その他、アナフィラキシー、感染症、窒息、縊頸、溺水など、救急医療で頻度の高い急病についての診断と治療について学ぶ。

(中村 保宏/3回)

中毒・環境要因による疾患における臓器病変の組織学的変化を学ぶ。

(兼任教員/1回)

大気汚染物質が健康に及ぼす影響について実例をもとに学ぶ。

・乳房外科学

(概要) 乳房の正常構造と内分泌依存性の機能を理解し、主な乳房疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

(オムニバス方式／全15回)

(鈴木 昭彦／8回)

乳腺の発生と成長発達に伴う変化、正常乳房の構造と機能、乳汁分泌に関連するホルモンについて解説する。良性乳腺疾患(乳腺炎、乳腺症など)、悪性腫瘍(乳がん、悪性葉状腫瘍、肉腫)の症候と各種画像診断法、病理組織学的診断を概説する。

(朴 英進／7回)

乳がんの疫学、乳がん検診、病理診断、外科治療、薬物治療(ホルモン療法、化学療法、分子標的治療)、放射線治療に関して教授する。乳がんと遺伝子異常、遺伝性乳癌、遺伝子診断についても説明する。乳癌関連の特殊な病態、進行再発乳がんの治療戦略、乳癌の緩和治療に関して解説する。

・臨床検査学

臨床検査は、検体系(血液、遺伝子、生化学、微生物、免疫、病理学及び一般)検査、及び生理機能検査から構成され、客観的データに基づいた病態の解析や、診断および治療方針の決定、予後の判定に主要な役割を果たしている。さらに、臨床検査は、常に最新の医学進歩が導入され、現在の医学教育においてますます重要性を増しつつある。本講義では、このような臨床検査学全般にわたり、基礎的事項から、検査結果に基づく病態解析まで、総合的に幅広く学習する。

・臨床薬理学

合理的な薬物治療を達成するために必要とされる臨床的知識や考え方を学ぶ。これまでの薬理学講義で学んだ様々な薬物の薬理作用に関する知識を最大限活用し、その具体的な投与方法や副作用の回避方法、薬物動態、相互作用など薬物治療の基本を学ぶ。また処方箋の書き方やアドヒアランス、薬物治療において配慮が必要な妊産婦、小児、高齢者における薬物投与計画の立て方を修得する。さらには新規医薬品の開発プロセスや臨床試験の手法についても学ぶ。

・乳房外科学

(概要) 乳房の正常構造と内分泌依存性の機能を理解し、主な乳房疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

(オムニバス方式／全15回)

(鈴木 昭彦／6回)

乳腺の発生と成長発達に伴う変化、正常乳房の構造と機能、乳汁分泌に関連するホルモンについて学習する。良性乳腺疾患(乳腺炎、乳腺症など)、悪性腫瘍(乳がん、悪性葉状腫瘍、肉腫)の症候と各種画像診断法、病理組織学的診断を学習する。

(朴 英進／6回)

乳がんの疫学、乳がん検診、病理診断、外科治療、薬物治療(ホルモン療法、化学療法、分子標的治療)、放射線治療に関して学習する。乳がんと遺伝子異常、遺伝性乳癌、遺伝子診断についても学ぶ。乳癌関連の特殊な病態、進行再発乳がんの治療戦略、乳癌の緩和治療に関して学習する。

(渡部 剛／3回)

乳がんの外科治療、乳房再建、周術期薬物療法(ホルモン療法、化学療法、分子標的薬治療)、放射線治療に関して学習する。

・臨床検査学

(概要) 本科目では、検体(血液、遺伝子、生化学、微生物、免疫、病理学及び一般)検査、及び生理機能検査の検査法と検査結果が病態の解析や、診断および治療方針の決定、予後の判定に主要な役割を果たしている。

(オムニバス方式／全15回)

(高橋 伸一郎／14回)

臨床検査学全般にわたり、基礎的事項から、検査結果に基づく病態解析まで、総合的に幅広く学習する。

(賀来 満夫／1回)

微生物学検査の種類、検体の採取法、細菌などを対象とした検査法の実際、組織診・細胞診の実際を学ぶ。

・臨床薬理学

(概要) 合理的な薬物治療を達成するために必要とされる臨床的知識や考え方を学ぶ。これまでの講義で学んだ様々な薬物に関する知識を最大限活用し、その具体的な投与方法や副作用の回避方法、薬物動態、相互作用など薬物治療の基本を学ぶ。また薬物治療において配慮が必要な妊産婦、小児、高齢者、臓器障害患者における薬物投与計画の立て方を習得する。更には、臨床に必要な処方箋の書き方と服薬の基本、新規医薬品の開発プロセスや臨床試験についても学ぶ。

(オムニバス・共同(一部)／全15回)

(中村 正帆／7回)

薬物動態を元にした薬物投与計画、薬物動態学的・薬力学的薬物相互作用、薬物の動態と作用機序に関連する遺伝学、薬物有害反応、小児・妊産婦・高齢者・臓器障害患者など薬物治療において特別な配慮が必要な患者への処方について習得する。

(岡村 信行／5回)

臨床研究のデザインと倫理的指針、医薬品開発のプロセスにおける前臨床試験や臨床試験、法的規制について習得する。また臨床での薬物療法実践に必須である処方箋の書き方、服薬アドヒアランス、医薬品情報や安全性情報について、さらには漢方薬処方法の基礎についても学ぶ。

(山田 和男／1回)

精神科疾患を中心とした個別の臨床症例を通して、漢方薬の適応と効果や、副作用などの処方時に注意すべき点を習得する。

(岡村 信行・中村 正帆・兼任教員／2回)(共同)

模擬診療(ロールプレイ)を通して、薬物療法の適応や副作用、薬理学的作用機序、EBMを学ぶに留まらず、患者の思想的・経済的・社会的背景などを考慮した治療法の選択や、患者が理解しやすい説明方法、服薬アドヒアランスや治療効果を向上させるために必要な診療方法について習得する。

・腫瘍学

悪性腫瘍は本邦の死因のトップであり、がん診療のニーズはますます高くなっている。本講義においては、がん診療に必要なとされる広範な知識に関して包括的に学習する。がんの病態、病因、疫学、診断、治療など含む総論と各臓器別のエビデンスに基づく標準治療、集学的治療に関する各論をシリーズで学習することにより横断的な臨床腫瘍学を体系化する。また、がん診療に欠かせない診断時からの緩和医療に関して、疼痛コントロール、心理的サポートを含めて幅広く学習する。

・高齢者医学

老化に伴う精神的・心理的变化や臓器の構造・機能の変化を基本として、高齢者における疾患の病態・症候の特異性とその治療・リハビリテーションの特徴を学ぶ。また、地域医療ネットワーク病院と連携している介護施設および在宅医療を担う施設を見学（1泊2日）し、高齢者医療の実際と地域社会による高齢者支援の仕組みを理解する。

・腫瘍学

（概要）1981年以来、悪性腫瘍は本邦における死因の第一位であり、2007年にはがん対策基本法が施行された。がん診療は非常に需要が高く、社会的な期待も大きい分野である。本科目においては、がん診療に必要なとされる広範な知識を臓器横断的、包括的に学習する。がんの病態、病因、検診、診断、治療など含む総論と具体的な疾患のエビデンスに基づく標準治療、集学的治療に関する各論を縦糸と横糸として学習することにより臨床腫瘍学を体系的に修得する。また、がん診療に欠かせない診断時からの緩和医療に関して、疼痛コントロール、心理的サポートを含めて幅広く学習する。

（オムニバス方式／全15回）

（下平 秀樹／11回）

がんの病因、病態、診断、治療に関する理解を深め、特にがん薬物療法に関しては殺細胞性抗癌薬、分子標的治療薬、免疫学的治療などに分類し、臓器横断的に学習する。各論として、消化器癌、希少癌、原発不明癌などに焦点を当て理解する。

（吉村 成央／3回）

近年のがん治療を大きく前進させた個別化医療の概念と現状に関して、またがん診療に欠かせない支持療法、多職種によるチーム医療に関して学習する。

（佐川 元保／1回）

最も有効ながん対策のひとつである、早期発見につながるがん検診の概念と、現状に関して学習する。

・高齢者医学

（概要）加齢・老化に伴う精神的・心理的变化や臓器の構造・機能の変化、更には一身体としての変容を基本として、高齢者における疾患の病態・症候の特異性とその治療・リハビリテーションの特徴を学ぶ。また、高齢者医療の実際と地域社会による高齢者支援の仕組みを理解する。

（オムニバス・共同（一部）／全15回）

（古川 勝敏／10回）

加齢とは何か？という根源的な命題に始まり、老化学説、老化制御、加齢に伴う臓器の構造的・機能的変化を理解し、これによる予備能の低下等、患者にもたらされる生理的变化を理解する。またそれらの変化に対する予防、治療、リハビリテーションについても学習する。

（古川 勝敏・住友 和弘／1回）（共同）

加齢に伴う呼吸、循環の形態的、機能的変化について理解し、それに伴うCOPD、高血圧、心不全等の高齢者に起こりやすい疾患の診断、治療、予防、リハビリテーションについて理解する。

（古川 勝敏・藤川 祐子／1回）（共同）

加齢に伴う免疫機能の変化について理解し、それに伴う高齢者に罹患しやすい感染症について、その概念、原因、診断、治療、予防法、社会的取り組みについて理解する。

（兼任教員／3回）

健康と老化について客観的な統計データや具体的事象から学ぶ。加齢に伴う心身の変化をより良い変化としていくには何が必要かをディスカッションする。また、高齢者の終末期、看取りについて、医師が身に付けておくべき心構え、知識、具体的手順について理解する。

・臨床分子遺伝学

(概要) 分子遺伝学的な病態、診断および治療について、基礎的および臨床的知識を、症例を提示しながら概説する。

(オムニバス方式／全15回)

(木場 崇剛／5回)

近年、分子標的治療薬の開発によりがんの薬物療法は飛躍的に進歩した。本講義においては分子標的治療薬の種類、作用メカニズム、耐性機構から治療効果予測のためのバイオマーカーによる個別化医療に至るまで幅広く概説する。

(亀岡 淳一／5回)

遺伝疾患の患者の診療に必要とされる遺伝学総論(メンデル遺伝学、基礎分子生物学、免疫遺伝学、腫瘍生物学など)および各種血液疾患疾患における分子遺伝学的な病態、診断、治療及び再生医学について、基礎的および臨床的知識を、症例を提示しながら概説する。

(森本 哲司・小川 英伸／5回) (共同)

遺伝疾患各論(ダウン症候群などの先天異常症候群、先天性代謝異常、遺伝性神経疾患、家族性腫瘍、先天性血液疾患など)の解説に加えて、倫理的社会的問題(出生前診断、遺伝カウンセリングなど)についても概説する。

・移植医療学

(概要) 血液製剤の種類、適応、投与時の合併症と臓器移植の種類と適応、拒絶反応の病態生理と対応を学ぶ。また、脳死判定、安楽死と尊厳死の考え方を学ぶ。

(オムニバス方式／全15回)

(沖津 庸子／3回)

輸血療法の概要と輸血前検査、血液製剤の種類と輸血、輸血の実際と自己血輸血、輸血による副作用と対策、輸血に関わる法規、輸血と移植について学習する。

(近藤 丘／3回)

臓器移植医療の総論として、脳死判定、安楽死と尊厳死の考え方などの倫理面、臓器移植医療の歴史や法律、システムを概説する。肺移植の現状、種類と適応、合併症を解説する。

(森 建文／3回)

腎移植の現状、種類と適応、合併症を解説する。特に、拒絶反応については、組織適合性を含む病態生理や発症時の対応、免疫抑制剤(種類、適応、副作用)について解説する。

(専任補充／3回)

肝移植の現状、種類と適応、合併症を解説する。

(西郷 陽子／3回)

角膜移植の現状、種類と適応、合併症を解説する。

・臨床分子遺伝学

(概要) 分子遺伝学的な病態、診断および治療について、基礎的および臨床的知識を、症例を提示しながら修得する。

(オムニバス方式／全15回)

(下平 秀樹／4回)

近年、分子標的治療薬の開発やがんゲノム医療の進歩により、がん薬物療法において遺伝学的情報に基づく個別化医療が現実のものとなった。本科目においては分子標的治療薬の種類、作用機序、耐性機構、治療効果予測のためのバイオマーカー、がんゲノム医療の現状と展望に関し学習する。また、遺伝医療における倫理や遺伝医学関連情報の利用法に関しても学習する。

(目時 弘仁／4回)

遺伝疾患の患者の診療に必要とされる遺伝学総論(メンデル遺伝学、基礎分子生物学、免疫遺伝学、集団遺伝学など)を学ぶ。また、臨床遺伝学に必要なスキルとして家系図の書き方を習得し、代表的な多因子疾患を例にとり環境因子と遺伝因子に関して理解する。

(森本 哲司／1回)

遺伝疾患各論(ダウン症候群などの先天異常症候群、先天性代謝異常、遺伝性神経疾患、家族性腫瘍、先天性血液疾患など)を学ぶ。

(高橋 伸一郎／1回)

遺伝学的検査の概念と実際に関して、病原体遺伝子検査や体細胞遺伝子検査も含めて理解する。

(亀岡 淳一／1回)

染色体異常に起因する各種血液疾患に関して、分子遺伝学的な病態、診断、治療及び再生医学など基礎的および臨床的知識を、症例を通じて学習する。

(渡部 洋／1回)

体外受精・胚移植など生殖補助医療は不妊治療において重要な位置を占めている。生殖医療の方法、種類、適応から生命倫理に至るまでを習得する。

(酒井 啓治／1回)

胎児を対象とし疾患の診断や状態の評価を行う出生前診断に関して、その方法、種類、適応、問題点、生命倫理的側面に関して学習する。

(兼任教員／2回)

遺伝カウンセリングの概念、目的、方法に関し学習し、ロールプレイを含めた体験を通じて実際のスキルを習得する。

・移植医療学

(概要) 血液製剤の種類、適応、投与時の合併症と臓器移植の種類と適応、拒絶反応の病態生理と対応を学ぶ。また、脳死判定、安楽死と尊厳死の考え方を学ぶ。

(オムニバス・共同(一部)／全15回)

(沖津 庸子／3回)

輸血療法の概要と輸血前検査、血液製剤の種類と輸血、輸血の実際と自己血輸血、輸血による副作用と対策、輸血に関わる法規、輸血と移植について学習する。

(近藤 丘／3回)

臓器移植医療の総論として、脳死判定、安楽死と尊厳死の考え方などの倫理面、臓器移植医療の歴史や法律、システムを学習する。また、肺移植の現状、種類と適応、合併症を学ぶ。

(森 建文／3回)

腎移植の現状、種類と適応、合併症を学ぶ。特に、拒絶反応については、組織適合性を含む病態生理や発症時の対応、免疫抑制剤(種類、適応、副作用)について理解する。

(片寄 友・村上 圭吾／3回) (共同)

肝移植の現状、種類と適応、合併症を学ぶ。

(西郷 陽子／3回)

角膜移植の現状、種類と適応、合併症を学ぶ。

・症候学

(概要) 主な症候・病態の原因、分類、診断と治療の概要を、発達、成長、加齢ならびに性別と関連づけて解説する。取り上げる症候は「発熱」「頭痛」「胸痛」「腹痛」「めまい」「黄疸」「体重減少」「血尿」など多岐にわたる。各症候を下記のように分担して教授する。

(オムニバス方式／全45回)
(片平 美明・小丸 達也／5回) (共同)
「ショック」「浮腫」「動悸」「胸痛」

(大類 孝・海老名 雅仁／6回) (共同)
「チアノーゼ」「胸水」「呼吸困難」「咳・痰」「血痰・喀血」

(佐藤 賢一・山本 毅／9回) (共同)
「全身倦怠感」「腹痛」「悪心・嘔吐」「嚥下困難・障害」「食欲不振」「便秘・下痢」「吐血・下血」「腹部膨隆・腫瘍」

(赤井 裕輝／2回)
「脱水」「肥満・やせ」

(亀岡 淳一・小寺 隆雄／6回) (共同)
「発熱」「貧血」「リンパ節腫脹」「蛋白尿」「血尿」

(中島 一郎／2回)
「意識障害・失神」

(中川 誠秀・吉村 淳／2回) (共同)
「けいれん」「頭痛」

(森本 哲司・小川 英伸／3回) (共同)
「発疹」「出血傾向」

(小澤 浩司／4回)
「運動麻痺・筋力低下」「関節痛・関節腫脹」「腰背部痛」

(高橋 秀肇／2回)
「黄疸」

(東海林 史／2回)
「めまい」

(渡部 洋／1回)
「月経異常」

(森 建文・佐藤 信／1回) (共同)
「尿量・排尿の異常」

校舎等施設の整備計画

附属病院

(1) 現附属病院の概要(平成26年4月現在)

- ① 所在地 仙台市宮城野区福室一丁目12-1
- ② 施設規模
敷地面積36,440.53㎡、建物延床面積27,880.77㎡
- ③ 病床数466床、22診療科目
- ④ 患者数 年間外来 172,004 人、同入院 121,307 人
- ⑤ 職員数：718 名。内訳：医師 84.7 名、歯科医師 1 名、看護要員 378.5 名、薬剤師 29 名、その他のメディカル・スタッフ 107.3 名、事務職員 51 名、医療クランク 18 名、その他 48.5 名

⑥ 診療科(22診療科)内訳：内科(総合診療科)、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、神経内科、糖尿病内科、精神科、腫瘍内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、整形外科、泌尿器科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、放射線科、麻酔科、歯科、リハビリテーション科、リウマチ科

・症候学

(概要) 主な症候・病態の原因、分類、診断と治療の概要を、発達、成長、加齢ならびに性別と関連づけて学習する。取り上げる症候は「発熱」「頭痛」「胸痛」「腹痛」「めまい」「黄疸」「体重減少」「血尿」など多岐にわたる。各症候を下記のように分けて学習する。

(オムニバス・共同(一部)／全45回)
(小丸 達也・熊谷 浩司／5回) (共同)
「ショック」「浮腫」「動悸」「胸痛」

(大類 孝・海老名 雅仁・中村 豊／6回) (共同)
「チアノーゼ」「胸水」「呼吸困難」「咳・痰」「血痰・喀血」

(佐藤 賢一・廣田 衛久／9回) (共同)
「全身倦怠感」「腹痛」「悪心・嘔吐」「嚥下困難・障害」「食欲不振」「便秘・下痢」「吐血・下血」「腹部膨隆・腫瘍」

(赤井 裕輝／2回)
「脱水」「肥満・やせ」

(亀岡 淳一・小寺 隆雄／6回) (共同)
「発熱」「貧血」「リンパ節腫脹」「蛋白尿」「血尿」

(中島 一郎／2回)
「意識障害・失神」

(中川 誠秀・吉村 淳・山田 和男／2回) (共同)
「けいれん」「頭痛」

(森本 哲司／3回)
「発疹」「出血傾向」

(小澤 浩司／4回)
「運動麻痺・筋力低下」「関節痛・関節腫脹」「腰背部痛」

(高橋 秀肇／2回)
「黄疸」

(東海林 史／2回)
「めまい」

(渡部 洋／1回)
「月経異常」

(森 建文・佐藤 信／1回) (共同)
「尿量・排尿の異常」

(1) 現附属病院の概要

・(1) 東北医科薬科大学病院の概要(平成28年5月1日現在。患者数は平成27年度実績)

- ① 変更なし
- ② 変更なし
- ③ 病床数466554床、2933診療科目
- ④ 患者数

平成27年度：年間外来 164,928 人、同入院 106,798 人
平成28年度：年間外来 178,085 人、同入院 122,054 人

(1日平均 外来 733人、同入院 334人)
平成29年度：年間外来 189,515 人、同入院 133,791 人
(1日平均 外来 777人、同入院 367人)

平成30年度：年間外来 199,223 人、同入院 132,512 人
(1日平均 外来 817人、同入院 363人)

⑤ 職員数

平成27年度：780 名。内訳：医師 115 名、歯科医師 2 名、看護要員 402 名、薬剤師 36 名、その他のメディカル・スタッフ 115 名、事務職員 65.8 名、医療クランク 21 名、その他 23.2 名

平成28年度：909.1人。内訳：医師 144.5 名、歯科医師 2 名、看護要員 456.2 名、薬剤師 42 名、その他のメディカル・スタッフ 133.1 名、事務職員 76.8 名、医療クランク 33 名、その他 21.5 名

平成29年度：976.9人。内訳：医師 181.0 名、歯科医師 2 名、看護要員 477.7 名、薬剤師 43.0 名、その他のメディカル・スタッフ 139.7 名、事務職員 69.0 名、医療クランク 34.0 名、その他 30.5 名※看護要員に看護助手を含む

平成30年度：1,067人。内訳：医師 202.0 名、歯科医師 3 名、看護要員 528.6 名、薬剤師 47.0 名、その他のメディカル・スタッフ 151.8 名、事務職員 72.1 名、医療クランク 28.0 名、その他 34.5 名※看護要員に看護助手を含む

⑥ 診療科(2933診療科)内訳：内科(総合診療科)、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腫瘍内科、糖尿病代謝内科、腎臓内分泌内科、脳神経内科、感染症内科、緩和ケア内科、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、ペインクリニック外科、精神科、血液・リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科、麻酔科

・東北医科薬科大学 若林病院
 所在地 仙台市若林区大和町二丁目29番1号
 病床数 **199111床(うち入院ドック用12室)**
 患者数 入院141人 平成27年度 (1日平均)
 外来541人
 平成28年度：年間外来 129,070 人、同入院 53,062 人
 (1日平均 外来 529人、同入院 145人)
 平成29年度：年間外来 127,816 人、同入院 51,488 人
 (1日平均 外来 524人、同入院 141人)
平成30年度：年間外来 125,230 人、同入院 44,675 人
(1日平均 外来 513人、同入院 122人)
 職員数 358351.3人(平成28年5月1日)
 (内訳) 医師3433.7人、歯科医師2人、薬剤師9人、
 医療技術者65人、看護師看護要員176198.6人、
 事務員32人、医療クレーク11名
 職員数 344.1人(平成29年5月1日)
 (内訳) 医師32人、歯科医師2人、薬剤師9人、
 医療技術者68.6人、看護要員181.9人、
 事務員42.832.8人、医療クレーク10名、その
 他7.8人
 職員数 318.2人(平成30年5月1日)
 (内訳) 医師34.2人、歯科医師2人、薬剤師9人、
 医療技術者62.7人、看護要員165.1人、
 事務員29.4人、医療クレーク11名、その他4.8人
 ※看護要員に看護助手を含む
職員数 293.2人(平成31年5月1日)
(内訳) 医師35.1人、歯科医師2人、薬剤師7人、
医療技術者61.7人、看護要員142.8人、
事務員27.6人、医療クレーク11名、その他6人
※看護要員に看護助手を含む
 診療科(2223診療科)内訳：内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内
 科、循環器内科、糖尿病内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ科、外
 科、乳腺外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽
 喉科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外
 科、**精神科**

・東北医科薬科大学 名取守病院
 所在地 宮城県名取市増田1丁目9-12
 病床数 療養病床 62床
 患者数 年間外来 8,723 人、同入院 9,361 人
 (1日平均 外来 52人、同入院 44人)
 ※平成29年9月開院(7ヶ月実績)
平成30年度：年間外来 15,130 人、同入院 19,565 人
(1日平均 外来 52.7人、同入院 53.6人)
 職員数 48.2人(平成30年5月1日)
 (内訳) 医師3.1人、薬剤師2.1人、
 医療技術者3.2人、看護要員28.2人、
 事務員9.3人、その他2.3人
 ※看護要員に看護助手を含む
51.6人(平成31年5月1日)
(内訳) 医師3.1人、薬剤師2.1人、
医療技術者3.1人、看護要員32.0人、
事務員9.6人、その他1.7人
※看護要員に看護助手を含む
 診療科(3診療科)内訳：内科、循環器内科、呼吸器内科

平成28年4月に第3附属病院の譲受けは完了し「東北医科薬科大学 若林
 病院」として開設し、第2附属病院は平成29年9月に譲受けし、「東北医
 科薬科大学 名取守病院」として開設した。
 また、学生の臨床教育に間に合うよう既存病院棟に隣接する形で新病
 院棟の建設も進め、平成31年4月から使用を開始した。それに併せ若林病
 院から本院へ病床を移動(88床)し、本院554床、若林病院111床、名取
 守病院62床となっている。また、令和2年9月には、名取守病院から本院
 へ病床を移動し、本院の診療機能を強化する予定である。

4) 診療要員の確保
 臨床系教員の令和3年度までの採用予定者数は186名(附属病院からの
 登用を含む)であり、これに東北医科薬科大学病院で診療のみに従事す
 る医師20名、東北医科薬科大学若林病院の医師16名、**東北医科薬科大学**
名取守病院の医師3名を合わせ、現時点で**225名**の医師を確保している。

(2) 整備計画

3) 増床計画

平成28年度から仙台医療圏にある2病院を譲り受ける計画で、それぞ
 れ基本合意書を締結し協議を進めている。これらの病院は、医学部設置
 当初は、第2附属病院、第3附属病院として運営した上で、平成30年度
 の新病棟完成時に、600床程度の本院(現附属病院)と130床程度の分
 院及び無病床診療所に整理統合する。

4) 診療要員の確保

臨床系教員の採用予定者数は136名(附属病院からの登用を含む)であ
 り、これに附属病院で診療のみに従事する医師32名、譲渡を受ける予定
 の病院の医師39名(希望する従業員全てを引き受ける予定)を合わせ、
 現時点で207名の医師を確保している。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・ 全学のFD・SDを所掌する組織として、FD・SD推進委員会が設置されている。
- ・ FD・SD推進委員会の下部組織として医学部会を設置し、医学部特有の教育方針や問題意識から浮かび上がる課題に対応する体制とした。【下記に「FD・SD推進委員会規程」転載】

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 平成30年度のFD・SD推進委員会医学部会は、3回開催された。
- ・ 他に、連携してFDの内容を提案する委員会として、教務委員会兼医学教育推進センター運営委員会（教育カリキュラム、シラバスの全体的評価に基づく教育内容及び教育方法等の改善検討を担当）が13回開催された。

【FD・SD推進委員会医学部会】

- ・ 平成30年度 第1回 平成30年5月23日開催 出席者：7名／委員8名中
- ・ 平成30年度 第2回 平成30年10月4日開催 出席者：7名／委員8名中
- ・ 平成30年度 第3回 平成31年3月6日開催 出席者：8名／委員8名中

【教務委員会 兼 医学教育推進センター運営委員会】

- ・ 平成30年度 第1回 平成30年4月9日開催 出席者：20名／委員23名中
- ・ 平成30年度 第2回 平成30年5月7日開催 出席者：21名／委員23名中
- ・ 平成30年度 第3回 平成30年6月11日開催 出席者：19名／委員24名中
- ・ 平成30年度 第4回 平成30年7月9日開催 出席者：22名／委員24名中
- ・ 平成30年度 第5回 平成30年8月22日開催 出席者：21名／委員24名中
- ・ 平成30年度 第6回 平成30年9月10日開催 出席者：21名／委員24名中
- ・ 平成30年度 第7回 平成30年10月9日開催 出席者：20名／委員24名中
- ・ 平成30年度 第8回 平成30年11月12日開催 出席者：19名／委員24名中
- ・ 平成30年度 第9回 平成30年12月10日開催 出席者：20名／委員24名中
- ・ 平成30年度 第10回 平成31年1月9日開催 出席者：20名／委員24名中
- ・ 平成30年度 第11回 平成31年2月12日開催 出席者：20名／委員24名中
- ・ 平成30年度 第12回 平成31年3月4日開催 出席者：21名／委員24名中
- ・ 平成30年度 第13回 平成31年3月18日開催 出席者：18名／委員24名中

c 委員会の審議事項等

- ・ FD・SD活動の企画立案
- ・ FD・SD活動の実施計画の立案
- ・ FD・SD活動の評価
- ・ FD・SD活動に関する情報の収集と提供
- ・ 各学部の部会の活動に関する事項

② 実施状況

a 実施内容、 b 実施方法、 c 開催状況（教員の参加状況含む）

(1) 研修会、講演会の開催

平成31年度実施予定の医学系共用試験に関する準備のため、医学部会と学内の関係する委員会が連携して、下記のFD研修会を開催した。

- ・ 平成30年7月7日
テーマ「OSCE評価者養成FD（第2回）」
講師 本学医学部教員／教授 太田伸男、教授 古川勝敏、准教授 藤井喜充
参加者：18名
- ・ 平成30年12月1日
テーマ「OSCE評価者養成FD（第3回）」
講師 本学医学部教員／教授 太田伸男、教授 古川勝敏、教授 佐藤賢一
参加者：22名
- ・ 平成31年2月2日
テーマ「OSCE評価者養成FD（第4回）」
講師 本学医学部教員／医学教育推進センター 副センター長 亀岡淳一、教授 古川勝敏、准教授 藤井喜充
参加者：22名

情報資産に対するリスクを低減するため、今後取り組むべき対応の方法や情報セキュリティ対策の重要性に関する研修会を開催した。

- ・ 平成31年2月25日、26日、27日
テーマ「情報セキュリティ内部監査で顕在化した脆弱性とその対策について」
講師 (株)サンネット 情報セキュリティ研究所 所長 小田部 昭 氏
参加者：80名

(2) 新任教職員のための研修会

平成31年4月採用の教員を対象に平成31年3月16日に教員説明会を開催し、学部長・病院長・医学教育推進センター長から医学部の設置趣旨・目的・使命・教育概要等について説明を行った（10名参加）。また、入職後すぐの平成31年4月1日に全学教育懇談会を開催し、学長・学部長等から大学の運営方針・事業計画などについて説明を行った。

(3) 医学部におけるFD・SDの基本方針の策定
医学部独自の使命及び教育目的を達成するために、以下の基本方針を策定し、部会の活動内容を具体化した。

1. 東北地方の地域医療を支える総合診療医の育成という本学医学部の使命を教職員に啓蒙するための活動
2. 医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂や医学教育分野別評価基準への準拠等、新しい医学教育の流れに関する情報を共有するための活動
3. 教員支援プログラム及び学生の学修支援プログラムの開発に関する活動
4. 教育評価（教員自身または相互の教授法評価、学生による教員の授業評価等）に関する活動
5. その他、医学部の教育目的達成に資する活動

(4) 教員個人評価 等

平成28年度から、教員の任期に係る再任審査あるいは昇任審査の資料として、毎年度末に教員個人の業績の提出を求めている。（業績の項目としては以下のとおり）業績等をチェックする体制として、平成30年度は「医学部教員個人の自己点検評価委員会」を5回開催した。また、平成31年2月22日に平成30年度医学部教員個人の自己点検評価に関する説明会を開催した（32名参加）。

【主な評価項目】

①教育、②研究、③診療、④管理運営、⑤社会貢献

【医学部教員個人の自己点検評価委員会】

- ・平成30年度 第1回 平成30年6月20日開催 出席者：5名／委員7名中
- ・平成30年度 第2回 平成30年7月27日開催 出席者：6名／委員7名中
- ・平成30年度 第3回 平成30年9月21日開催 出席者：5名／委員7名中
- ・平成30年度 第4回 平成30年11月6日開催 出席者：6名／委員7名中
- ・平成30年度 第5回 平成31年1月11日開催 出席者：7名／委員7名中

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

授業改善については、学生による授業アンケートの結果を単にフィードバックするだけでなく、その内容を医学教育推進センターがチェックして、各授業担当者に適切なアドバイスを行っている。また、シラバスについて、医学教育推進センター運営委員会が作成途中の原稿をもとに、記述された各科目の授業計画・内容が、本医学部が重視している基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の各領域間の関連付け（水平的統合または垂直的統合）されたものであるか、設定された各コンピテンシーの達成レベルが適切かどうかを重点的に確認している。

【転載資料：「FD・SD推進委員会規程」】

○FD・SD推進委員会規程（平成21年6月1日制定）改正 平成22年4月1日 平成26年4月1日 平成28年4月1日

（目的）

第1条 東北医科薬科大学における学部・大学院の授業改善その他のファカルティー・ディベロップメント（以下「FD」という。）活動及び事務職員等の職能開発（スタッフ・ディベロップメント（以下「SD」という。））を推進するためにFD・SD推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（構成）

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 薬学研究科長
 - (2) 学部長
 - (3) 教養教育センター長
 - (4) 各学部の学生委員会委員長、教務委員会委員長
 - (5) 薬学教育センター長
 - (6) 医学教育推進センター長
 - (7) 事務局長
 - (8) その他学長が必要と認めた者
- 2 委員会に、委員長を置き、委員長は学長が指名する。
3 委員会に、部局等のFD・SD活動を推進するための部会を設け、専門委員を置くことができる。
4 前項に定める専門委員は、学部長の選任により、委員長が任命する。

（役割）

第3条 委員会は、本学のFD・SD活動が持続的に実行されるよう、次の事項について審議するとともに、各年度におけるFD・SD活動の推進機能を併せもつものとする。

- (1) FD・SD活動の企画並びに実施
- (2) FD・SD活動の実施計画の立案
- (3) FD・SD活動の評価
- (4) FD・SD活動に関する情報の収集と提供
- (5) 部会の活動に関する事項
- (6) その他学長の諮問する事項

（会議）

第4条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。ただし、あらかじめ委員長が委員の中から指名する者をもって代理とすることができる。

2 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の者を出席させることができる。

（事務局）

第5条 委員会の事務局は、教務課及び企画課が担当する。

（規程の改廃）

第6条 この規程の改廃は、委員会の発議により、学長の承認を得て理事会の議を経て決定する。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

授業改善を目的とした学生による授業アンケートをマークシート形式で、前期・後期の期別に実施した。
（実施時期：各授業科目の最終回）

b 教員や学生への公開状況、方法等

調査結果は、各授業科目担当者にフィードバックするとともに、医学部教授会に報告された。また、学生に対しては掲示板にて結果概要を周知した。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

医学部は、復興庁、文部科学省、厚生労働省の3省庁合同による医学部設置認可に関する基本方針（平成25年12月17日）「震災からの復興、今後の超高齢化と東北地方における医師不足、原子力事故からの再生といった要請を踏まえつつ、将来の医師需給や地域医療への影響も勘案し、東北地方に1校に限定して、一定の条件を満たす場合に医学部新設について認可を行うことを可能とする。」ことを趣旨として、認可されたものである。従って、本学医学部は、東北地方における医師不足、医療崩壊の現状を踏まえて、被災地域の復旧・復興の核となり、東北地方の医療を将来にわたって担い、超高齢化社会における地域医療提供体制の構築に資することをミッションとし、このため、医療過疎に直面している東北地方に定着し、地域医療・災害医療に貢献できる医師を養成する。

学生の募集に当たっては、地域医療への貢献に熱意を持った学生に志願してもらうため、本医学部の設置の趣旨・目的について、説明会、ホームページなどにより周知を図り、関係各方面の理解を得よう努めた。今後においても、医学部の設置の趣旨・目的を理解してもらうため、大学紹介、各種説明会、学校訪問などを積極的、継続的に行っていく必要があると考えている。

学生教育を下支えする環境面の整備については順調に進んでおり、1年次前期から大学外の医療機関等を訪問して行う「早期医療体験学習」、各県行政担当者に講師をお願いする「大学基礎論」などで、医師会、薬剤師会、医療機関、行政関係部署等の協力が得られ、順調に授業が進んでいる。後期に行われる体験学習や、本年度以降のプログラム実施を進める上でも見通しが得られた。学生の解剖学実習（2年次前期）に必要な献体の確保については、東北大学白菊会から医学教育に関する深いご理解をいただき、本学も同会に参画している。東北大学との間でも、献体関連業務、行事関係でも協力が得られ、学生の実習も順調に進んでいる。

医学部の1、2年次は、薬学部のある小松島キャンパスで過ごす。3年次からは附属病院に隣接する福室キャンパスの教育研究棟で、授業を受講する（教育研究棟は計画どおり竣工した）。また、学生の臨床教育に間に合うよう並行して、新病院棟（150床。既存病院等とあわせて600床規模の附属病院となる。）の建設も進め、平成31年4月から運用を開始した。

また、卒後に医師として地域定着を図るための方策として構想した、学外の地域医療ネットワーク病院（宮城県9病院、他の東北5県各2病院、計19病院）について、各病院の協力が得られることになり、長期臨床実習の場として活用できることになっている。このほか、宮城県には、本学の出先となる地域医療教育サテライトセンター（登米市、石巻市）を設置し、4週間の地域医療教育も行う体制も整いつつある。さらに、卒後の地域定着策の一つである卒後研修・キャリア形成支援の体制として、卒後研修支援センター及び地域医療総合支援センターを立ち上げた。

設置構想においては、様々な検討課題を抱えていたが、その後検討を重ねながら、関係方面の理解、支援を得るなど準備を進め、現段階では概ね計画どおり進捗していると考えている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

本学の自己点検・評価は、全学の自己点検・評価委員会が統括しており、年度ごとに策定する事業計画について、各部署において諸活動の点検・評価を行い、全学の自己点検・評価委員会に報告する。年度途中において、一旦、実施項目について進捗状況の点検・評価を行ったうえで、さらに年度末近くに最終的な点検・評価をまとめ、これを次年度の事業計画に反映させている。医学部の運営については、大学本部、薬学部、附属病院等、他部署との関わりがあることから、全学の点検・評価体制の中で、PDCAサイクルを回している。点検・評価の報告は、事業報告書及び事業計画としてまとめ、理事会の承認を得て、年度はじめに公表している。

b 公表方法

自己点検・評価に基づく学部計画・本学報告書は、役員・教職員に配付し、ホームページにも掲載している。

③ 認証評価を受ける計画

大学としては、大学機関別認証評価（日本高等教育評価機構）を平成25年度に受審し、大学評価基準に適合していると認定されている。

また、新設医学部の制度設計にあたり、医学教育分野別評価基準日本版の項目を参照しており、国際基準に基づく医学部医学科分野別認証評価を受審するため、学年進行に合わせて準備を進める。（受審時期は、未定）

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 2019 年 10 月 末 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ 該当なし ）

（注） ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。